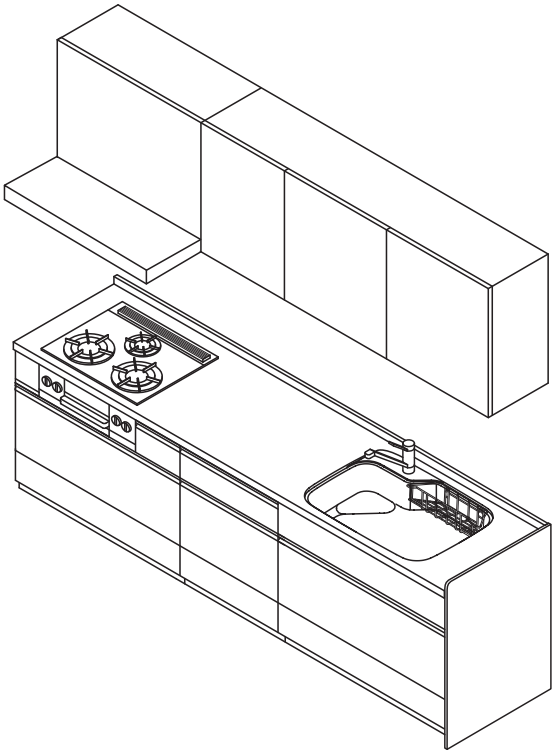
クリナップ®
キッチンから、笑顔をつくろう

システムキッチン
取扱説明書　保証書付

STEDIA
ステディア



このたびは、クリナップ商品をご購入いただきまして誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全に長い間ご使用いただくために、注意事項やお手入れ方法についてまとめたものです。
ご使用前に必ずお読みいただき、以後も手近に保管し、ご活用ください。

もくじ・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
ご利用の前に・・・・・・・・・・・・・・4
安全上の注意・・・・・・・・・・・・・・8
キッチン全体の使い方・・・・・・・・21
調理アイテムの使い方・・・・・・・・23
収納アイテムの使い方
- キャビネット ・・・・・ 34
- 吊戸棚 ・・・・・・・・・ 54
- キッチン周辺収納 ・・・ 62
- キッチン対面収納 ・・・ 68
その他部材・・・・・・・・・・・・・・70
アクセサリーパーツのご案内・・・・73
こんなときは・・・・・・・・・・・・・78
保証書・・・・・・・・・・・・・・・・・79

※左のコードは、下記の番号を意味しています。
商品に関する情報にはアクセスできません。

W103111000

2111A-80-01

STEDIAの特徴

STEDIA は、使いやすさと収納力を兼ね備えたシステムキッチンです。料理する、片付ける、お掃除する…それぞれの場面でお客様のキッチンライフが笑顔で包まれる様々な特徴があります。

清潔で丈夫なステンレスキャビネット

ステンレスはさびにくく、カビがつきにくい衛生的な素材です。また、熱や衝撃にも強いので、水や火を使うキッチンのキャビネットには最適です。

参照 3.1. キッチン全体の使い方　P.21 ～ P.22

傷がつきにくいエンボス加工の美コートワークトップ、ステンレスシンク

美コートワークトップ、ステンレスシンクには傷がつきにくく、目立ちにくいエンボス加工を施しています。

参照 4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク　P.23 ～ P.30

セラミックワークトップ

素材特有の色柄の美しさと耐久性が魅力です。変色・熱・傷・汚れに強い磁器、ガラス、天然水晶などの素材で構成されています。

参照 4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク　P.23

美コートワークトップ、ステンレスシンクはセラミック系特殊コーティング

美コートワークトップ、ステンレスシンクにはしつこい汚れも簡単に落とせる、特殊コーティングを施しています。

参照 4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク　P.23 ～ P.30

足元のスペースを有効に使える“フロアコンテナ”

クリナップが開発した、自慢の足元収納スペースです。置き場所に困りがちなストック品や、季節使いの調理器具をまとめてしまっておけます。

もくじ

本書について

- キッチンには様々な形状のものがあるため、お客様がご利用の商品と異なる場合があります。
- 本書では、使用上支障のない範囲で略図を使用しています。
- シンクやキャビネットなどのアイテムごとに構成しています。各アイテムに関するページには、「使用上の注意」「お手入れのしかた」などの情報を記載しています。
- 「Q&A」にはお客様からよくあるお問い合わせをまとめています。疑問点、不明点がある場合にご覧ください。

1. ご利用の前に
1.1. 各アイテムのなまえ 4
1.2. お手入れスケジュール 6
1.3. 定期的な点検 7

2. 安全上の注意
2.1. 安全上の注意 8
2.2. 重量に関する規定 18

3. キッチン全体の使い方
3.1. キッチン全体の使い方 21

4. 調理アイテムの使い方
4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク . . 23
4.2. 排水口周り 31

5. 収納アイテムの使い方 - キャビネット
5.1. キャビネットの収納例 34
5.2. 包丁差し 36
5.3. スライドボックス 42
5.4. コーナーキャビネット（ワゴンタイプ） . . 44
5.5. ボトル収納スライドキャビネット 45
5.6. 網カゴスライドキャビネット 46
5.7. 開き扉・引出し・棚板・点検口 47

6. 収納アイテムの使い方 - 吊戸棚
6.1. 使用上の注意、お手入れのしかた 54
6.2. ムーブダウン吊戸棚、スライドパントリー（ムーブダウンタイプ） . 55
6.3. プルダウン吊戸棚 56
6.4. ハンドムーブ 58
6.5. アイエリアボックス 61

7. 収納アイテムの使い方 - キッチン周辺収納
7.1. スライドパントリー 62
7.2. ステップコンテナ 63
7.3. リサイクルゴミワゴン 65
7.4. 家電収納庫 66
7.5. 扉付トール家電収納庫 67

8. 収納アイテムの使い方 - キッチン対面収納
8.1. デュアルトップ対面　ハイタイプ上台 . . . 68
8.2. デュアルトップ対面　デスクタイプ 69

9. その他部材
9.1. プッシュラッチ・扉開放防止部品・コーナーアングル . 70
9.2. フロントスクリーン 70
9.3. 照明器具 71
9.4. 壁パネル 71

10. アクセサリーパーツのご案内
10.1. シンクアクセサリーパーツ 73
10.2. 引出しオプションパーツ 74
10.3. 便利アイテム 76

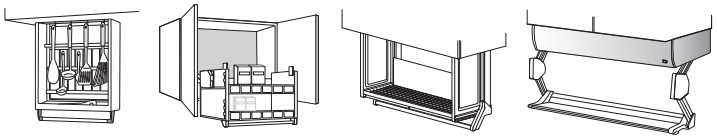
11. こんなときは
11.1. Q＆A 78

保証書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79

1.1. 各アイテムのなまえ

収納アイテム

吊戸棚



プルダウン　ムーブダウン　ハンドムーブ　アイエリアボックス

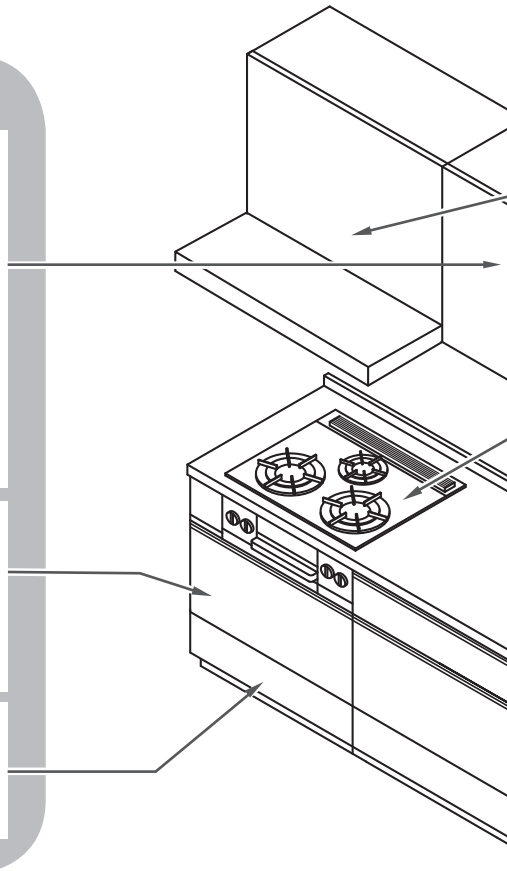
参照
- 安全上の注意：吊戸棚　P.13
- 重量に関する規定：プルダウン吊戸棚、ムーブダウン吊戸棚、ハンドムーブ、アイエリアボックス　P.19
- 使い方：収納アイテムの使い方－吊戸棚　P.54 ～ P.61

キャビネット

参照
- 安全上の注意：キャビネット　P.10 ～ P.11
- 重量に関する規定：キャビネット、棚板　P.18
- 収納例：キャビネットの収納例　P.34 ～ P.35
- 使い方：キャビネット　P.34 ～ P.53

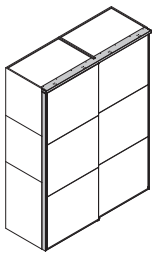
フロアコンテナ

参照
- 安全上の注意：キャビネット　P.12
- 収納例：キャビネットの収納例　P.34 ～ P.35



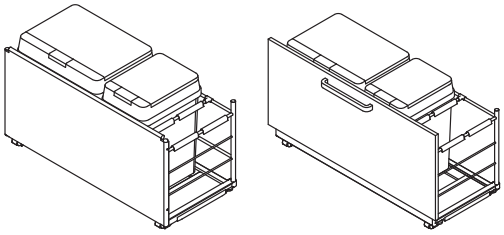
各アイテムの名称と参照先は、図のとおりです。

キッチン周辺収納



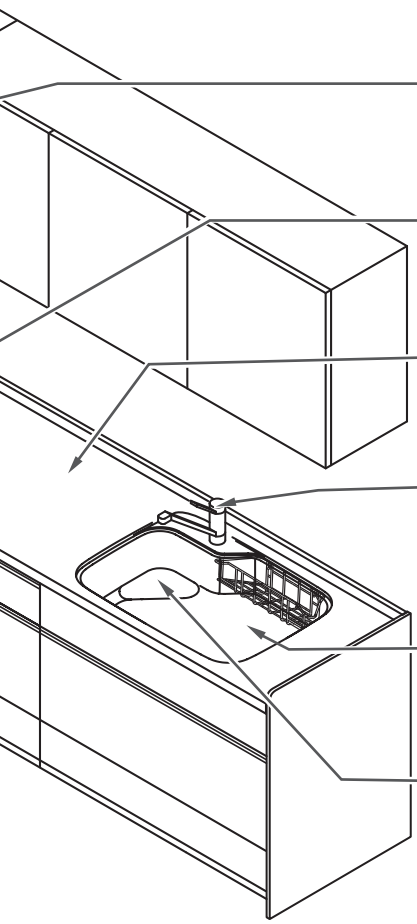
スライドパントリー

参照
- 安全上の注意：キッチン周辺収納　P.15
- 重量に関する規定：キッチン周辺収納　P.18
- 使い方：スライドパントリー　P.62



リサイクルゴミワゴン

参照
- 安全上の注意：キャビネット　P.11
- 重量に関する規定：キッチン周辺収納　P.18
- 使い方：リサイクルゴミワゴン　P.65



調理アイテム

レンジフード
参照 ・使い方：別冊の専用取扱説明書をご覧ください。

調理機器
参照 ・安全上の注意：調理機器・組込機器類　P.9
・使い方：別冊の専用取扱説明書をご覧ください

ワークトップ
参照 ・使い方：ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク　P.23 ～ P.30

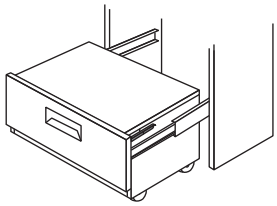
水栓
参照 ・安全上の注意：水栓　P.10
・使い方：別冊の専用取扱説明書をご覧ください

シンク
参照 ・安全上の注意：シンク　P.9
・使い方：ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク　P.23 ～ P.30

排水口
参照 ・使い方：排水口周り　P.31 ～ P.33

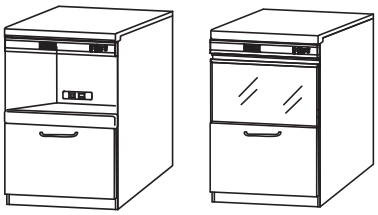
取扱い方法・お手入れに関する動画は、こちらの 2 次元コードからご覧ください。

※取扱い方法、お手入れの動画がない商品・部位もございます。
※利用いただく際に発生する通信料などは、お客様のご負担となりますので、予めご了承ください。



ステップコンテナ

参照
・安全上の注意：ステップコンテナ　P.14
・重量に関する規定：キッチン周辺収納　P.18
・使い方：ステップコンテナ　P.63 ～ P.64



家電収納庫

参照
・安全上の注意：扉付家電収納庫　P.14
・重量に関する規定：キッチン周辺収納　P.18
・使い方：家電収納庫　P.66

扉付トール家電収納庫

参照
・安全上の注意：扉付トール家電収納庫　P.14 ～ P.15
・重量に関する規定：キッチン周辺収納　P.18
・使い方：扉付トール家電収納庫　P.67

お手入れスケジュールのすすめ

- 毎日使うキッチンは、こまめなお手入れが欠かせません。次のスケジュールを参考に、お客様の生活に合わせたお手入れ計画を立ててください。
- 調理機器、レンジフード、水栓、浄水器などの関連機器商品について詳しい内容は、別冊の専用取扱説明書をご覧ください。

年間お手入れスケジュール例

期　間	お手入れ内容
毎日	• ワークトップ（カウンター類を含む）：水滴などの軽い汚れを拭き取る。 • シンク：スポンジに中性洗剤をつけて洗う。 • 排水口：浅型カゴにたまったゴミを捨てる。 • 引出し前板・開き扉：水滴や油汚れを拭き取る。 • 調理機器のトッププレート：煮こぼれや水滴などの軽い汚れを拭き取る。 • 調理機器のグリル：使用後、油汚れを中性洗剤をつけたスポンジで洗う。 • レンジフード：手の届く範囲の汚れを拭き取る。
週一度 または 汚れてきたら	• ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク：メラミンフォームやスポンジに中性洗剤をつけて洗う。 • 排水パイプ（ホース）：防臭器を取り出して、中までしっかり洗う。洗い桶に 1 ～ 2 杯（5 ～ 10 ℓ）のぬるま湯をため、台所用中性洗剤を混ぜて薄めた後、勢いよく流す。 • 水栓：水滴などの軽い汚れを拭き取る。 • ガスコンロのゴトク：こびりつき汚れを洗う。 • 引出し前板・開き扉・取っ手：汚れを中性洗剤で拭き取った後、乾拭き。 • 壁パネル：油はねなどの汚れを中性洗剤をつけたスポンジで洗う。
月一度	• 排水パイプ（ホース）：排水プレート～防臭器を取り外して排水パイプ用洗浄剤を、排水パイプ (ホース) に注ぎ、洗浄する。洗浄後は、十分に水を流す。 • レンジフード：フィルターなどを中性洗剤をつけたスポンジで洗う。
半年～年一度	• レンジフード：ファンを取り外して洗う。ファンを取り外さないものもあるので、詳しい内容は専用取扱説明書をご覧ください。 • 浄水器：カートリッジ交換を忘れずに行う。交換時期については専用取扱説明書をご覧ください。

MEMO　洗剤の使い方によっては手荒れの原因になります。ゴム手袋をはめるなど、気をつけてご利用ください。

気づいたらすぐに

次のような場合、気づいたときにすぐに対処するようにしてください。

- ワークトップ（カウンター類を含む）やシンクに水あかの付着やもらいサビがあった場合、すぐに対処してください。

参照　ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク　P.23 ～ P.30、Q & A　P. 78

- ガスコンロのバーナーキャップに目詰まりがある場合、すぐに対処してください。
- 水の出が悪くなった場合、水栓のストレーナー（ろ過用の金具）をチェックしてください。

参照　ガスコンロ、水栓について詳しい内容は別冊の専用取扱説明書をご覧ください。

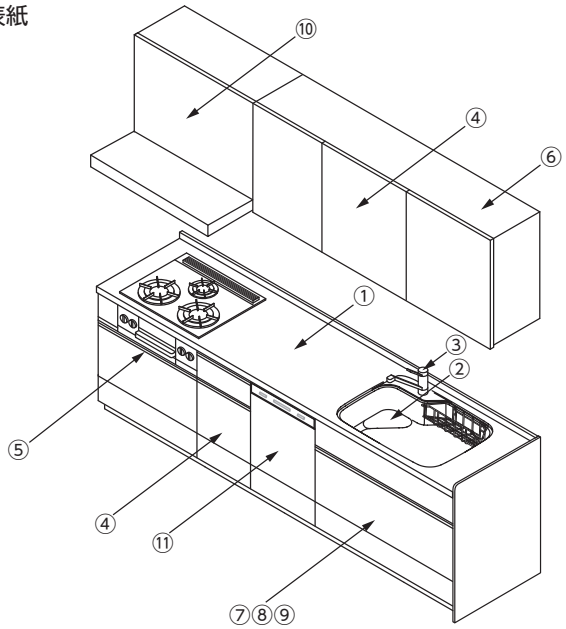
- 汚れを見つけたら、すぐに拭き取ってください。そのまま放置すると、汚れが取れにくくなります。
- 床にこぼれた水はこまめに拭くようにしてください。

1.3. 定期的な点検

定期的な点検のすすめ

商品は長期間ご利用いただくことで、経年劣化してきます。安全にお使いいただくために、定期的に水漏れ点検と安全点検を行ってください。水漏れ点検は月一度、安全点検は年一度が目安です。
水漏れがあった場合、元栓や止水栓を締めてから、速やかにクリナップカスタマーセンターへご連絡ください。
また、使用時に、部品が破損・脱落したり、ゆるんだりしている場合は、速やかにクリナップカスタマーセンターに修理を依頼してください。そのまま放置していると思わぬ事故の恐れがあります。

参照　アフターサービスのご用命　裏表紙



点検箇所	点検の種類	点検方法	症状	想定される被害
①ワークトップ・シンク	水漏れ点検	ワークトップ、シンクに穴開きやひび割れがないか確認してください。	穴開きやひび割れ	水漏れによる家財等の破損、破損部接触によるケガ
②排水器具	水漏れ点検	キャビネットの扉・引出しを開ける、または引出しを外して、水漏れがないか確認してください。	排水接続部のゆるみ、破損	水漏れによる家財等の破損
③水栓金具	水漏れ点検	水栓金具を操作して、本体やレバーにガタつきがないか確認してください。	本体やレバーのガタつき	水漏れによる家財等の破損
	安全点検	レバーを操作して温度調節が適正にできるか確認してください。	温度調節ができない	熱湯によるやけど
	安全点検	水栓金具本体やシャワーヘッド、レバーなどのめっき部にはがれがないか確認してください。	めっき部のはがれ	はがれためっき部によるケガ
	水漏れ点検	キャビネットの扉・引出しを開ける、または引出しを外して、水漏れがないか確認してください。	キャビネット内の配管、接続部、シャワーホースの水漏れ	水漏れによる家財等の破損
④扉	安全点検	扉を開閉して、変形やガタつき、異音がないか確認してください。	変形やガタつき、異音	落下によるケガおよび家財等の破損
	安全点検	扉の表裏面にひび割れやはがれがないか確認してください。	ひび割れや表面のはがれ	破損部接触によるケガ
⑤取っ手	安全点検	取っ手のめっき部にはがれがないか確認してください。	めっき部のはがれ	はがれためっき部によるケガ
⑥吊戸棚	安全点検	吊戸棚が正常に取り付けられているか、ガタつきがないか確認してください。	本体の変形、ガタつき	落下によるケガおよび家財等の破損
	安全点検	棚板が正常に取り付けられているか、ガタつきがないか確認してください。	棚板の変形、ガタつき	落下によるケガおよび家財等の破損
⑦キャビネット	水漏れ点検	キャビネットの扉・引出しを開ける、または引出しを外して、水漏れがないか確認してください。	キャビネット内で水が漏れている	水漏れによる家財等の破損
⑧引出し	安全点検	引出しが変形していないか、ガタつきがないか確認してください。	変形やガタつき	落下によるケガおよび家財等の破損
⑨包丁差し	安全点検	包丁差しにガタつきがないか確認してください。	ガタつき	包丁差しおよび包丁自体の落下によるケガ
⑩レンジフード	安全点検	レンジフードの幕板、整流板、フィルターなどにガタつきがないか確認してください。	幕板、整流板、フィルターのガタつき	落下によるケガおよび家財等の破損
⑪食器洗い乾燥機	水漏れ点検	食器洗い乾燥機周りに水漏れがないか確認してください。	水漏れ	水漏れによる家財等の破損

点検の結果、不備があった場合は、クリナップカスタマーセンターへご連絡ください。

参照　アフターサービスのご用命　裏表紙

2.1. 安全上の注意

- ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や損害に結びつくものです。
  安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。
- 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で説明しています。

⚠警告 この表示の欄は、「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡や重症を負う恐れがある内容」が記載されています。

⚠注意 この表示の欄は、「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が生じる恐れがある内容」が記載されています。

禁止 この行為は禁止されています。

注意 この行為は、注意が必要です。

必ず実行 この行為を必ず実行してください。

手をはさまれないよう注意 引出しや扉などで手をはさむことで、傷害が起こる可能性があります。

接触禁止 特定の条件で特定の場所に触れると、傷害が起こる可能性があります。

発火注意 特定の条件で発火の恐れがあります。

ぬれ手禁止 製品をぬれた手で扱うと感電する恐れがあります。

⚠警告

発火注意

電源コンセントの表示容量（ワット）を超える電気器具を使わない。

発熱により、火災の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手でコンセントや電気製品を触らない。コンセントや電気製品に水をかけない。

感電や故障、漏電、ショートによる火災の恐れがあります。

発火注意

調理機器の使用後および外出時には、スイッチを切る。

周囲の可燃物に着火し、火災の原因になります。

発火注意

調理機器の上や周りには、燃えるものを置かない。

周囲の可燃物に着火し、火災の原因になります。

発火注意

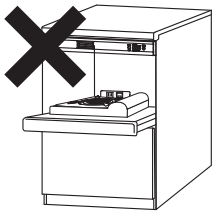
調理機器を使っているときは、その場を離れない。

高温になりすぎて、火災の原因になります。

発火注意

キャビネット内や家電収納庫などのスライド台に電気コンロ、ガスコンロ、ガス炊飯器などの加熱調理機器を置いて使用しない。

キャビネットが加熱され、火災の原因になります。



必ず実行

キッチンに組み込まれている機器、市販の調理機器などは、商品に付属の取扱説明書および商品本体に表示されている事項を守る。

使い方を誤ると、思わぬ事故や故障の原因になります。

⚠注意

キッチン全体

禁止

取っ手、扉、引出し、化粧板、棚、ラック、ワゴンなどにぶら下がったり、体重をかけたりしない。

破損し、ケガをする恐れがあります。

必ず実行

引出しの取り外し、取り付け、調整またはキャビネット内のお手入れをする場合は、引出しレールや部品などに十分注意して行う。

手や指などにケガをする恐れがあります。

禁止

スライド台には熱い鍋や重いもの、包丁などを載せない。

鍋や包丁などが落下して、ケガややけどをする恐れがあります。

必ず実行

床面に油などが飛び散ったらすぐに拭き取る。

足を滑らせ、ケガをする恐れがあります。特に、対面キッチンのコンロ側が通路になっているキッチンやダイニング側に注意してください。

禁止

ワークトップやキャビネット、扉、パネルなどに加工や改造をしない。

故障や破損の原因になります。

禁止

プッシュオープンの扉に寄りかかったり、蹴ったりしない。

意図せず扉が開き、ケガをする恐れがあります。

必ず実行

カウンターの角部に頭や体をぶつけないように注意する。

特に小さなお子様の場合、ケガをする恐れがあります。

調理機器・組込機器類

接触禁止

調理中や調理直後は、調理機器周辺に手を触れない。

やけどの恐れがあります。

シンク

禁止

シンクにまな板を渡した状態で、カボチャなどの硬いものや切りにくいものを切らない。まな板をサポートプレートの上に置いてものを切らない。

まな板やサポートプレートがシンクから外れて、ケガをする恐れがあります。ワークトップ上で作業をしてください。

禁止

てんぷら油や多量の熱湯を、直接排水口に流さない。

排水器具などが変形し、水漏れの原因になることがあります。また、排水管のつまりの原因になります。

2.1. 安全上の注意

⚠注意

水栓

必ず実行

混合水栓を使用する場合は、必ず水を先に出す。

湯を先に出すと、水栓および熱湯で、やけどをする恐れがあります。特に、小さいお子様は注意してください。

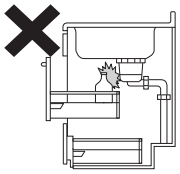
キャビネット

●シンクキャビネット、ベースキャビネット、コンロキャビネット

必ず実行

シンク下の引出しに収納する場合は、排水器具と接触しないように、収納物の高さに注意する。

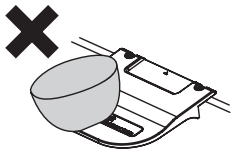
接触すると、排水器具が破損する恐れがあります。



禁止

トラップガードの位置を移動させたり、取り外したりしない。トラップガードの上に収納物を載せない。

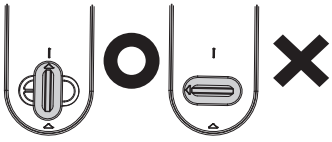
収納物と排水器具が接触し、漏水の恐れがあります。



必ず実行

ツールポケット用包丁差しの固定パーツがロック方向に回転しているか確認する。

包丁差しが外れてケガをする恐れがあります。



禁止

包丁差しを固定しているねじは外さない。

包丁の落下につながり、思わぬケガをする恐れがあります。

必ず実行

包丁差しの固定ねじがゆるんでガタつきが発生したときは、ねじを締め直す。

包丁差しが外れてケガをする恐れがあります。

必ず実行

ロック付斜め包丁差しを取り付けるときはピン、底板の突起が正しい位置にはまっていることを確認する。

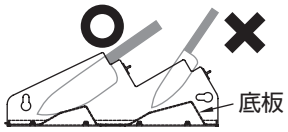
包丁差しが外れてケガをする恐れがあります。

参照　5.2. 包丁差し　P.36 ～ P.41

必ず実行

包丁差込口に、確実に包丁を差し込む。

扉を引き出したときに包丁が外れ、ケガをする恐れがあります。
特に、右図のような斜めに包丁を入れるタイプの場合は、段差に柄の部分が掛かるように収納してください。



禁止

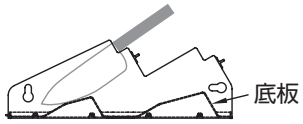
包丁を無理に引っ張らない。

勢いよく包丁が抜け、ケガをする恐れがあります。包丁が抜けないときは一度正しい収納位置に戻し、ロックが外れていることを確認してからまっすぐに引き抜いてください。

必ず実行

ロック付斜め包丁差しは必ず底板を取り付けて使用する。

底板の上に刃を載せて使用してください。包丁の刃が露出し、ケガをする恐れがあります。



禁止

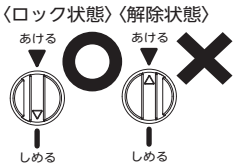
包丁を差したまま包丁差しや引出しのお手入れを行わない。

包丁の刃に触れ、ケガをする恐れがあります。お手入れは包丁を取り出してから行ってください。

必ず実行

ロック付包丁差しの前面カバーロック部は必ずロック状態で使用する。

前面カバーが外れて包丁がむき出しになる恐れがあります。



禁止

ロック付包丁差しの前面カバーロック部つまみや溝につめを引っ掛けて回さない。

つめがはがれたり、ケガをする恐れがあります。

注意

スライドボックスに収納する場合は、排水器具に当たらないように、収納物の高さ、奥行きに注意する。

収納物が排水器具に当たると、排水器具が破損し、水漏れする恐れがあります。

禁止

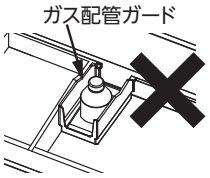
ガス配管ガードは絶対に外さない。

ガス配管と収納物がぶつかってガス漏れする恐れがあります。

禁止

ガス配管ガードの中にものを入れない。

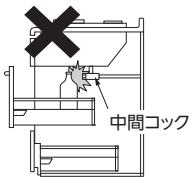
ガス配管と収納物がぶつかってガス漏れする恐れがあります。



必ず実行

コンロ下の引出しに収納する場合は、ガス栓（中間コック）と接触しないように、収納物の高さに注意する。

接触すると、ガス栓が閉じたり破損したりする恐れがあります。

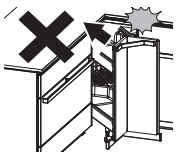


●コーナーキャビネット（ワゴンタイプ）、リサイクルゴミワゴン

禁止

ワゴンを勢いよく動かさない。

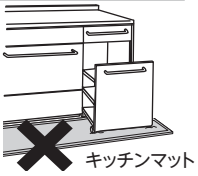
ワゴンが転倒してケガをする恐れがあります。特に、床下収納庫など床に段差のある部分を移動する場合は、手でしっかり支えながら移動してください。



禁止

ワゴン周辺にキッチンマットや毛足の長いじゅうたんを敷いて使用しない。

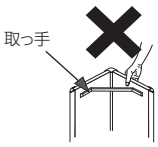
ワゴンに毛がからまり、転倒してケガをする恐れがあります。



手をはさまれないよう注意

ワゴンをキャビネットから出し入れする場合は、必ず取っ手部分を持つ。

扉部分などを持って出し入れすると、手や指をはさむ恐れがあります。



禁止

ワゴンに、沸騰したやかんや鍋などを直接載せない。

やけどやワゴンの変形、破損の原因になります。

2.1. 安全上の注意

⚠注意

必ず実行

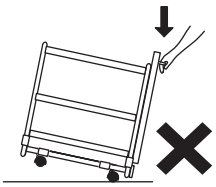
ワゴンを、床下収納庫など床に段差のある部分で移動する場合は、特に、手でしっかり支えながら移動する。

転倒する恐れがあります。

禁止

ワゴンで遊んだり、寄りかかったりしない。

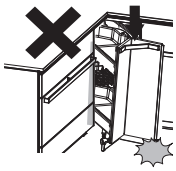
ワゴンが転倒して、ケガをする恐れがあります。



禁止

コーナーワゴンの収納量が少ない場合に、取っ手を握りながら下方向に力を加えない。

後方のキャスターが持ち上がり、ケガをしたり、床を傷つける恐れがあります。
水平方向に力を加え、ゆっくり操作してください。



●フロアコンテナ

禁止

フロアコンテナを引き出したまま作業しない。また、足場代わりにしない。

足をぶつけたり、転倒によるケガや、フロアコンテナが破損する恐れがあります。

注意

フロアコンテナを引き出す場合は、足元に注意して引き出す。また、他の作業者やお子様など、周囲の人にも注意する。

足の指をはさむ恐れがあります。

禁止

引出しを開けたまま、フロアコンテナを引き出さない。

指をはさんだり、引出しやフロアコンテナが破損する恐れがあります。

●開き扉、引出し、棚板

必ず実行

開き扉が傾いたり、ガタついているときは、丁番のねじを締め直す。

扉が落ちて、ケガをする恐れがあります。また、ねじがゆるんでいないことを定期的にご確認ください。

参照 5.7. 開き扉・引出し・棚板・点検口　P.47 ～ P.53

禁止

開き扉開閉時は、丁番には手を触れない。

丁番に指をはさむ恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。

禁止

引出しの開閉時は、ワークトップや引出しの扉上部に手を掛けない。

ワークトップと扉の間に指をはさむ恐れがあります。

禁止

扉を調整する場合は、ねじをゆるめすぎない。

ねじをゆるめすぎると扉が落ちて、ケガをする恐れがあります。

禁止

扉を大きく開けすぎない。

丁番が破損したり、扉が外れて、ケガをする恐れがあります。

必ず実行

棚受けダボは確実に奥まで差し込む。

棚板が落下して、ケガをする恐れがあります。

吊戸棚

●プルダウン吊戸棚、ムーブダウン吊戸棚、ハンドムーブ、アイエリアボックス共通

禁止

操作部以外に手を掛けたり、機構部や本体のすき間に手を入れない。

手をはさむ恐れがあります。

禁止

収納物がはみ出したまま昇降させない。

収納物の落下によるケガや、ラック、キャビネットが破損する恐れがあります。

禁止

割れやすいもの、不安定なもの、包丁・薬品・熱せられた調理道具などの危険なものを収納しない。

収納物が落下し、ケガをする恐れがあります。また、ムーブダウン吊戸棚の場合は高さガイドバーより高いものを収納しないでください。

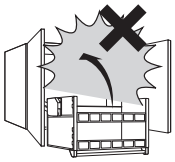
禁止

勢いよく昇降しない。

収納物が落下し、ケガをする恐れがあります。また、故障の原因になります。

必ず実行

バネ切り替えレバーは、重量に対して適切にセットする。

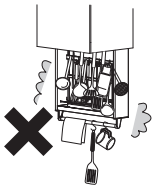


収納ラックが勢いよく戻ったり急降下したりして、収納物の落下や、収納ラックの変形・落下により、ケガをする恐れがあります。

参照 6.2. ムーブダウン吊戸棚、スライドパントリー（ムーブダウンタイプ） P.55
6.4. ハンドムーブ P.58 ～ P.60

禁止

操作レバーにものを引っ掛けない。



収納物が落下し、ケガをする恐れがあります。また、故障の原因になります。

必ず実行

棚は降ろし切った状態で使用する。

収納物が落下し、破片でケガをする恐れがあります。

●ムーブダウン吊戸棚

禁止

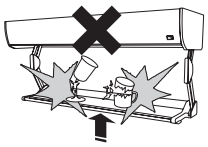
調理作業時などに、収納ラックを降ろしたまま放置しない。

頭などをぶつける恐れがあります。

●アイエリアボックス

禁止

水切り棚上にものを置いたまま閉めない。



収納物が破損し、破片でケガをする恐れがあります。

2.1. 安全上の注意

⚠注意

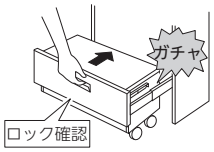
キッチン周辺収納

●ステップコンテナ

必ず実行

ロック音が鳴るまで完全に引き出し、押しても戻らないことを確認後、足元に注意して静かに乗り降りする。また、引き抜いて単独で使用しない。

つまずいたり、滑ったりして、ケガをする恐れがあります。



禁止

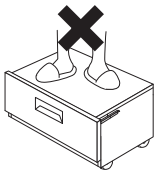
ステップコンテナを引き出したまま作業しない。

つまずいて転倒したり、足をぶつけたりしてケガをする恐れがあります。使用後は、必ずキャビネットに収納してください。

禁止

スリッパや履き物を履いたまま乗らない。また、ストッキングなどの滑りやすい靴下を履いて乗るときには十分注意する。

つまずいたり、滑ったりして、ケガをする恐れがあります。



必ず実行

ステップコンテナの乗り降りは足元に十分ご注意のうえ、静かに行う。また、飛んだり、跳ねたりしない。

商品が破損したり、転倒してケガをする恐れがあります。

禁止

お子様や、お体の不自由な方は使用しない。
また、お子様を遊ばせたりしない。

転倒するとケガや、思わぬ事故の原因になります。

必ず実行

ステップコンテナのふちではなく、中央付近に乗って使用する。

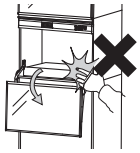
ステップコンテナがガタつき、転倒してケガをする恐れがあります。

●扉付家電収納庫・扉付トール家電収納庫（下台）

手をはさまれないよう注意

スイングダウン扉を降ろす際は、機構部に手を入れない。

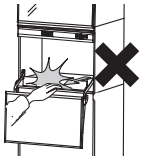
手をはさみ、ケガをする恐れがあります。



手をはさまれないよう注意

スイングダウン扉に手を掛けたままスライド台を引き出さない。また、スライド台の下側を持って引き出さない。

手をはさみ、ケガをする恐れがあります。



●扉付トール家電収納庫（中台）

接触禁止

オーブンレンジ使用後は、取っ手以外の扉周辺部に触れない。

オーブンレンジからの熱で熱くなり、やけどの恐れがあります。

●スライドパントリー

禁止

扉の周りに人がいないことを確認し、取っ手を持ってゆっくりと開閉する。また、機構部を手や足で触らない。

扉と扉の間に手をはさんだり、機構部で手や足をはさんでケガをする恐れがあります。

禁止

炊飯器やガスコンロなどのガス機器、電気コンロや電熱器などの熱源の露出した器具、卓上 IH 調理器、オーブントースター、電子レンジ、電気圧力鍋、ホットプレート、魚焼き器、ポット、コーヒーメーカーを使用しないでください。

蒸気によるキャビネットの膨れ、熱による結露、変色、変形、火災の恐れがあります。

禁止

扉を閉めたまま、調理家電を利用しないでください。

火災の恐れがあります。

2.1. 安全上の注意

⚠注意

対面型キッチン

禁止

コンロ側が通路になっているレイアウトのキッチンは、鍋やフライパンなどの柄に手を引っ掛けないようにする。

鍋やフライパンなどが落下して、ケガややけどをする恐れがあります。

必ず実行

コンロ側が通路になっているレイアウトのキッチンは、ワークトップから床面に油などの飛び散りが想定される。床面に油などが飛び散ったら、すぐに拭き取る。

足を滑らせて、転んでケガをする恐れがあります。

禁止

フラット対面カフェスタイル対面タイプの上台に、水やぬれたものを置かない。

コンセントが水でぬれて、感電や漏電、火災の原因になります。

禁止

デュアルトップ対面ハイタイプ上台 (コンロ側)、デスクタイプの収納部に水やぬれたものを置かない。

コンセントが水でぬれて、感電や漏電、火災の原因になります。

禁止

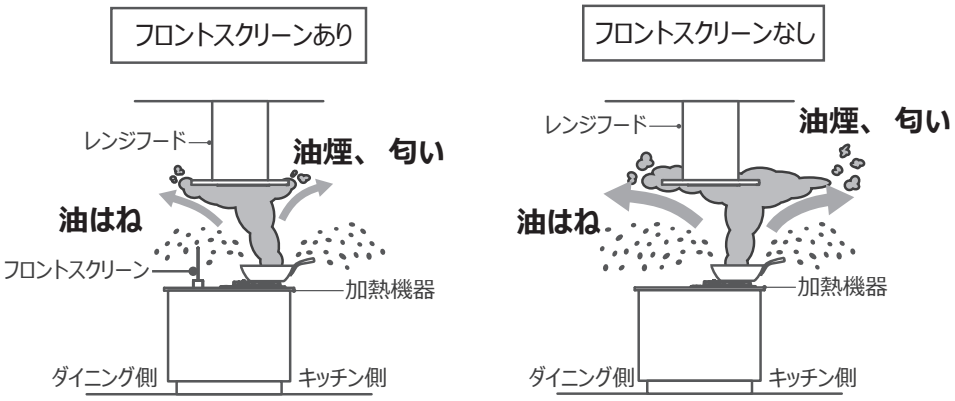
デュアルトップ対面ハイタイプ上台フラップダウン扉の上や、デュアルトップ対面のカウンターに体重をかけない。

金具が破損する恐れがあります。

注意

「フロントスクリーンなし」の場合、ワークトップや周囲の床、壁が汚れやすくなったり、油煙や匂いがキッチンまたはリビングに拡がりやすくなるので注意する。

調理中の油はね等により、ワークトップや周囲の床、壁が汚れやすくなります。また、レンジフードが室内の空気の流れ（窓、エアコン、人の動きによる風等）の影響を受けやすくなるため、油煙を吸い込みにくくになり、油煙や匂いがキッチンまたはリビングへ拡がる場合があります。



対面型キッチン

●フロントスクリーン、防熱板

禁止

ガラスに強い衝撃を与えない。また、硬いもの･鋭利なものを当てない。

傷がつくとガラスが割れてケガをする恐れがあります。特に端部への衝撃にはご注意ください。
また、ガラスにできた傷が大きくなり破損することがあります。

禁止

万が一、ガラスが破損 (ひび、欠けなど) したときは、そのままの状態にしない。

破損部でケガをしたり、ガラスにできた傷が大きくなり全損につながる恐れがあります。
ガラス破損時は、直ちにクリナップカスタマーセンターまで商品の交換を依頼してください。

接触禁止

調理中や調理直後はフロントスクリーンや防熱板に手を触れない。

調理機器からの熱などで熱くなり、やけどの恐れがあります。

禁止

フロントスクリーンのガラスやフレームに寄りかからない。

ガラスが割れてケガをする恐れがあります。また、フレームが変形する恐れがあります。

その他部材

●コンセント

必ず実行

ときどき電源プラグを抜いて拭き取り、ほこりがたまらないようにする。

ほこりがたまると発火の恐れがあります。特に湿気の多い場所のコンセントに注意してください。

●照明器具

必ず実行

照明が取付器具に確実に取り付けられているか確認する。

照明が脱落して破損し、ケガをする恐れがあります。

禁止

点灯中や消灯直後 (約 5 分間) は照明の表面が高温になっているので、素手で触らない。

お手入れをする場合は照明のスイッチを切り、十分に冷えたことを確認してから行ってください。
やけどの原因になります。

洗剤

必ず実行

台所で使われる洗剤・殺虫剤・防腐剤・その他薬品類は、それぞれの容器などに表示されている事項を守る。

使い方を誤ると、人体に悪影響を及ぼしたり、キッチン本体や機器類が傷み、水漏れ事故や故障の原因になります。

禁止

台所には、固形または粉末の塩素系洗浄剤 (ヌメリ取り剤など) を使用したり、近づけたりしない。

水や湿気に反応して発生するガスが、ステンレスなどの金属やゴムの腐食・劣化およびサビを発生させ、水漏れにつながる恐れがあります。

禁止

台所では成分表示のない洗剤類、台所以外の用途である洗剤類は使用しない。

キッチン本体が傷み、水漏れ事故や故障の原因になります。

2.2. 重量に関する規定

⚠注意

収納アイテム

禁止

収納アイテムに、収納物を無理につめ込まない。

引出しや棚板の変形の原因になります。

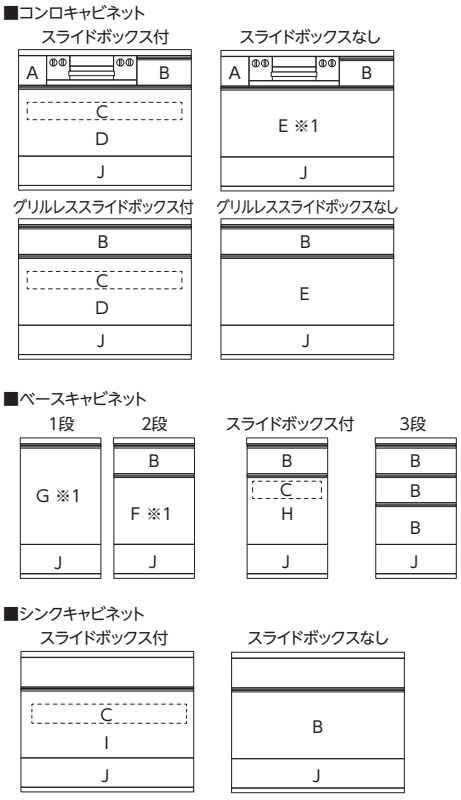
●キャビネット、棚板

必ず実行

キッチンの引出し、吊戸棚や各キャビネットへの収納は、下表の耐荷重以下として、収納物を均等に載せる。

重量が限度を上回ったりかたよったりすると、棚板や引出しの破損につながったり、載せているものが落ち、ケガをする恐れがあります。

部位			耐荷重
A	コンロ横引出し	―	2 kg
B	引出し	―	20 kg
C	スライドボックス本体 (シンクキャビネット・ベースキャビネット・コンロキャビネット)	―	8 kg
D	スライドボックス付 コンロキャビネット引出し	―	30 kg
E	引出し	―	※1 40 kg
F	引出し	W300、W450	20 kg
		W600～	※1 40 kg
G	引出し	W300	20 kg
		W450	※1 40 kg
H	スライドボックス付 ベースキャビネット引出し	W300、W450	10 kg
		W600～	30 kg
I	スライドボックス付 シンクキャビネット引出し	―	10 kg
J	フロアコンテナ	―	20 kg
スライドキャビネット		網カゴ・レードル掛け	10 kg
		ボトル収納	20 kg
周辺収納キャビネット引出し		―	※2 20 kg
棚板		1 枚	20 kg
底板 仕切り板が入っている場合でも、底板一枚です。ただし、キャビネットが分割している場合は、底板は一枚ずつになります。		1 枚	20 kg



※ 1　奥行き 60㎝のキッチンの場合、耐荷重は 20kgです。

※ 2　奥行き 65㎝の片面フロアキャビネット 3 段引出しタイプの 3 段目の場合、耐荷重は 40kgです。

MEMO　20 kg ＝直径 26 ㎝の大皿 25 枚以内が目安です。

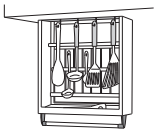
●プルダウン吊戸棚、ムーブダウン吊戸棚、ハンドムーブ、アイエリアボックス

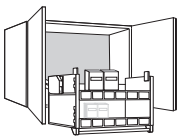
必ず実行

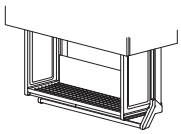
昇降ラック付吊戸棚の収納量は、下表の耐荷重以下とする。

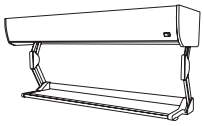
限度以上の収納をすると、変形や落下の原因となり、ケガをする恐れがあります。

部位		耐荷重
プルダウン吊戸棚	レードルラックタイプ（間□ 45 ㎝）	1 kg
	調味料棚タイプ（間□ 45 ㎝）	2 kg
	調味料棚タイプ（間□ 30 ㎝）	1.5 kg
ムーブダウン吊戸棚		15 kg
ハンドムーブ		8 kg
アイエリアボックス	水切りカウンタータイプの一時置き	10 kg
	調味料棚タイプ	3 kg


プルダウン吊戸棚


ムーブダウン吊戸棚


ハンドムーブ


アイエリアボックス

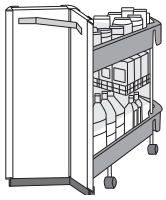
●コーナーキャビネット（ワゴンタイプ）

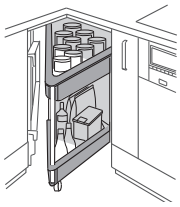
必ず実行

収納量は、下表の耐荷重以下として、収納物を均等に載せる。

特に、ワゴンの場合、下記の限度以上に収納したり、上段に重いものを載せてかたよったりすると、転倒する恐れがあります。

部位		耐荷重
コーナーワゴン	上段、下段それぞれ	10 kg
	中段の網棚	5 kg
デルタトレー	上段、下段それぞれ	10 kg


コーナーワゴン


デルタトレー

2.2. 重量に関する規定

⚠注意

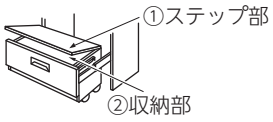
キッチン周辺収納

必ず実行

収納量は、下表の耐荷重以下として、収納物を均等に載せる。

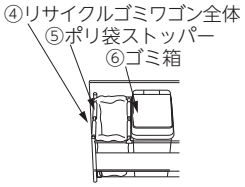
限度以上収納すると、変形・落下・破損や、ケガの原因になります。

部位		耐荷重
ステップコンテナ	①ステップ部	100 kg
	②収納部	20 kg
家電収納庫、扉付トール家電収納庫(下台)	③スライド台	15 kg
リサイクルゴミワゴン	④リサイクルゴミワゴン全体	20 kg
	⑤ポリ袋ストッパー	5 kg
	⑥ゴミ箱	5 kg



ステップコンテナ

家電収納庫
扉付トール家電収納庫(下台)



リサイクルゴミワゴン

対面型キッチン、その他部材

必ず実行

収納量は、下表の耐荷重以下とする。

限度以上収納すると、変形する恐れがあります。

部位		耐荷重
デュアルトップ対面/ハイタイプ上台	両面引出し	5 kg

3.1. キッチン全体の使い方

使用上の注意

●ステンレス部品（ステンレスワークトップ（カウンター類を含む）、ステンレス扉、引出し底板等）

禁止

ぬれた包丁・塩・しょうゆ、または鉄製のタワシやステンレス以外の金属（缶詰など）を放置しない。

もらいサビを引き起こし、腐食して穴が開く恐れがあります。

禁止

ステンレス部品には、塩素系の洗剤は使用しない。

サビの原因になります。

●樹脂部品（人工大理石ワークトップ（カウンター類を含む）、プラスチック製品等）

禁止

樹脂部品に洗浄力の強い洗剤成分、または油成分などを付着したまま放置しない。

しみ・変色、ひびや破損の原因になります。必ずすぐに拭き取ってください。

禁止

樹脂部品に油脂類、シンナー、酸性の洗剤、塩素系やアルカリ性の洗剤などは使用しない。

ひびや破損の原因になります。

●開き扉・引出し・化粧板・棚板・取っ手・キャビネット

禁止

家具用ワックス、シンナー、ベンジンなどの有機溶剤、カビ取り剤などを使用しない。

変色・つやや光沢がなくなったり、塗装がはがれたりする原因になります。

禁止

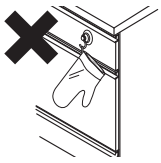
水をかけたまま放置しない。

表面のふくれの原因になります。必ずすぐに拭き取ってください。

禁止

開き扉・引出し前板やパネルなどにテープや吸盤などを長期間取り付けたままにしない。

変色やはがれ、ふくれなどの恐れがあります。



禁止

開き扉・引出し前板やパネルなどをメラミンフォームや金属タワシ、研磨粒子入り洗浄具などでお手入れしない。

変色・つやや光沢がなくなったり、塗装がはがれたりする原因になります。

禁止

引出しを開けたまま、他の引出しを開けない。

引出しが自重で下がったり、左右のブレによって、扉どうしが干渉し、破損の恐れがあります。

3.1. キッチン全体の使い方

必ず実行

キャビネット内に洗剤等を保管する場合は、必ず密閉し、液垂れしないようにする。

サビの原因になります。

注意

室内の温度や調理機器の使用時間・方法などによってコンロキャビネットおよび、隣接するキャビネットの庫内温度が上昇するので、収納物の保存には留意する。

温度変化によって劣化しやすい調味料や食材の保存や、長期保存は避けてください。保存にあたっては、調味料に記載の保存方法に従ってください。

●その他

禁止

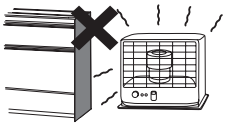
間口の大きい引出しは、取っ手の端部を持って開閉しない。

扉がガタつき、引き出しにくくなる恐れがあります。

禁止

ストーブ・暖房器具などを近づけない。

キャビネットや扉などの反りや変形の恐れがあります。



注意

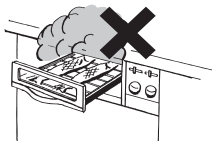
ワークトップ、カウンター上に炊飯器などの蒸気を発生する機器を置いて使う場合、吊戸棚・アイエリアボックスに直接蒸気がかからないように留意する。

結露により水滴がつき、キャビネットの塗装がはがれたり、ふくらんだりする恐れがあります。水滴を乾いた布で拭き取ってください。

禁止

調理機器のグリル扉を開けたまま使わない。

機器上部の変色やワークトップの焦げや破損、隣接する部材の変形などの恐れがあります。



お手入れのしかた

キャビネット・ステンレス部品・樹脂部品・扉・引出し・棚板・取っ手

通常のお手入れ

・綿などの柔らかい布で乾拭きしてください。

汚れた場合のお手入れ

・汚れは、薄めた中性洗剤をスポンジなどに含ませて落とし、水を含んだ布で洗剤を拭き取った後、乾いた布で乾拭きしてください。

注 意

- ステンレス扉の場合は、汚れや指紋をつきにくくするためにコーティングが施されています。お手入れ、汚れ落としは、傷をつけないよう注意してください。
- 開き扉・引出し前板やパネル、樹脂部品などはメラミンフォーム（例：レック株式会社 激落ちくん）や金属タワシ、研磨粒子入り洗浄具などでお手入れしないでください。変色・つやや光沢がなくなったり、塗装がはがれたりする原因になります。

シースルー扉のお手入れ

シースルー扉の半透明板は、プラスチックです。汚れた場合は、傷を避けるため、ほこりなどは柔らかいハケで払い落とし、綿などの柔らかい布で拭いてください。

注 意

- シースルー扉には、ガラスクリーナーを使わないでください。表面が白く変色・変質したり、傷がつく恐れがあります。
- メラミンフォーム（例：レック株式会社 激落ちくん）や金属タワシ、研磨粒子入り洗浄具などでお手入れしないでください。変色・つやや光沢がなくなる原因になります。

4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク

ワークトップには以下の 4 種類、シンクにはステンレス、人工大理石（アクリストン）の 2 種類があります。

- ステンレス：汚れに強く丈夫です。美コートワークトップとステンレスシンクには美コート (セラミック系特殊コーティング)※1 と、精巧なエンボス加工※2 を施しています。美コートは油汚れが落としやすく、お手入れが簡単です。エンボス加工は、一般的な使用では傷はつきにくく、傷がついても目立ちにくいです。

MEMO
※ 1　ワークトップとシンクのつなぎ目部分と L 型美コートワークトップのつなぎ目部分には、美コートを施していません。
※ 2　ワークトップの前縁部分、バックガード部分、バイブレーション（エンボス無）、L 型美コートワークトップのつなぎ目部分、シンク側面はエンボス加工ではないので、傷の目立ち具合が異なります。

- 人工大理石（アクリストン・コーリアン）、メラミン:美しさと丈夫さを兼ね備え、豊富な色のバリエーションがあります。
- セラミック：素材特有の色柄の美しさと耐久性が魅力です。変色・熱・傷・汚れに強い磁器、ガラス、天然水晶などの素材で構成されています。

使用上の注意

●ワークトップ（カウンター類を含む）共通

禁止
硫酸・塩酸などの強酸、「酸性」の表示のある洗浄剤、シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使用しない。
変質・変色・サビの原因になります。

禁止
塩素系やアルカリ性の洗剤・漂白剤を原液や高温で使用したり、長時間放置しない。
サビや変色の原因になります。また、上記洗剤はなるべく使用を控えてください。

禁止
ワークトップをまな板代わりに使用しない。
傷がつく恐れがあります。

禁止
強い衝撃を与えない。ワークトップに乗らない。
破損の原因になります。

禁止
ワークトップの上に熱い油鍋、沸騰したやかんなど、熱いものを直接置かない。
変色・変形・割れ・ふくれ（ステンレスワークトップの場合、裏面接着剤のはがれの原因）などの恐れがあります。置く場合は鍋敷き（厚さ 1㎝以上）などを使用してください。

禁止
ワークトップの継ぎ目には、熱いものや重いものを長時間放置しない。
反り・ゆがみ・ひび割れ・表面波打ちの原因になります。

禁止
ワークトップの上に水滴や汚れを残したままにしない。
水あかや汚れが落としにくくなります。こまめに拭くようにしてください。

必ず実行
ヘアライン仕上げが施されている場合は、食器や調理器具の置き方に注意する。
加工の目の方向と、垂直方向に傷がつくと目立ちます。鍋を置く場合は、鍋敷きをご利用ください。

●シンク共通

禁止
硬く鋭利なもの・砂・貝殻などを押し付けたり落としたりしない。
傷がつく恐れがあり、汚れが取りづらくなります。

禁止
熱湯を長時間流したり、頻繁に流さない。また、熱い油鍋をシンクの中に直接置かない。
変色・変形の恐れがあります。熱湯を流す場合は、水栓から水を流しながら行ってください。

禁止
塩素系やアルカリ性の洗剤・漂白剤を原液や高温で使用したり、長時間放置しない。
サビや変色の原因になります。また、上記洗剤はなるべく使用を控えてください。

4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク

禁止

固形または粉末の塩素系の洗浄剤（ヌメリ取り剤など）は使用しない。

腐食・サビの恐れがあります。

禁止

成分にケイ酸塩（オルトケイ酸ナトリウムと成分表示している洗剤）を含んだ洗剤は使用しない。

万一、誤って使用した場合は、シンクや排水口本体に残らないよう水できれいに洗い流してください。

禁止

シンクの上に水滴や汚れを残したままにしない。

水あかや汚れが落としにくくなります。こまめに拭くようにしてください。

●美コート（セラミック系特殊コーティング）が施されているワークトップ、シンク

禁止

研磨材入りの洗剤・研磨粒子入りの洗浄具（不織布など）や金属タワシなどで表面をこすらない。

傷がつく恐れがあり、汚れが取りづらくなります。

●人工大理石（アクリストン・コーリアン）ワークトップ（カウンター類を含む）、人工大理石（アクリストン）シンク

禁止

還元水素水生成器・食器洗い乾燥機など、ゴム脚・樹脂脚がついているものやゴム製品を長期間設置しない。

接地面が変色してくることがあります。直接ワークトップに触れないよう、置き台などで工夫してください。

必ず実行

色の濃い食品（キムチ、カレー、紅茶、コーヒーなど）や汚れや色の濃いふきん類の染料、またはアルカリ性洗剤・洗浄剤が付着した場合は、すぐに洗う。

長時間放置すると落としにくくなります。

●セラミックワークトップ（カウンター類を含む）

禁止

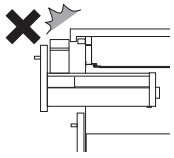
ワークトップ端部に、強い衝撃を与えない。

破損（割れ、欠けなど）の原因になります。破損した場合、補修はできません。

禁止

ワークトップ前縁に、収納物がぶつからないようにする。

引出しを開閉する際、ワークトップ前縁に収納物がぶつかると、破損（割れ、欠けなど）の原因になります。破損した場合、補修はできません。

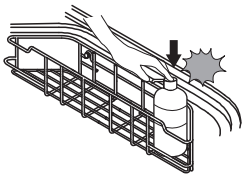


●クリンラック（SA/SY シンク用）

注意

クリンラック（SA/SYシンク用）の端にポンプ式などの洗剤を置いて強く押さないよう留意する。

クリンラックが傾いて収納物が倒れる恐れがあります。



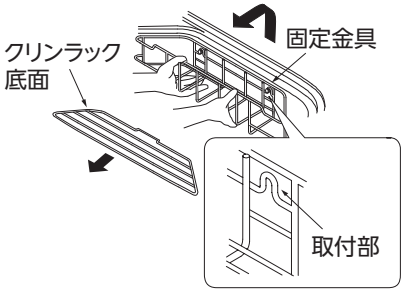
使い方

クリンラック（SA/SY シンク用）の脱着

取り付け、取り外しは、洗剤やスポンジなどの収納物を取り出し、クリンラック底面を取り外してから行ってください。

取り外し方　クリンラックの全体を持ち、一度上方へ持ち上げてから、手前に引く。

取り付け方　シンクの固定金具に、クリンラックの取付部を上から引っ掛ける。

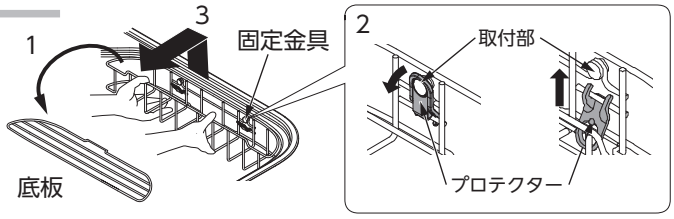


使い方

クリンラック（RW シンク用）の脱着

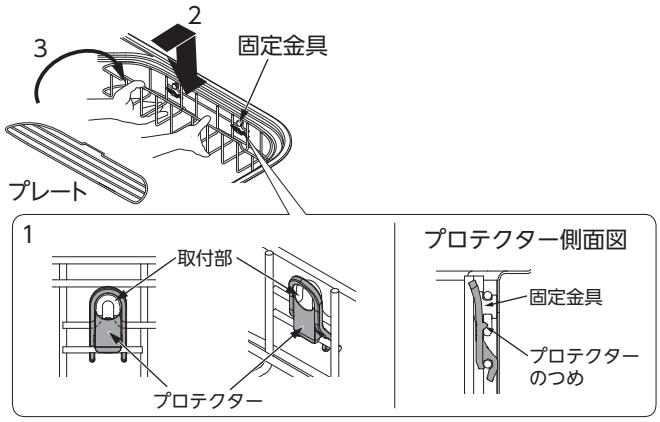
取り外し方

1. 底板部分を外す。
2. プロテクターを下げる。
3. クリンラック全体を持ち、一度上方へ持ち上げてから手前に引く。



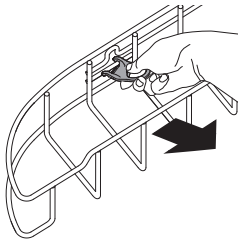
取り付け方

1. クリンラックの取付部のＵ字とプロテクターの穴の円を合わせる。
2. 両端の固定金具に取付部を上から引っ掛ける。
3. 底板部分を戻す。



注 意　プロテクターの後ろにあるつめが固定金具にしっかり引っ掛かっていることを確認してください。

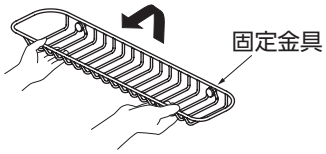
MEMO　プロテクター本体をお手入れする際は、プロテクターをクリンラックから取り外してください。クリンラックをシンクから取り外した状態で、クリンラックを押さえながら、プロテクターを斜めに引っ張ると外れます。



クリンラック（AE シンク用）の脱着

取り外し方

クリンラックの全体を持ち、一度上方へ持ち上げてから、手前に引く。



取り付け方

シンクの固定金具に、クリンラックの取付部を上から引っ掛ける。

スリムラック（RW シンク用）の使い方

食品トレーやペットボトルの水切り、まな板やスポンジ置きなど様々な使い方ができます。

シンク内の固定金具だけでなく、クリンラックや水切りバスケットにも引っ掛けることができます。

MEMO　まな板を置く場合は、必ずスリムラックを固定金具に取り付けた状態で置いてください。

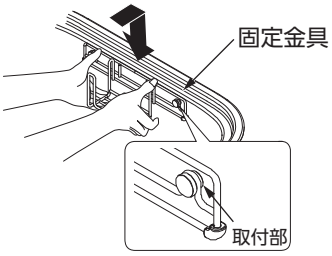
スリムラック（RW シンク用）の脱着

取り外し方

スリムラック全体を持ち、一度上方へ持ち上げてから手前に引いてください。

取り付け方

両端の固定金具に取付部を上から引っ掛けてください。



4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク

まな板ラック（RW/SA/SY シンク用）の脱着

取り外し方

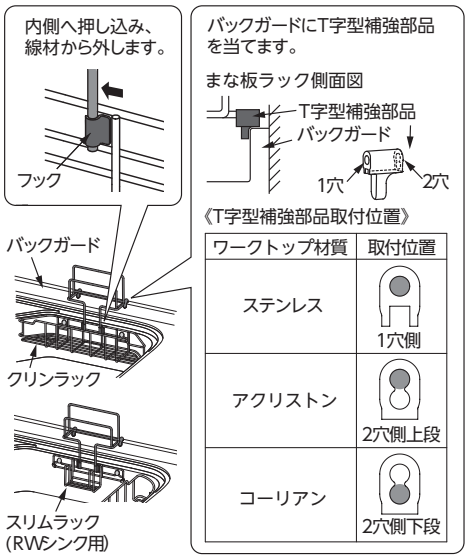
フックの部分を内側に押してフックを外し、クリンラック・スリムラック（RW シンク用）からまな板ラックを外す。

取り付け方

片側のフックをクリンラック・スリムラック（RW シンク用）にはめ、もう片側のフックを内側に押し込みながらクリンラック・スリムラック（RW シンク用）にはめる。

T 字型補強部品をシンクのバックガードに当たるように取り付け、まな板ラックを動かしてみて、クリンラック・スリムラック（RW シンク用）から外れないことを確認してください。

MEMO
・つねに T 字型補強部品がバックガードに当たるようにしてください。
・T 字型補強部品はワークトップの材質によって取付位置が異なります。取り外した場合は右図を参考に元の位置に取り付けてください。

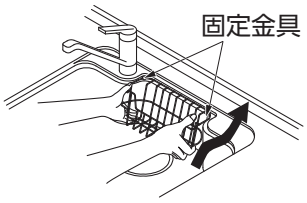


注 意　まな板ラック（RW/SA/SY シンク用）は、セラミックワークトップには取り付けることができません。

洗剤バスケットの脱着（SK/SV/SB/SD シンク用）

取り外し方

洗剤バスケットの前面を持ち、奥側へ傾け、固定金具から外した状態で上に持ち上げる。



取り付け方

取り外したときと逆の手順で、固定金具に取り付ける。

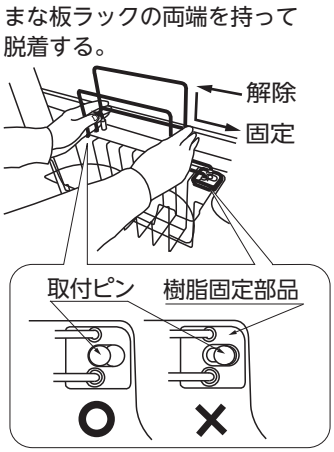
まな板ラックの脱着（SK/SV/SB/SD シンク用）

取り外し方

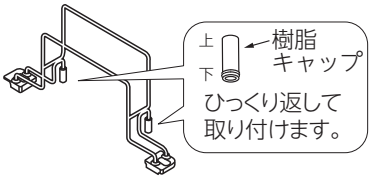
まな板ラックの両端を持ち、ラック全体を左方向に力を加えながらスライドさせ、固定を解除させる。
解除されたのを確認し、まな板ラックの両端を持ち、そのまま上へ引き上げる。

取り付け方

取り外したときと逆の手順で、下に力を加えながら右方向にスライドさせ、取付ピンに固定させる。

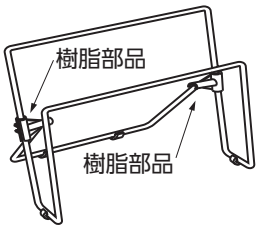


注 意
・まな板ラックがしっかりと取り付いていることを確認してください。樹脂固定部品に取付ピンがはめ込まれていないと、まな板を置いたときに、まな板ラックが外れる恐れがあります。
・樹脂固定部品を分解して洗わないでください。



MEMO
・人工大理石（アクリストン）ワークトップと SB/SD シンクとの組み合わせの場合、樹脂キャップを上下ひっくり返して取り付けてください。
・SK/SV シンク用のまな板ラックと SB/SD シンク用のまな板ラックは形状が異なります。

まな板スタンドの使い方



- まな板スタンドは、ワークトップ上に広げて立て、まな板を立てることができます。収納する場合は、樹脂部品をワイヤーラックの線材に、上からはめ込んでください。
- まな板スタンドに収納できるまな板の厚さは、3.5㎝以下です。

参照 アクセサリーパーツのご案内は、下記ページを参照してください。
10.1. シンクアクセサリーパーツ P.73

お手入れのしかた

ステンレスワークトップ（カウンター類を含む）のお手入れ

通常のお手入れ

- 水を含んだ布または中性洗剤をつけたスポンジで汚れを落としてください。洗剤を使った後は、水を含んだ布で洗剤を拭き取ってください。最後に乾いた布で乾拭きをしてください。

落ちにくい汚れのお手入れ

- 中性洗剤をつけたメラミンフォーム（推奨品:レック株式会社　激落ちくん）または粒子の細かい（研磨材 20%以下）クレンザー（液体クレンザーなど）を使用してください。仕上げは、通常の汚れの場合と同様に行います。

MEMO ヘアライン仕上げの場合は、目の方向と垂直に傷がつくと目立ちますので、目の方向と平行になるように拭いてください。

注意
- 汚れを長時間放置すると、こびりついて落としにくくなるため、こまめにワークトップ全体をお手入れしてください。
- ワークトップを部分的にお手入れすると、拭き取った部分が変色したように見える場合がありますが、変色ではありません。ワークトップ全体をお手入れするようにしてください。
- ステンレスフロアカウンターのサイドキャップのお手入れにはメラミンフォームやクレンザー類を使用しないでください。
  傷がつく恐れがあります。
- 美コートワークトップにはクレンザー類を使用しないでください。摩耗によって傷やコーティングの性能が劣化する恐れがあります。
- 美コートワークトップ以外に粒子の細かい（研磨材20%以下）クレンザー類（液体クレンザーなど）を使う場合、ワークトップの目立たない部分で傷がつかないか確認してください。

参照 お手入れスケジュール　P.6

ステンレスシンクのお手入れ

通常のお手入れ

- 中性洗剤をつけたスポンジで汚れを落としてください。洗剤を使った後は、水で洗剤を洗い流してください。最後に乾いた布で乾拭きをしてください。

落ちにくい汚れのお手入れ

- 中性洗剤をつけたメラミンフォーム（推奨品：レック株式会社　激落ちくん）を使用してください。仕上げは、通常の汚れの場合と同様に行います。

注意
- 汚れを長時間放置すると、こびりついて落としにくくなるため、こまめにシンク全体をお手入れしてください。
- クレンザー類を使用しないでください。摩耗によって傷やコーティングの性能が劣化する恐れがあります。

参照 お手入れスケジュール　P.6

4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク

美コート（セラミック系特殊コーティング）が施されているシンクに使用できる洗剤・洗浄具

洗剤を使用する際は、以下の表にあてはまる洗剤・洗浄具を使用してください。「使用できるもの（○）」「条件付きで使用できるもの（△）」「使用できないもの（×）」を、品名別に参考事例を示しています。

MEMO
- 実際のご使用時には、洗剤・洗浄具に記載されている使用上の注意に従ってください。
- 排水パイプ (ホース) のお手入れは、「4.2. 排水口周り P.32 ～ 33」を参照してください。

ワークトップ、シンク用の洗剤・洗浄具

使用判断	種類		液性・成分・材質	使用制限内容および調理アイテムへの影響	洗剤名・洗浄具名（参考事例）
○ 使用できるもの	洗剤類	台所用洗剤	中性・弱アルカリ性・弱酸性洗剤		各種『ファミリーシリーズ』(花王) 各種『チャーミーシリーズ』(ライオン)
	洗浄具類	スポンジ メラミンフォーム	スポンジ・メラミンフォーム		『ウレタンスポンジ下面』(ウレタン部) 『ネット付スポンジ』 『激落ちくん』(レック)
△ 条件付で使用できるもの	洗剤類	台所用漂白剤（液状）	塩素系の漂白剤・洗浄剤やアルカリ性の洗剤	高濃度の原液使用や高温使用による長時間放置不可。(サビ･変色の恐れ) ↓ 使用後すぐ十分に水洗いすれば問題なし。	各種『キッチンハイター(液状)』(花王)
		台所用漂白剤（泡状）			各種『キッチンハイター(泡状)』(花王)
× 使用不可	洗剤類	台所用クレンザー	研磨材入りの洗剤(クレンザーなど)	傷や表面のつやの変化の恐れ。傷・摩耗によるコーティングの性能劣化の恐れ。	クレンザー
	洗浄具類	金属タワシ	金属タワシ	傷や表面のつやの変化の恐れ。傷・摩耗によるコーティングの性能劣化、もらいサビの恐れ。	『金属タワシ』
	洗浄具類	不織布ナイロン	研磨粒子入りの洗浄具(不織布など)	傷・摩耗によるコーティングの性能劣化の恐れ。	『ウレタンスポンジ上面』(研磨粒子付不織布部)

ワークトップ、シンク用以外の洗剤類(ワークトップ用、シンク用ではないが使用する可能性のある洗剤類)

注 意 万一、ワークトップ、シンク用以外の洗剤を誤って使用した場合は、シンクや排水口本体に残らないようにすぐに十分な水で洗い流してください。

使用判断	種類		液性・成分・材質	使用制限内容および調理アイテムへの影響	洗剤名・洗浄具名
× 使用不可	排水パイプ用	排水パイプ用洗浄剤	ケイ酸塩(「オルトケイ酸ナトリウム」と成分表示している洗剤)	長時間接触による固着･変色の恐れ。	ナトリウム オルトケイ酸 成分
			塩素系のアルカリ性洗剤		塩素系のアルカリ性洗剤
	その他	排水口洗浄剤	固形または粉末の塩素系の洗浄剤(ヌメリ取り剤など)	腐食･サビの恐れ。	ヌメリ取り剤
		トイレ用洗浄剤など	酸性の洗浄剤(塩酸･硫酸･フッ酸などの強酸、研磨材入りの酸性の洗浄剤)	サビ･変色の恐れ。	酸性の洗浄剤
		業務用洗剤	業務用洗剤	長時間接触による固着･変色の恐れ。	業務用洗浄剤

※上記の表以外の洗剤･洗浄具をご使用される場合は、用途･液性･成分が合致するものをお使いください。

人工大理石（アクリストン・コーリアン）ワークトップ・人工大理石（アクリストン）シンクのお手入れ

注 意　濃色系コーリアンはお手入れ方法が異なります。下記の「人工大理石 (濃色系コーリアン) のお手入れ」の項をご参照ください。

通常のお手入れ

- 水を含んだ布または中性洗剤をつけたスポンジで汚れを落としてください。洗剤を使った後は、水を含んだ布で洗剤を拭き取ってください。最後に乾いた布で乾拭きをしてください。

落ちにくい汚れのお手入れ

- 中性洗剤をつけたメラミンフォーム（推奨品：レック株式会社　激落ちくん）または粒子の細かい（研磨材 20%以下）クレンザー（液体クレンザーなど）で円を描くように磨いてください。それでも落ちない場合は、研磨粒子入りの洗浄具（推奨品：住友スリーエム株式会社　スコッチ・ブライト　抗菌ウレタンスポンジタワシのナイロン不織布側（緑色側））、または 240 番くらいのサンドペーパーで円を描くように磨いてください。仕上げは、通常の汚れの場合と同様に行います。

MEMO　汚れや傷のお手入れをした箇所と、その周辺に光沢の違いが見られる場合は、液体クレンザーと水を含んだスポンジで、さらに全体を磨いてください。

注 意
- シンクのつやのある箇所に落ちにくい汚れのお手入れを行った場合、周囲とつやの違いが生じる場合があります。
- 汚れを長時間放置すると、こびりついて落としにくくなります。こまめにお手入れしてください。
- 粒子の細かい（研磨材 20% 以下）クレンザー類（液体クレンザーなど）を使用する場合、ワークトップの目立たない部分で傷が付かないか確認してください。

参 照　お手入れスケジュール　P.6

人工大理石（アクリストン・濃色以外のコーリアン）に傷がついたとき

- 傷がついた場合は、上記の落ちにくい汚れの場合と同様に磨いてください。
- 傷が取り切れない場合は、240 番くらいのサンドペーパーで円を描くように磨いてください。仕上げは、通常の汚れの場合と同様に行ってください。

MEMO　汚れや傷のお手入れをした箇所と、その周辺に光沢の違いが見られる場合は、液体クレンザーと水を含んだスポンジで、さらに全体を磨いてください。

- さらに深い傷や欠けが発生した場合は、お買い求めの販売店、またはクリナップカスタマーセンターまでご連絡ください。傷・欠けの状況によっては、修理ができない場合もあります。

参 照　アフターサービスのご用命　裏表紙

人工大理石（濃色系コーリアン）、メラミンのお手入れ

濃色系コーリアンは、以下の方法でお手入れを行ってください。

通常のお手入れ

- 水を含んだ布または中性洗剤をつけたスポンジで汚れを落としてください。洗剤を使った後は、水を含んだ布で洗剤を拭き取ってください。最後に乾いた布で乾拭きしてください。

落ちにくい汚れのお手入れ

- 水を含んだメラミンフォーム（推奨品：レック株式会社 激落ちくん）で軽く拭き取ってください。強く拭き取ると周囲とつやの違いが生じます。
- 手油汚れが気になる場合はキッチン用掃除シートで拭き取るときれいになります。

注 意
- 濃色系コーリアンは他の色に比べ、水しみ、手油、傷などが目立ちます。水滴や汚れはすぐに拭き取ってください。
- 研磨粒子入りの洗浄具、クレンザー、サンドペーパーを使用して磨くと、微妙なつやの違いが生じ、磨いた部分がうっすらと白くなりますので、お勧めしません。傷がついた場合は、お買い求めの販売店、またはクリナップカスタマーセンターまでご連絡ください。傷の状況によっては、修理ができない場合もあります。

参 照　お手入れスケジュール　P.6
アフターサービスのご用命（クリナップカスタマーセンター）　裏表紙

4.1. ワークトップ（カウンター類を含む）・シンク

セラミックワークトップ（カウンター類を含む）のお手入れ

通常のお手入れ

- 水を含んだ布または中性洗剤をつけたスポンジで汚れを落としてください。洗剤を使った後は、水を含んだ布で洗剤を拭き取ってください。最後に乾いた布で乾拭きをしてください。

落ちにくい汚れのお手入れ

- 中性洗剤をつけたメラミンフォーム（推奨品：レック株式会社　激落ちくん）または粒子の細かい（研磨材 20%以下）クレンザー類（液体クレンザーなど）を使用してください。仕上げは、通常の汚れの場合と同様に行います。

注 意
- 汚れを長時間放置すると、こびりついて落としにくくなるため、こまめにワークトップ全体をお手入れしてください。
- 研磨粒子入りの洗浄具（不織布タワシ等）やサンドペーパーは使用しないでください。つやがなくなり、白くくもる恐れがあります。
- 粒子の細かい（研磨材 20% 以下）クレンザー類（液体クレンザーなど）を使う場合、ワークトップの目立たない部分で傷が付かないか確認してください。

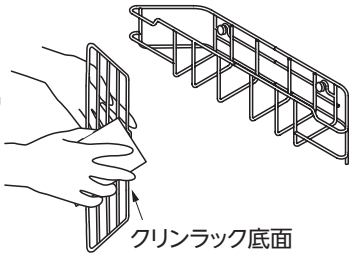
参 照　1.2. お手入れスケジュール　P.6

クリンラック（RW シンク用）・クリンラック（SA/SY シンク用）・クリンラック（AE シンク用）・スリムラック（RW シンク用）・洗剤バスケット（SK/SV/SB/SD シンク用）のお手入れ

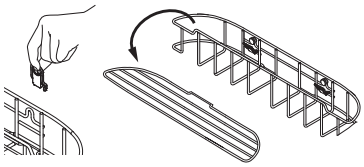
- 通常のお手入れは、綿などの柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れは、ラックを外し、中性洗剤をスポンジまたは水を含んだ布につけて、強めに拭いてください。
  汚れが落ちたら、水を含んだ布で洗剤を拭き取り、最後に乾いた布で乾拭きしてください。

MEMO　クリンラック（AE シンク用を除く）は、一番汚れやすい洗剤やスポンジを置いている底面部分だけを外して、お手入れすることができます。
クリンラック（RW シンク用）は、プロテクターを外してお手入れすることができます。

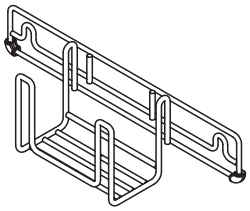
〈クリンラック（SA/SYシンク用）〉



〈クリンラック（RW シンク用）〉

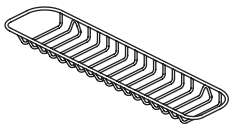


〈スリムラック（RWシンク用）〉

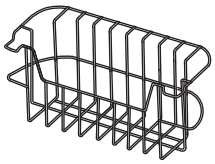


注 意　汚れを長時間放置すると、こびりついて落としにくくなります。ステンレスシンクのサビやヌメリの原因になります。

〈クリンラック（AEシンク用）〉



〈洗剤バスケット（SK/SV/SB/SDシンク用）〉



まな板ラックのお手入れ

- 通常のお手入れは、綿などの柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れは、まな板ラックを外し、小さなブラシを使ってお手入れしてください。

注 意　樹脂部品の溝に、汚れがたまったまま放置しないでください。ステンレスシンクのサビやヌメリの原因となります。

4.2. 排水口周り

使用上の注意

必ず実行

浅型カゴ、排水目皿は必ず取り付けて使用する。

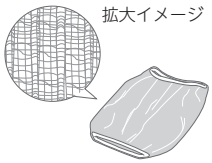
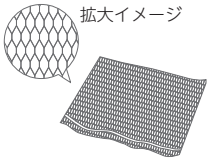
排水管に調理クズなどが流れ込み、排水管のつまりの原因になります。

必ず実行

浅型カゴ、クリンコーナーにためたゴミは、こまめに捨てる。

半日以上ためると、悪臭が発生する原因になります。

MEMO 水切りネットを使用した場合、ゴミがつまりやすくなる場合がありますので、よりこまめにゴミを捨ててください。
なお、ご使用になる場合は、下表を参考にしてご使用ください。

浅型カゴ	クリンコーナー
小判型用／三角コーナー兼用等のストッキングタイプ ※20×15㎝／20×20㎝と記載のあるもの（伸張時）が目安  使用時	三角コーナー用のネットタイプ ※25×25㎝と記載のあるものが目安  使用時

必ず実行

浅型カゴのお手入れは、必ず排水口本体から取り外して行う。

設置した状態で強い力を与えると、変形したり、傷がつく恐れがあります。

禁止

防臭パイプは、通常使用時に取り外さない。

排水管からの悪臭が発生します。排水口本体のお手入れと高圧洗浄を行う際に取り外します。

禁止

洗剤をステンレス部分に長時間放置しない。

変色の恐れがあります。

禁止

成分にケイ酸塩（オルトケイ酸ナトリウムと成分表示している洗剤）を含んだ洗剤は使用しない。

万一、誤って使用した場合は、シンクや排水口本体に残らないよう水できれいに洗い流してください。

禁止

固形または粉末の塩素系の洗浄剤（ヌメリ取り剤など）は使用しない。

腐食・サビの恐れがあります。

必ず実行

塩素系やアルカリ性の排水パイプ用洗浄剤がシンク金属部に付着した場合は、すぐに十分な水できれいに洗い流す。

サビや変色の原因になります。

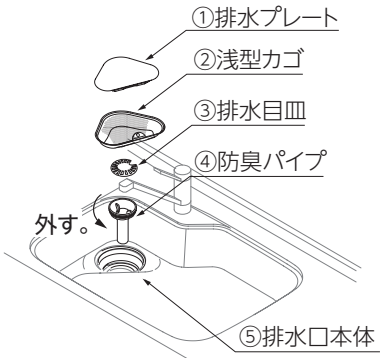
使い方

排水トラップの使い方

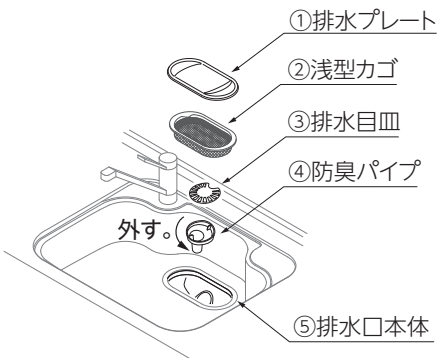
排水トラップは、右図のような構成になっています。

- 排水トラップの役割は、封水することにより、排水管からの悪臭を防止し、防虫することです。

RW/SA/SY/AE シンク



SK/SV/SB/SD シンク



4.2. 排水口周り

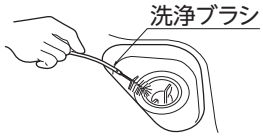
お手入れのしかた

部品ごとのお手入れ方法

- ①排水プレート、②浅型カゴ、クリンコーナーは、表面にステンレスシンクと同じ美コート（セラミック系特殊コーティング）を施しています。ステンレスシンクと同様のお手入れをしてください。

参照　ステンレスシンクのお手入れ　P.27
美コート（セラミック系特殊コーティング）が施されているシンクに使用できる洗剤・洗浄具　P.28

- 排水口周りの、各部品のお手入れは下記の表を参考に行ってください。

部品名	お手入れの目安	方法
①排水プレート	週 1 回以上	中性洗剤を使用する
②浅型カゴ		
③排水目皿		
④防臭パイプ	・月 1 回程度 ・臭いやつまりを感じたらその都度	中性洗剤をスポンジや洗浄ブラシなどにつけてこすり落とす 
⑤排水口本体		
⑥排水パイプ（ホース）	週 1 回程度	防臭器③を取り出し、洗い桶に 1 ～ 2 杯 (5 ～ 10 ℓ) のぬるま湯をため、台所用中性洗剤を混ぜて薄めた後、勢いよく流す。
	月 1 回程度	排水プレート①、浅型カゴ②、防臭器③を取り外し、排水パイプ用洗浄剤を、直接排水パイプ (ホース) に注ぎ、洗浄する。洗浄後は、十分に水を流す。

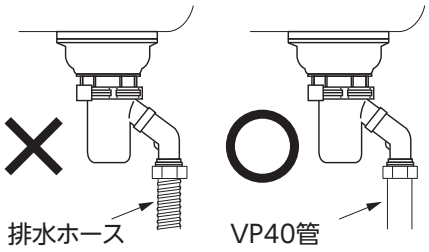
MEMO　④防臭パイプの取り外しは反時計回りに回し、取り付けは時計回りに回してください。

集合住宅などにおける集中洗浄（高圧洗浄）時の留意点

排水管洗浄業者による排水管の集中洗浄（高圧洗浄）をする場合は、下記点に注意し、洗浄する業者と打ち合わせしてください。

- 洗浄前に③排水目皿と④防臭パイプを取り外し、洗浄後は必ず取り付けてください。
- 排水口・排水トラップに高い水圧をかけないようにしてください。排水器具などが変形し、水漏れの原因になることがあります。
- 集中洗浄（高圧洗浄）機についているホースは樹脂製を推奨します。

注意　排水ホースで接続されている場合は、高圧洗浄はできません。フリーパイプや肉厚管（VP 管）などで直管配管している場合のみ高圧洗浄が可能です。



排水パイプ (ホース) のお手入れ方法

週 1 度のお手入れ

防臭器③を取り外し、洗い桶に 1 ～ 2 杯(5 ～ 10 ℓ)のぬるま湯をため、
台所用中性洗剤を混ぜて薄めた後、勢いよく流す。

月 1 度のお手入れ

排水プレート①、浅型カゴ②、防臭器③を取り外し、排水パイプ用洗浄剤を、
直接排水パイプ (ホース) に注ぎ、洗浄してください。洗浄後は、十分に水を流してください。

注 意
・必ず使用前に、排水パイプ用洗浄剤の使用方法・注意をお読みください。
・万一、使用不可の洗剤を誤って使用した場合やシンクやワークトップに洗浄剤が付着した場合は、すぐに十分な水できれいに洗い流してください。サビや変色の原因になります。

洗剤

使用判断	種類		液性・成分・材質	使用制限内容および調理アイテムへの影響	洗剤名・洗浄具名（参考事例）
○ 使用できるもの	洗剤類	台所用洗剤	中性・弱アルカリ性・弱酸性洗剤		各種『ファミリーシリーズ』(花王)　各種『チャーミーシリーズ』(ライオン)
△ 条件付で使用できるもの	排水パイプ用	排水パイプ用洗浄剤	塩素系のアルカリ性洗剤	・月1度のお手入れのみ使用する。 ・長時間接触による固着・変色の恐れ。 ↓ ステンレス・人工大理石に付着した場合は、すぐに十分な水で洗い流す。	塩素系のアルカリ性洗剤
× 使用不可	排水パイプ用	排水パイプ用洗浄剤	ケイ酸塩(「オルトケイ酸ナトリウム」と成分表示している洗剤)	長時間接触による固着・変色の恐れ。	成分／オルトケイ酸ナトリウム
	その他	排水口洗浄剤	固形または粉末の塩素系の洗浄剤(ヌメリ取り剤など)	腐食・サビの恐れ。	ヌメリ取り剤
		洗浄剤などトイレ用	酸性の洗浄剤(塩酸・硫酸・フッ酸などの強酸、研磨材入りの酸性の洗浄剤)	サビ・変色の恐れ。	酸性の洗浄剤
		業務用洗剤	業務用洗剤	長時間接触による固着・変色の恐れ。	業務用洗浄剤

5.1. キャビネットの収納例

本項では収納例をご紹介します。豊富な収納を持つキッチンですので、ご参考の上、お役立てください。なお、キッチンにはさまざまな形状やキャビネット構成があるため、イラストとお客様がご使用の商品とは異なる場合があります。

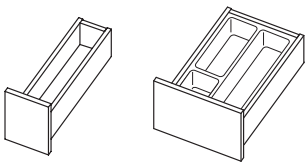
参照　収納に役立つアクセサリーパーツは下記ページを参照してください。
10.2. 引出しオプションパーツ P.74 ～ P.75
10.3. 便利アイテム P.76 ～ P.77

コンロキャビネット

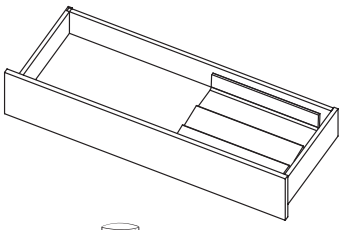
引出し部（1 段目）

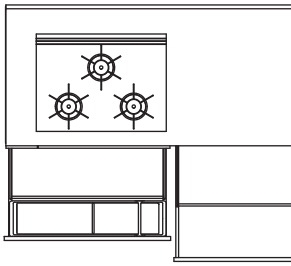
使用頻度の高い調味料を収納
スパイス類、袋物調味料、小物調味料

〈ガスコンロ・IH 用〉

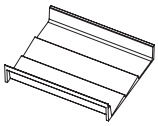


〈グリルレス用〉



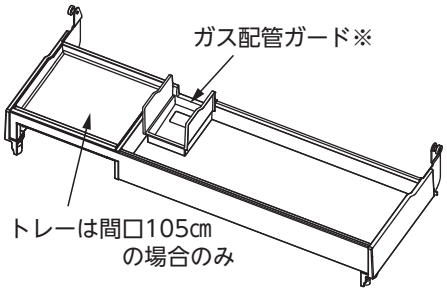


●グリルレストレー

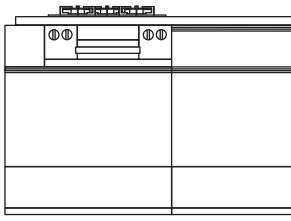


スパイス類、袋物調味料など

スライドボックス



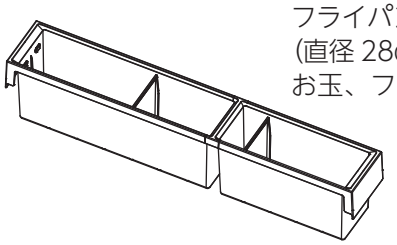
主に火周りで使用する両手鍋などの使用頻度の高い調理道具を、トレーにはミトンや鍋敷きなどを収納



※ガス配管ガードはガス配管に収納物がぶつかるのを防ぐために設置しています。収納物は絶対に入れないでください。

ツールポケット

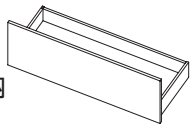
フライパン、片手鍋などの使用頻度の高い調理道具や、調味料ボトルを使いやすい位置にまとめて収納
フライパン（直径 28㎝まで）、片手鍋、鍋フタ（直径 28㎝まで）、しょうゆ、みりん、酒、油
お玉、フライ返し、菜箸、トング

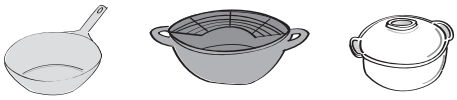


注意　柄などがスライドボックスに当たらないことを確認して収納してください。

引出し部（2 段目）

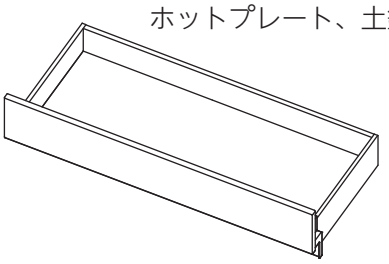
専用鍋や深鍋、圧力鍋などを収納





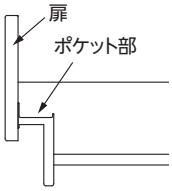
フロアコンテナ

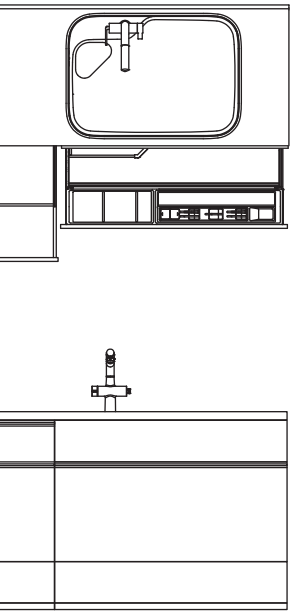
使用頻度の低い鍋やフライパン、季節使いの調理器具を収納
鍋、フライパン、カセットコンロ、ホットプレート、土鍋



ポケット部

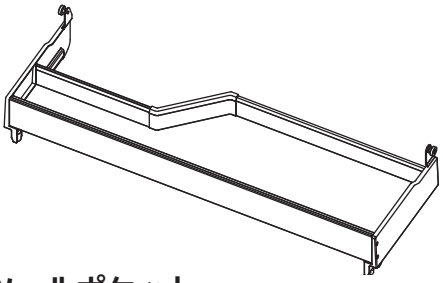
家庭用油凝固剤





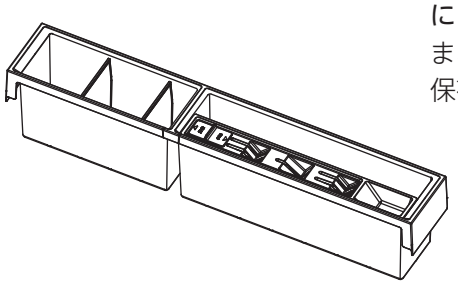
シンクキャビネット

スライドボックス

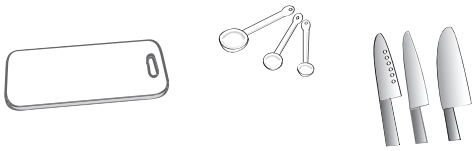


主に水回りで使用する調理道具などの使用頻度の高い収納物を、取り出しやすい場所にまとめて綺麗に収納
ボウル、ざる、スケール、計量カップ

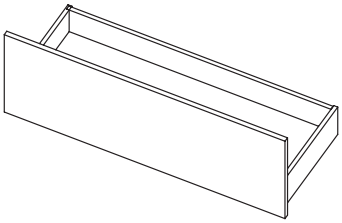
ツールポケット



まな板やラップなどの調理器具を使いやすい位置にまとめて収納
まな板、バット、泡だて器、ラップ、アルミホイル、保存袋、包丁（5本）



引出し部



水回りでよく使用する道具を収納
ボウル、ざる、計量カップ、はかり、ふるい、トレー、樹脂容器

フロアコンテナ

使用頻度の低い家電や、
清掃道具等の日用ストック品を収納
スポンジ、洗剤、タワシ、漂白剤

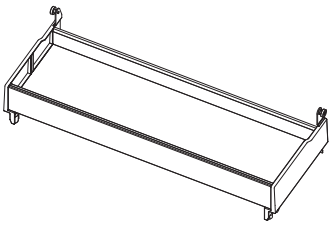
ポケット部

ラップ、ゴミ袋、スポンジ
アルミホイル等のストック品

ベースキャビネット

スライドボックス

使用頻度の高い食品をまとめて収納
キャニスター、調味料、食品、乾物



引出し部

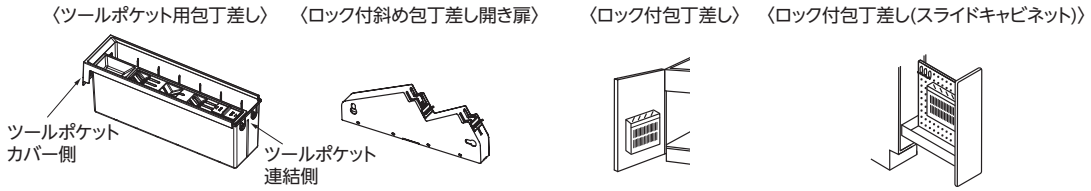
背の高い調味料を収納
水、ワイン、油、パスタケース

フロアコンテナ

食品の日用ストック品を収納
缶詰、ビール（500㎖）、樹脂容器

5.2. 包丁差し

包丁差し（ロック付）は 4 種類のタイプがあります。使用されている包丁差しをご確認の上、お読みください。



使用上の注意

必ず実行

包丁は水気をよく拭き取ってから収納する。

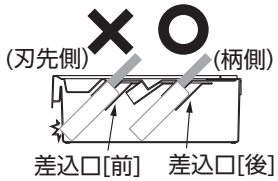
包丁をぬれたまま収納すると、扉や引出しが変形したり、腐食したりする恐れがあります。

収納できる包丁の本数・大きさ

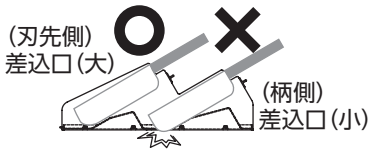
部位		収納本数	刃の長さ	刃の厚み	刃の幅
ツールポケット用包丁差し　※ 1	差込口（大）[前後]	2 本	210㎜以下	10㎜以下	58㎜以下
	差込口（小）[前後]	2 本	210㎜以下	6㎜以下	58㎜以下
	差込口（小）[中央]	1 本	250㎜以下	6㎜以下	40㎜以下
ロック付斜め包丁差し ※ 2	差込口（大）	2 本	210㎜以下	8㎜以下	55㎜以下
	差込口（小）	2 本	210㎜以下	5㎜以下	55㎜以下
ロック付包丁差し 開き扉、スライドキャビネット	差込口（大）	1 本	215㎜以下	6㎜以下	60㎜以下
	差込口（小）	3 本	215㎜以下	4㎜以下	55㎜以下

注 意
- 包丁の形状によっては、上記の寸法を満たしていても収納できない場合があります。
- 包丁のサイズ、形式によっては包丁が傾いて収納され、包丁差しの底面を傷つける場合があります。

〈ツールポケット用包丁差し〉



〈ロック付斜め包丁差し〉

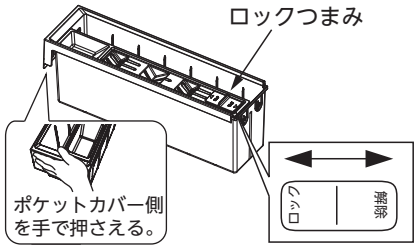


MEMO 包丁差しによっては差込口が大小 2 タイプあるものがあります。刃の厚みがある出刃包丁などは、差込口（大）に収納してください。

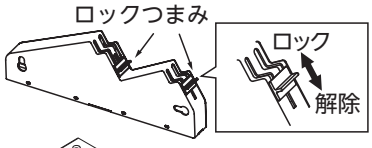
※ 1：ツールポケット用包丁差しでは、差込口により、収納できる包丁が異なります。刃先側の差込口に収納できない場合、柄側の差込口に収納できないかをご確認ください。

※ 2：斜め包丁差しでは、差込口により収納できる包丁が異なります。柄側の差込口に収納できない場合、刃先側の差込口に収納できないか、ご確認ください。

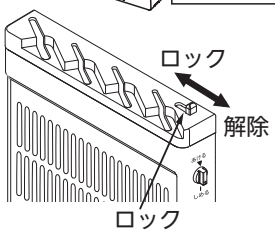
ロックのしかた



●ツールポケット用包丁差し
包丁差しの上面のロックつまみを「ロック」方向へずらすと、包丁が抜けなくなります。ロックを解除する場合は、ロックつまみを下へ押しながら「解除」方向へずらしてください。
（ポケットカバー側を手で押さえると操作がしやすくなります。）



●ロック付斜め包丁差し
包丁差しの上面のロックつまみを「ロック」方向（上）へずらすと、包丁が抜けなくなります。ロックを解除する場合は、ロックつまみを「解除」方向（下）へずらしてください。



●ロック付包丁差し
包丁差しのロックつまみを押しながら内側へスライドさせると、包丁が抜けないようにロックされます。

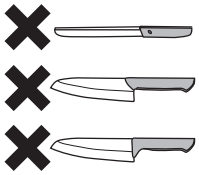
ロックのしかた（つづき）

注 意

・サイズの小さい包丁は、幅の狭い包丁差込口に収納してください。差込口とサイズが合っていないと、ロックが掛からない恐れがあります。

・刃と柄の部分に段差の少ないものや、柄の形状によっては、ロックが掛からず、引出しを引いた際に包丁が飛び出す恐れがあります。

・ロックを掛けるときは“カチッ”というまでロック方向にずらしてください。
しっかりとロックが掛からず包丁が抜ける恐れがあります。



包丁差しの脱着・左右入れ替えのしかた

- 包丁差しは、一部または全体を取り外してお手入れすることができます。
- ツールポケット用包丁差し､ロック付斜め包丁差しの場合､包丁差しの左右向きを変えることができます。

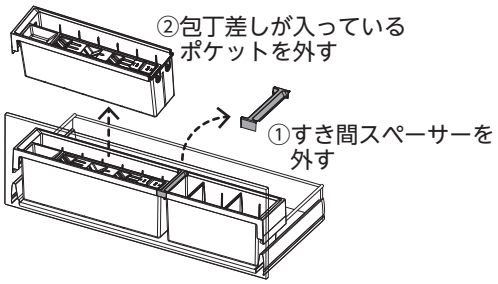
●ツールポケット用包丁差し

取り外し方

1. 包丁差しが入っているポケットを外す。

①すき間スペーサーを真上に持ち上げて外してください。

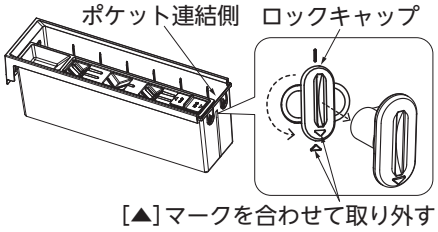
②包丁差しが入っているポケットを上に持ち上げるように外してください。



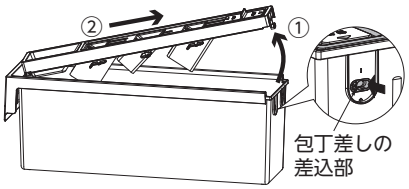
2. ロックキャップの矢印がポケット側の [I]から [▲]に合うよう､反時計回りにロックキャップを 180 度回して外す。

ポケット連結側にロックキャップが固定してあります。

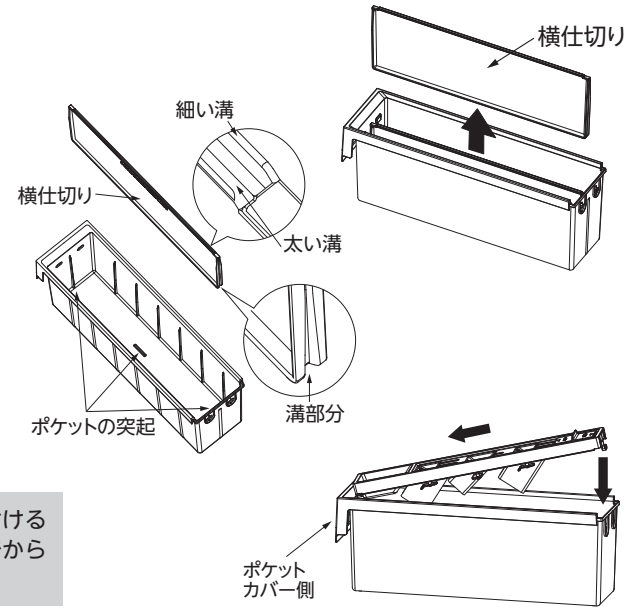
MEMO ロックキャップを回すときは、中央の凹形状に合わせて、コインなどを使うと簡単に回すことができます。



3. ロックキャップを外した長穴から、包丁差しの差込部分を押して、①包丁差しを右図の矢印の方向に持ち上げ、②斜め横に引き抜く。



4. 横仕切りを上に引き抜く。



取り付け方

1. 横仕切りを取り付ける。
横仕切りは包丁差しが入る側に太い溝部が向くように取り付けてください。

2. 包丁差しを右図のようにポケットカバー側に差し込んでから取り付ける。

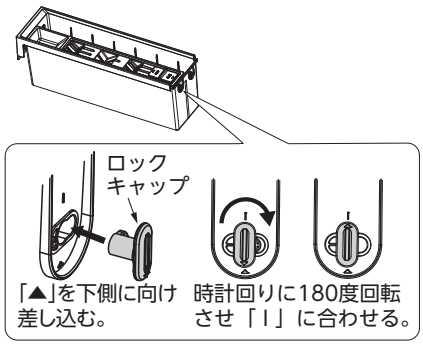
注 意 ポケット位置を通常の向きと反転させて取り付ける場合も必ずポケットカバー側を先に差し込んでから取り付けてください。

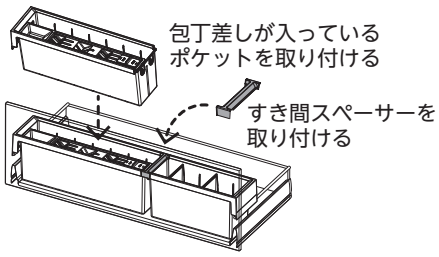
5.2. 包丁差し

包丁差しの脱着・左右入れ替えのしかた（つづき）

3. ロックキャップを差し込み、時計回りに 180 度回して固定する。
   このときロックキャップの［▼］をポケット側の［I］に確実に合わせてください。

4. 包丁差しが入っているポケットを真上から元の位置に取り付けて、横のポケットとの間にすき間スペーサーを取り付ける。

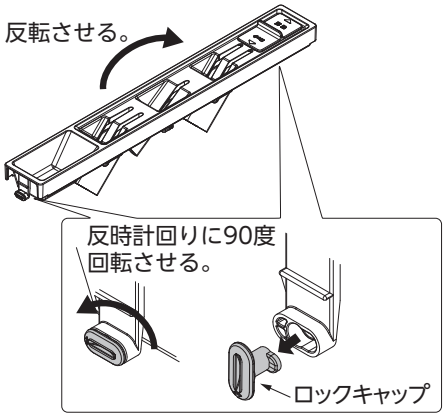




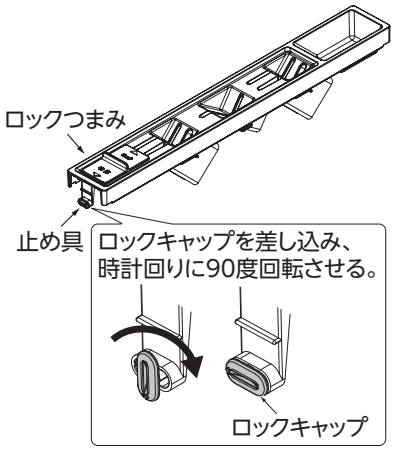
左右入れ替え方

1. 脱着した包丁差しの左右の差込部に付いている、ロックキャップを反時計回りに 90 度回転させ、取り外す。

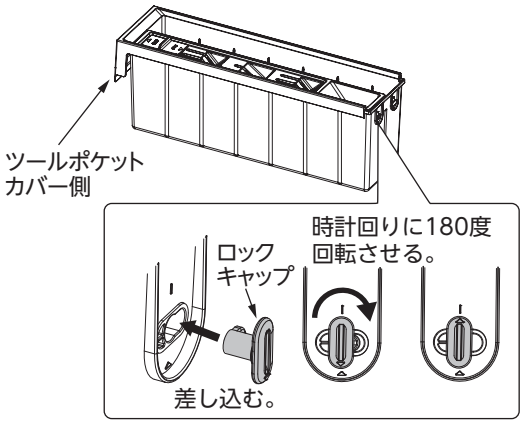
2. 包丁差し上部を反転する。



3. 包丁差し上部のロックつまみ側の止め具に、1. で取り外したロックキャップを取り付け、時計回りに 90 度回転させ、水平向きにする。



4. P.37 取り付け方 の手順に従い、ポケットに取り付ける。
   ポケットの外側から差し込むようにしてください。

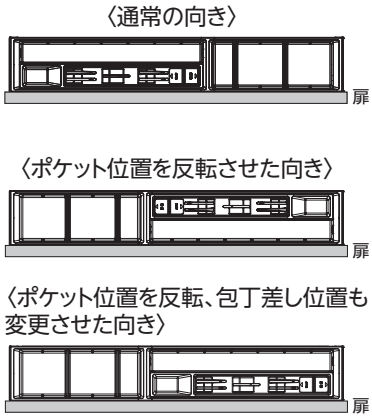


包丁差しの脱着・左右入れ替えのしかた（つづき）

〈ポケット位置を反転させ、包丁差し位置も変更する場合〉

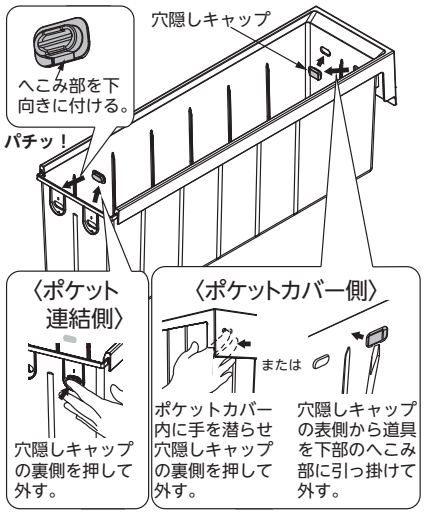
ツールポケット付キャビネットは通常では、引出しに向かって左側に包丁差し付ポケットが設置されています。使い勝手に応じて、ポケットの位置を反転する場合、包丁差しが奥側になってしまうため、手前側に設置する場合には以下の手順に従ってください。

MEMO 包丁差しが奥側でも使い勝手が問題なければ、変更する必要はありません。



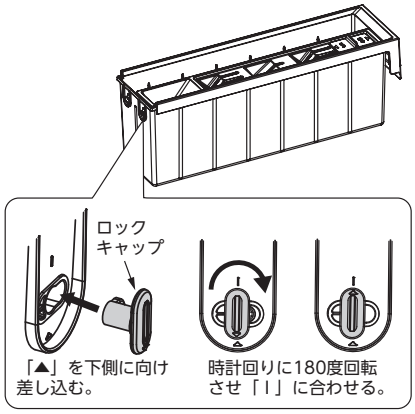
1. ポケットを反転させ、ポケットに取り付いている穴隠しキャップを取り外す。
   ポケット外側は、ポケットカバー内に手を潜らせて同様に外す。
   ・穴隠しキャップの裏側を押すと外れます。
   ・見えにくく、外しにくい場合は、穴隠しキャップ表側から⊖ドライバー等を使用して、穴隠しキャップの下部へこみ部に引っ掛けるようにしてゆっくりと外してください。

2. 1 で外した穴隠しキャップを奥側のポケットの開口穴に“パチッ”と音がするまで押し込む。
   穴隠しキャップのへこみ部を下に向けてください



3. P.37 取り付け方 の手順に従い、取り付ける。
   利き手によっては包丁差しの左右を入れ替えてご使用ください。

参照 左右入れ替え方 P.38

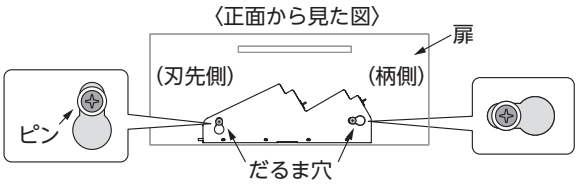


5.2. 包丁差し

包丁差しの脱着・左右入れ替えのしかた（つづき）

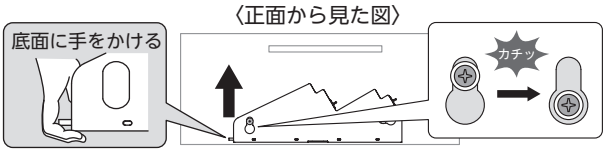
●ロック付斜め包丁差し

包丁差し本体のだるま穴に扉裏面の
2 つのピンを差し込んで固定しています。

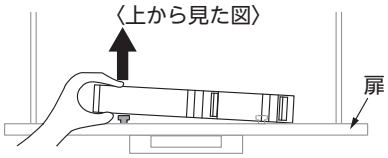


取り外し方

1. 刃先側の固定を外す。

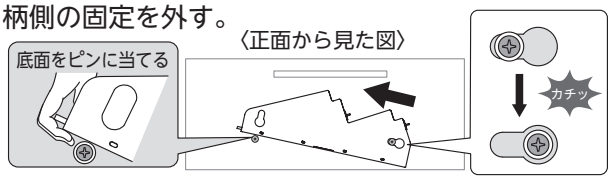


①本体底面に手をかけ“カチッ”というまで
強く上に引っ張る。

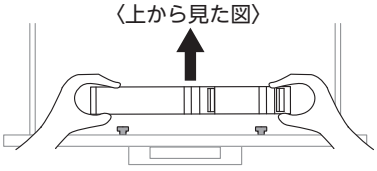


②上にあげたまま、引出しの
奥側へ動かす。

2. 柄側の固定を外す。

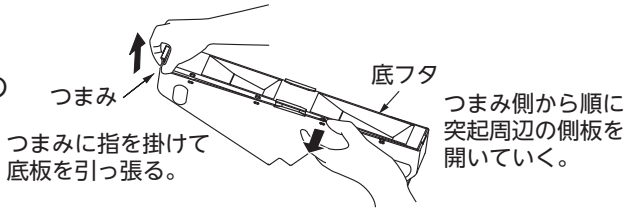


①柄側を“カチッ”というまで 強く刃先側に
押し出す。



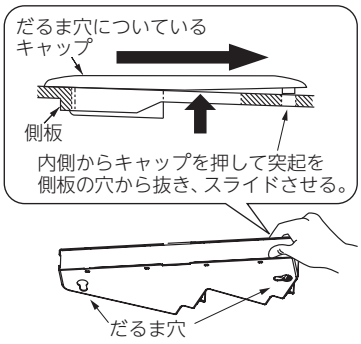
②刃先側に押しながら、引出しの
奥側へ動かす。

3. 包丁差しの底フタを外す。
底フタのつまみ (刃先側) に指をかけ、包丁差し
の側面を開いて、底フタの突起を包丁差し側面の
穴から外す。



取り付け方

取り外したときと逆の手順で取り付ける。
だるま穴の正しい位置にピンがはまると“カチッ”といいます。
そこまでしっかりと押し込んでください。



MEMO
・本体と扉の間にすき間があると、ピンがはまらない場合があります。
本体を扉に押し当てながら取り付けてください。
・包丁差しの向きを変える場合は、固定していなかった方のだるま穴に
ついているキャップを包丁差しの内側から押しながらスライドさせて
外し、反対側に取り付けます。

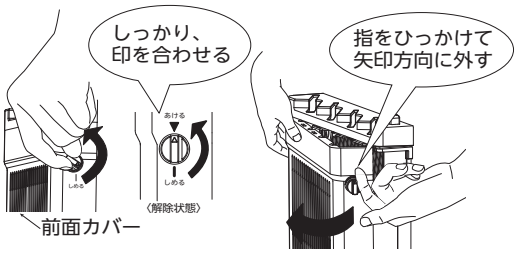
包丁差しの脱着・左右入れ替えのしかた（つづき）

●ロック付包丁差し

前面カバーを取り外す場合は、次の手順で行ってください。

取り外し方

1. 前面カバーロック部のつまみの「△」が前面カバー側面の「I（しめる）」から「▼（あける）」に合うように、反時計回りにつまみを 180 度回す。
   このとき、印をぴったり合わせないと前面カバーが外れないようになっています。
2. 前面カバーロック部のつまみに右図のように指を引っ掛け、前面カバーを本体から取り外す。



取り付け方

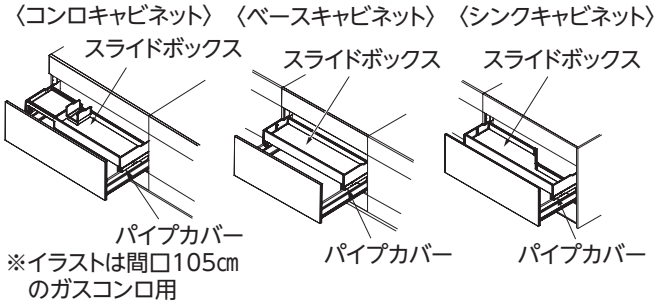
取り外した時と逆の手順で取り付ける。

MEMO ・つまみが回しにくい場合は、つまみ横の溝を利用してコインなどでも回すことができます。

注 意
- 包丁差しの前面カバーを取り外す前に、包丁はすべて外してください。ケガをする恐れがあります。
- 本体受けを固定しているねじは外さないでください。包丁の落下につながる恐れがあります。
- ロック部は 180 度以上回せないようになっています。無理に回そうとすると、前面カバーロック部が破損する恐れがあります。
- つまみ横の溝はコインを利用して回すためのものです。つめを引っ掛けて外さないでください。ケガをする恐れがあります。
- 使用時は、必ずつまみ部の「△」を「I（しめる）」に合わせてください。

5.3. スライドボックス

スライドボックスはよく使う調理道具を手元に近い高さで出し入れでき、使用頻度に合わせて２層で効率的に収納できます。
引出しを引くと、スライドボックスも一緒に引き出されるので、開け閉めするわずらわしさを減らします。



使用上の注意

必ず実行

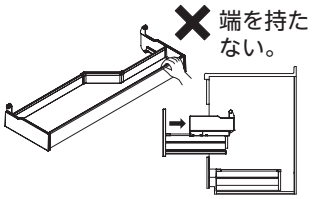
調理道具などは水気をよく拭き取って収納する。

ぬれたまま収納すると、扉や引出しが変形・腐食する恐れがあります。

必ず実行

開閉する際は、スライドボックスの取っ手中央部を持ち、ゆっくりと前後にスライドさせる。

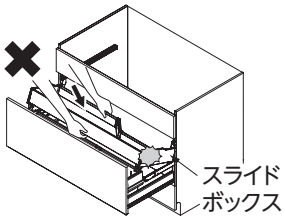
取っ手の端を持って操作したり、斜めに引き出したりすると、脱輪して破損する恐れがあります。



必ず実行

スライドボックスを脱着するときは、ツールポケットを取り外してから、引出しや扉裏面にぶつからないように注意する。

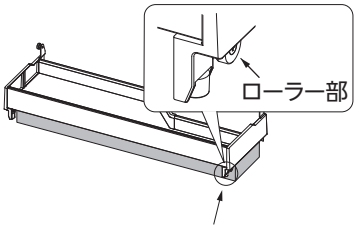
引出しやツールポケットが傷つく恐れがあります。



必ず実行

スライドボックスを床に置く際は、ローラー部分が破損しないよう、かさ上げして床に置く。

スライドボックスのローラー部（下部）をそのまま床に置くと、変形・破損する恐れがあります。

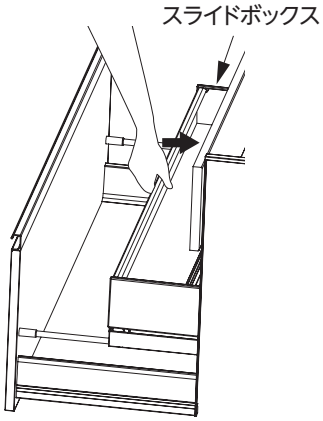


※かさ上げしてローラー部が床に触れないようにしてください。

使い方

スライドボックスの使い方

- 引出しを引き出すとスライドボックスも一緒に引き出されます。
- 下段の中身を取り出したいときは、扉を押さえながら、スライドボックスの手掛け部の中央を持って、ゆっくりと後方へスライドさせてください（手前をやや持ち上げながら動かすとスムーズにスライドできます）。
- 引出しを閉めてから再度引き出すと、再びスライドボックスも一緒に引き出されます。



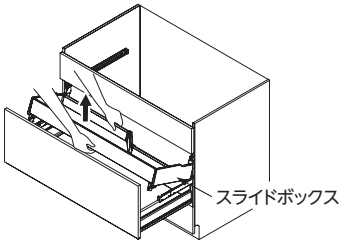
注 意　手前を過度に持ち上げて操作すると、スライドボックスがガイドレールから外れる恐れがあります。

5.3. スライドボックス

スライドボックスの脱着

取り外し方

引出しを全開させて中の収納物を取り出してから、スライドボックスの前板と背板を持ち、斜め上へ持ち上げる。



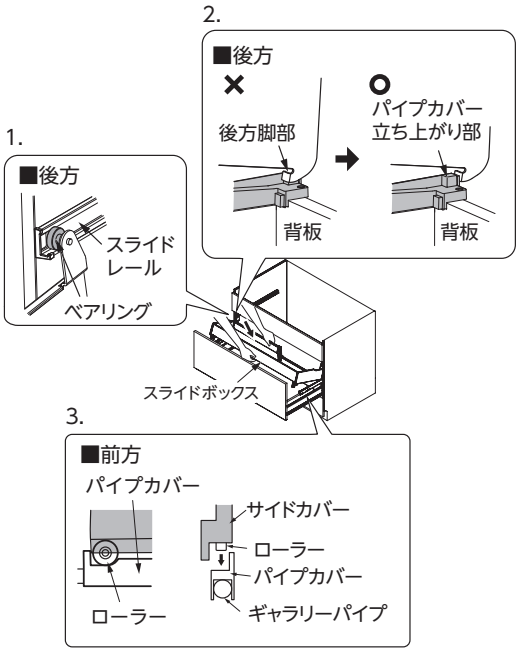
注 意
・必ず引出しを外す前にスライドボックスを外してください。スライドボックスを外す前に引出しを外そうとすると、部品が落下し、ケガをする恐れがあります。
・ガスコンロをご使用の場合、コンロキャビネット用スライドボックスには専用ガス配管ガードがついています。脱着時に他の部品に当たらないよう注意してください。

取り付け方

1. 右図のようにベアリングをスライドレールの溝に差し込む。
2. サイドカバーの後方脚部がパイプカバーの立ち上がり部より奥になるようにセットする。

注 意 取り外す際、パイプカバー立ち上がり部に引っ掛かり取り出せなくなるため注意してください。

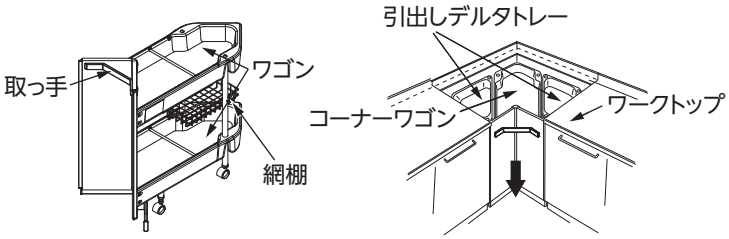
3. 前方は、パイプカバーの手前側の1段下がっている部分にスライドボックス前側のローラーが載るようにセットする。



注 意
・ローラーが確実に載っているか、確認してください。ずれていると、脱落する恐れがあります。
・引出しを 3 ～ 4 回開閉して、スライドボックスがガタつかないか確認してください。後方脚部がパイプカバーの立ち上がり部より手前になるように設置すると、正しくセットされず、スライドボックスがガタつく原因になります。

5.4. コーナーキャビネット（ワゴンタイプ）

サッと引き出せるコーナーワゴンには、普段使用するものを収納し、両サイドの引出しデルタトレーには、あまり使用しないものを収納することをお勧めします。



使用上の注意

必ず実行

引出しデルタトレーやコーナーワゴンをキャビネットに収納する際は、ゆっくりと押し入れる。

勢いよく入れると、隣の扉に当たって傷がついたり、扉やレール、樹脂部品が破損する恐れがあります。また、収納物が転倒する場合があります。

禁止

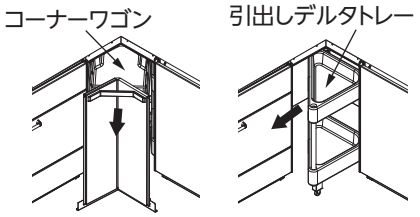
取っ手を握りながら下方向に過度に力を加えない。

コーナーワゴンの収納量が少ない場合、コーナーワゴン後方のキャスターが持ち上がることがあります。水平方向に力を加え、ゆっくり操作してください。

使い方

コーナーワゴンの使い方

- コーナーワゴンが完全に引き出された状態で、両サイドの引出しデルタトレーをそれぞれ引き出して使用してください。
- コーナーワゴンを手前に引き出して、お好きな場所までコーナーワゴンを運んで収納物の出し入れができます。

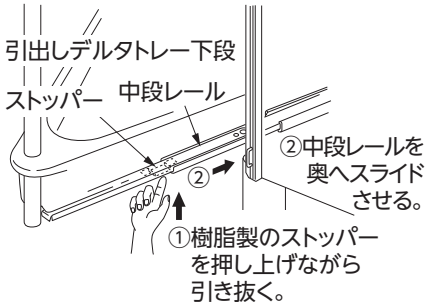


引出しデルタトレーの脱着

取り外し方

1. レール下面にある樹脂製のストッパーを指で上に押し上げながら、引出しデルタトレーをいっぱいまで引き出す。
2. レールをキャビネットの奥方向へスライドさせる。

   レールから取り外せるようになります。レールから外れた状態では、引出しデルタトレーは自立できませんので、倒れないように手で支えてください。



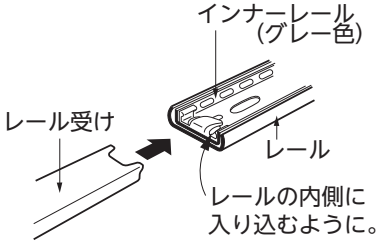
注 意 レールがない状態では、引出しデルタトレーは自立できません。必ず、収納物は取り除いてから取り外してください。

取り付け方

1. 側板についているレールを奥まで入れる。
2. インナーレール（グレー色）をレール手前に移動させる。
3. 引出しデルタトレーについているレール受けを、レールの内側に入り込むように当てがって、奥まで押し込む。

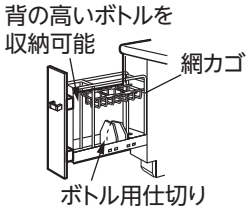
   レールの奥になるほど、少し強めに押してください。
4. 引出しデルタトレーを引き出して、所定の位置でトレーが止まることを確認する。

   外れる場合は、再度、引出しデルタトレーを取り付けて、前に取り付けたときよりも、さらに奥に押し込んでください。



5.5. ボトル収納スライドキャビネット

ボトル収納スライドキャビネットには一升ビンやペットボトルを収納することができます。また、上部の網カゴには、調味料の小ビンなどが収納できます。



使用上の注意

禁止

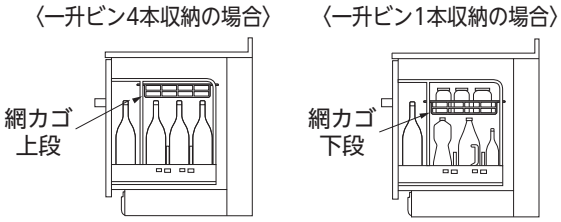
勢いよく引出しを閉めない。

故障や破損の原因になります。

使い方

ボトル収納スライドキャビネットの使い方

上部の網カゴは、収納量に応じて、取付位置を上下に可動できます。一升ビンを 2 本以上収納する場合は、網カゴを上段に取り付けてください。



MEMO ボトル収納スライドキャビネットは、収納ラックに何も入れない場合や、小物類のみを収納した場合は、引出しの開閉時にぶれが大きく感じることがありますが、故障ではありません。

ボトル用仕切りの脱着

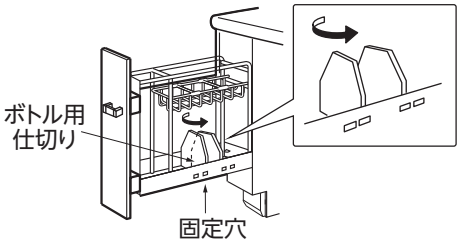
取り外し方

右図の矢印のように仕切りを斜めにして取り外す。

取り付け方

側面の固定穴に合わせて仕切りを差し込む。

“カチッ”と音がするまで、しっかりと差し込んでください。



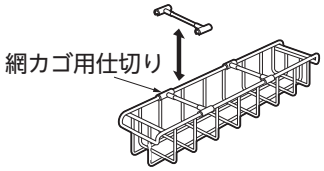
網カゴ用仕切りの脱着

取り外し方

網カゴをラック本体から外し、仕切りのＴ字の樹脂部分を強く引っ張って外す。

取り付け方

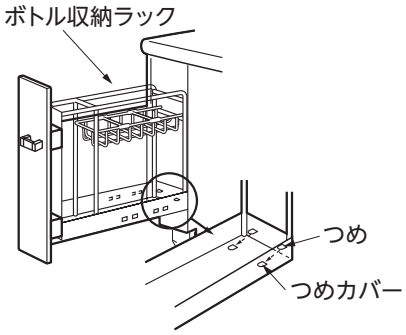
取り外したときと逆の手順で取り付ける。



ボトル収納ラックの脱着

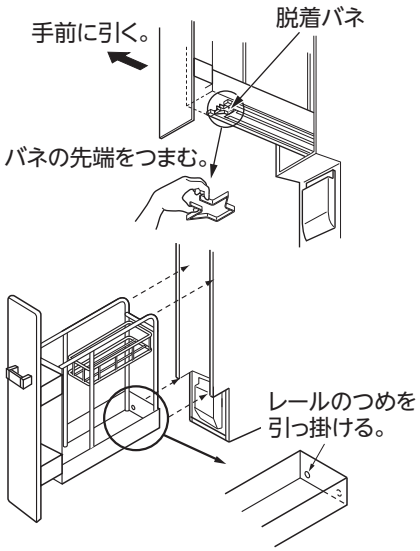
取り外し方

1. ボトル収納ラックを引き出す。
2. ボトル収納ラック奥側についているつめカバーを取り外す。
3. ボトル収納ラック本体の下側の脱着バネの先端をつまみながら、ボトル収納ラック本体を手前に引いてレールから取り外す。



5.5. ボトル収納スライドキャビネット

ボトル収納ラックの脱着（つづき）



取り付け方

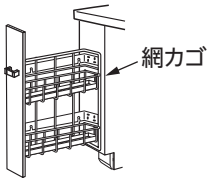
1. レールをキャビネット内に収納する。
2. ボトル収納ラック本体下側の脱着バネの先端をつまみながら、レールに合わせて脱着バネを取り付け、ボトル収納ラック本体を奥側までスライドさせる。

   確認のため、ボトル収納ラックを手前にスライドさせ、奥側にレールのつめが掛かっているかどうか確認してください。つめが掛かっていない場合は、もう一度ボトル収納ラックをしっかりとキャビネット奥に収納してください。
3. ラック奥側のつめのカバーを取り付ける。

注 意　ボトル収納ラックを取り外す場合は、収納物を取り除いてから行ってください。

5.6. 網カゴスライドキャビネット

網カゴスライドキャビネットには、上下の網カゴに調味料の小ビンなどが収納できます。



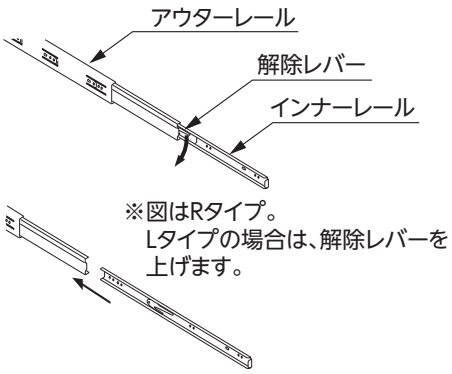
使用上の注意

勢いよく引出しを閉めない。

故障や破損の原因になります。

使い方

網カゴラックの脱着



取り外し方

インナーレールについている解除レバーを下げながら（Ｌタイプの場合は上げながら）、レールを引き出す。

取り付け方

アウターレールにインナーレールを合わせ、差し込む。解除レバーがアウターレールに完全に隠れるまで、確実に差し込む。

5.7. 開き扉・引出し・棚板・点検口

使用上の注意

●開き扉、引出し

必ず実行

コンロキャビネットの引出しは、コンロと接触しないように調整する。

コンロと扉や取っ手がこすれて、傷の原因になります。

禁止

扉と引出しを過度な力で勢いよく閉めない。

サイレント効果が弱まる恐れや、サイレントダンパー、ブルモーション機構が破損する恐れがあります。

必ず実行

開き扉内の内引出しを引き出す場合は、開き扉をしっかり開く。

内引出しと開き扉がぶつかり、傷の原因になります。

禁止

引出しにものを入れすぎない。

収納物の重量や高さによっては、引出しの開閉がしにくくなったり、収納物が上の扉とぶつかったりする恐れがあります。
スライドボックス付の場合、引出しやツールポケットには、スライドボックスとぶつからないように収納物を入れてください。

参照　重量に関する規定　収納アイテム　P.18 ～ P.19

必ず実行

引出し内の左右のギャラリーパイプやスライドボックスよりも外側に収納物が出ないようにする。

キャビネットや扉を傷つけたりする恐れがあります。

禁止

ギャラリーパイプを持って引出しを脱着しない。

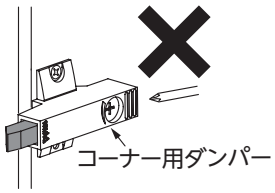
故障する恐れがあります。

●サイレントダンパー

禁止

サイレントダンパーは設置位置を変えない。

効果を発揮させるための、最適な位置に取り付けてあります。無理に固定ねじをゆるめて位置を動かすと、サイレントダンパーが外れたり、破損したりする恐れがあります。

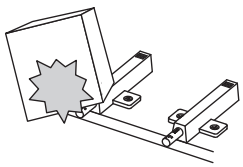


●プッシュラッチ

必ず実行

プッシュラッチを避けて収納する。収納物を取り出すときは、プッシュラッチに当たらないようにする。

収納物が当たって、プッシュラッチが破損する恐れがあります。

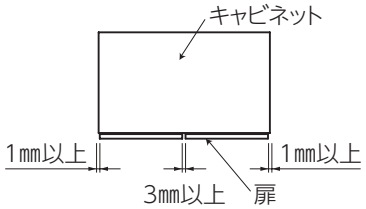


5.7. 開き扉・引出し・棚板・点検口

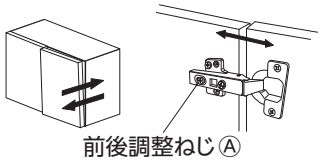
使い方

開き扉の調整のしかた

- 調整前に丁番、座のゆるみがないことを確認してください。ゆるみがある場合は、丁番と座を取り付けているねじをしっかり締め付けてください。
- 扉の左右両端とキャビネットの外側との間隔が 1㎜以上になるよう左右調整してください。また、左右両開き（観音開き）扉の場合は、扉と扉のすき間が 3㎜以上になるようにしてください。
- 扉面とキャビネットが平行になるように調整してください。

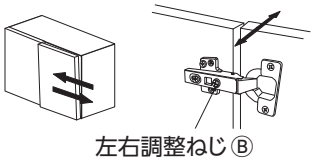


●前後調整



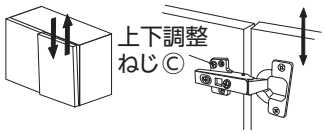
ねじⒶを左に回すと扉が前に、右に回すと扉が後に動きます。

●左右調整



ねじⒷを右に回すと扉が外側に、左に回すと扉が内側に動きます。

●上下調整



ねじⒸをゆるめて扉を上下に調整した後、調整ねじⒸを締め直します。

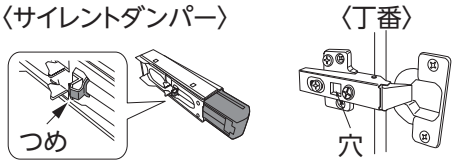
MEMO　コーナー用扉の場合は、前後、左右の調整時に扉の動く向きが図と逆になります。

丁番のお手入れ

- 丁番はときどき汚れやほこりを取り除いてください。
- 潤滑油などをときどき注油していただくと、開閉がなめらかになります。

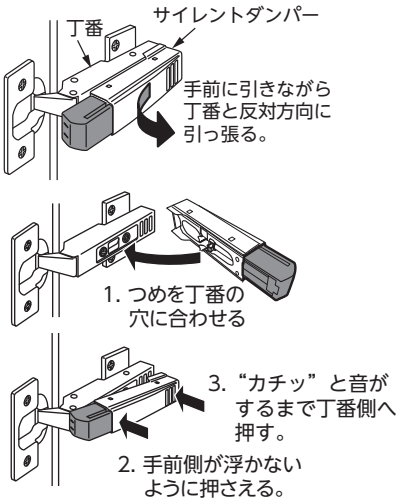
サイレントダンパーの脱着

※サイレントダンパーは機構上、すべての丁番にはついていません。扉の片側（上部または下部）、もしくは扉の大きさや扉の種類によっては両側（上部および下部）についている場合があります。サイレントダンパーを外したときは、必ず元の丁番に取り付けてください。



取り外し方

サイレントダンパーを手前に引きながら、手前側を丁番と反対方向に引く。



取り付け方

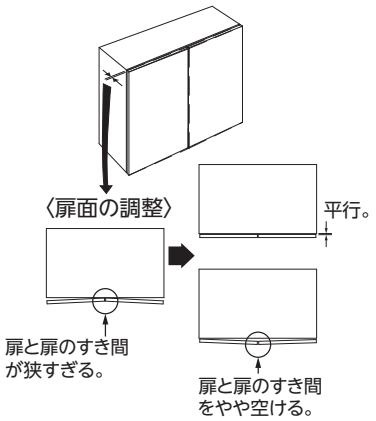
1. サイレントダンパーの裏面のつめが、丁番の長方形の穴に入るように合わせる。
2. 手前側が浮かないようにしっかり押さえる。
3. 奥側を“カチッ”と音がするまで丁番側に押し込む。

注 意　サイレントダンパーを脱着する際は、必ずこの方法で行ってください。無理に脱着するとサイレントダンパーのつめが変形し、落ちて、ケガをする恐れがあります。

サイレントダンパーの脱着（つづき）

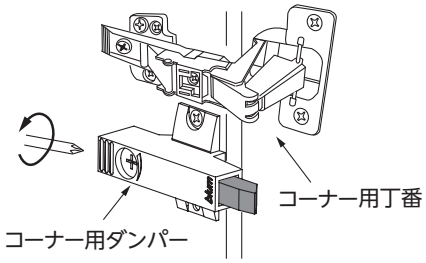
以下の場合は、サイレント効果が弱いと感じられます。
①扉を閉めた状態で、扉の丁番取り付け部よりも、扉の裏面がキャビネット本体に近すぎるとき。
②小さいサイズの扉のとき。
③左右両開き（観音開き）扉で、片方の扉を開けた状態で、もう片方を閉めたとき。

上記①、②の場合には、扉面がキャビネットと平行、もしくは扉の裏面をキャビネットからやや離すように扉を調整してください。



コーナー用サイレントダンパーの調整のしかた

コーナーキャビネット（棚板タイプ）、コーナー吊戸棚には右図のようなサイレントダンパーがついています。サイレントダンパーの押し代を伸ばしたり、縮めたりすることで、扉を閉めるときに、ダンパーが扉の裏面に接触してから閉まりきるまでの時間を調整することができます。



サイレントダンパーのねじを正面から向かって反時計回りに回すとサイレントダンパーの押し代が伸びて、扉が閉まりきるまでの時間が長く（強）なります。時計回りに回すと押し代が縮まり、時間が短く（弱）なります。

扉を閉めるとき、扉裏面とサイレントダンパーの先端がこすれる音がする場合があります。その場合には、サイレントダンパーの先端部がずれないことを確認しながらサイレントダンパーのねじを回し、調整すると音は消えます（サイレント効果は変わりません）。

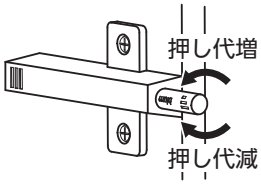
注 意 サイレントダンパーを脱着する際は、必ずこの方法で行ってください。無理に脱着するとサイレントダンパーのつめが変形し、落ちて、ケガをする恐れがあります。

サイレントダンパーのお手入れ

扉を開閉する頻度によっては、扉裏面のサイレントダンパーの接触する部分が汚れる場合があります。その場合は、中性洗剤を使って拭き取ってください。

プッシュラッチの調節のしかた

- プッシュラッチの先端を回転させることによって、扉の押し代を調整することができます。
- プッシュラッチの先端を正面から向かって反時計回りに回すと、扉の押し代が増えます。時計回りに回すと扉の押し代が減ります。

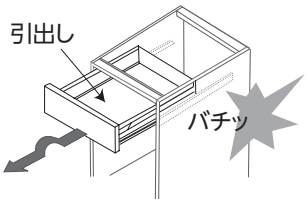


5.7. 開き扉・引出し・棚板・点検口

引出しの脱着

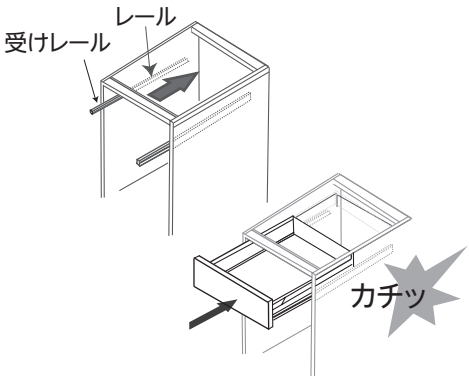
取り外し方

1. 引出しに入っている収納物を全て取り出す。
2. 引出しをストップするところまで引き出す。
3. 少し持ち上げて（“バチッ”と音がしてロックが外れる）、レールと平行に静かに引き出す。

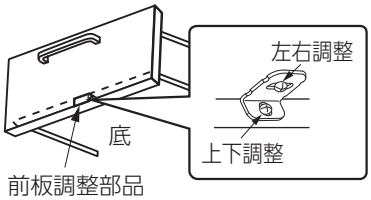


取り付け方

1. 受けレールを奥まで入れる。
2. 引出しの奥 1/3 くらいを受けレールに載せ、レールと平行に静かに奥まで押す（“カチッ”と音がしてロックが掛かる）。
3. 3 ～ 4 回引出しを開閉させ、引出しのブルモーション機構がしっかりと作動することを確認する。



引出し前板の調整のしかた

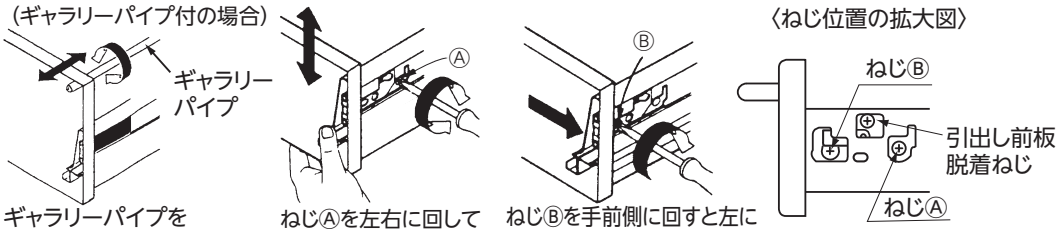


キャビネットの間口 60㎝以上の引出しには、前板裏面と引出し底板に前板調整部品がついています。ねじをゆるめてから下記の手順で調整を行い、調整後は必ずねじを締め直してください。

1. 脇カバーを外す。

2. 調整する方向によって、下図のようにねじを回してください。

● 前板傾き調整　● 上下調整　● 左右調整



ギャラリーパイプを左に回すと手前に右に回すと奥に傾きます。

ねじⒶを左右に回して調整します。

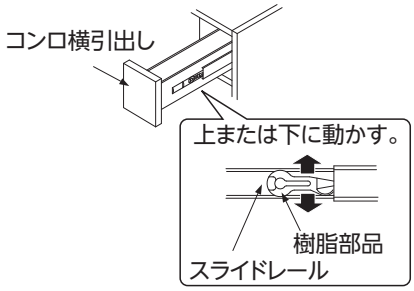
ねじⒷを手前側に回すと左に奥側に回すと右に動きます。

3. 調整後、脇カバーを戻す。

注 意 コンロキャビネットの引出しは、コンロと接触しないように調整してください。コンロと扉や取っ手がこすれて、傷の原因になります。

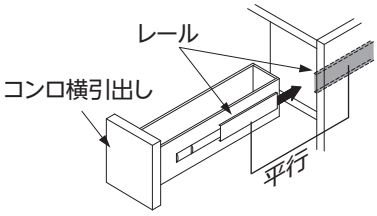
- 引出し前板の左右両端とキャビネットの外側との間隔が 1㎜以上になるよう左右調整してください。
- 引出し前板とキャビネットが平行になるように調整してください。

コンロ横引出し（扉面材タイプ）の脱着



取り外し方

1. 引出しを引き出して、全開にする。
2. 右図のように、レールの樹脂部品を上または下へ動かして、さらにレールと平行に静かに引き出す。

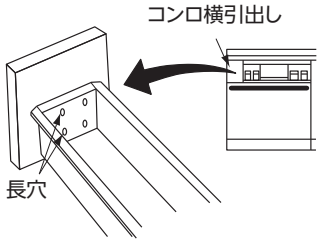


取り付け方

1. 右図のように、レールどうしを平行に合わせ、ゆっくりと静かに奥まで押す。

コンロ横引出し前板の調整のしかた

コンロキャビネットのコンロ横引出し前板を固定しているねじ穴は長穴になっていて、前板の上下調整をすることができます。
ねじをゆるめて調整してください。その後、必ずねじを締め直してください。



※樹脂前板タイプの場合、長穴が2コ
扉面材タイプの場合、長穴が4コになります。

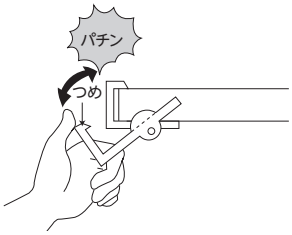
注 意 扉を調整する場合は、ねじのゆるめすぎに気をつけてください。ねじをゆるめすぎると扉が落下して、ケガをする恐れがあります。

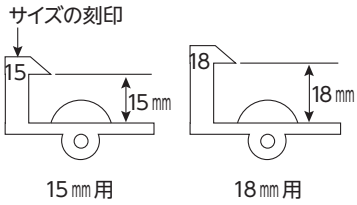
5.7. 開き扉・引出し・棚板・点検口

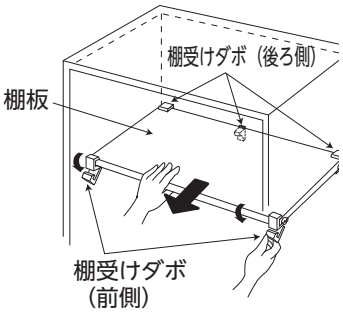
棚板の脱着

取り外し方

1. 前側の左右の棚受けダボのつめ部分を、棚板を押さえながら、“パチン”と音がして外れるまで、手前へ強く引く。
2. 棚板を前へ引いて取り外す。







注 意 棚受けダボは、棚板の厚さ（15㎜、18㎜）によってサイズが異なります。必ず棚板と組み合わせて使用、保管してください。棚受けダボのサイズは、ダボ横に刻印されています。

取り付け方

1. 棚受けダボを棚受けダボ穴に根元まで差し込む。

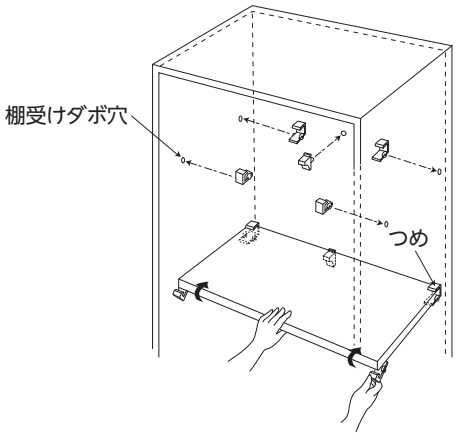
   幅の大きい棚板は、キャビネット背板の中央部分にも棚受けダボがあります。

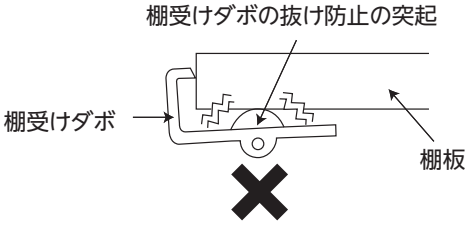
注 意
- 差し込みが浅いと、棚板が棚受けダボの抜け防止の突起部分に当たり、棚受けダボが破損する恐れがあります。
- 棚板をセットするときは、棚受けダボにある「抜け防止の突起」を変形させないでください。棚板のガタつきの原因になります。

2. 後ろ側の棚受けダボのつめに、棚板をしっかりとはめ込む。
3. 棚板を押さえながら、前側の棚受けダボを下から強く押し上げる。

   つめが棚板にはめ込まれ、“パチン”という音がするまで押し上げてください。
4. 棚板にガタつきがないか、確認する。

   ガタつきがある場合は、取り付け直してください。

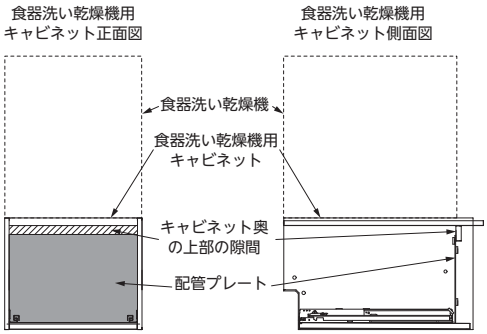




食器洗い乾燥機用キャビネット　配管プレートの脱着

配管プレートは食器洗い乾燥機用キャビネットの奥にあるため、はじめに引出しを取り出す必要があります。

参照 P.50 引出しの脱着

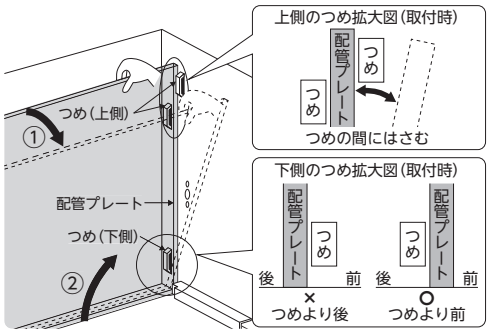


取り外し方

1. キャビネット奥の上部の隙間から配管プレートの端をつまみ、手前に引き上側の左右のつめの間から外す。
2. 配管プレートを手前に引き、キャビネットから取り出す。
   配管プレートが、下側の左右のつめの手前に位置していることを確認してから取り付けてください。

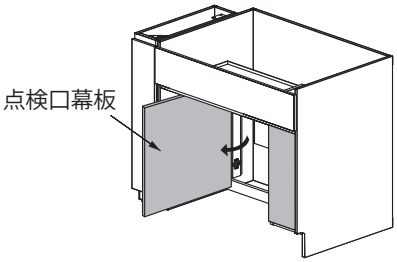
取り付け方

取り外した時の逆の手順で取り付ける。



シンクキャビネット　オープンタイプ用点検口幕板の開閉方法

シンクキャビネットオープンタイプをご使用の場合で、浄水器や整水器のカートリッジを交換する際には、点検口幕板の上部に手をかけて開閉してください。



注意　点検口幕板内部は収納スペースではないので、浄水器や整水器のカートリッジ以外は置かないでください。

6.1. 使用上の注意、お手入れのしかた

使用上の注意

昇降式の吊戸棚をご使用の際は、以下の点にご注意ください。

禁止

棚やラックが降りてくる範囲には、背の高いものを置かない。

収納ラックとぶつかり、破損する恐れがあります。

禁止

棚に衝撃を与えるように、勢いよくものを置かない。ものを引きずらない。

傷や破損の原因になります。

禁止

棚にぬれた包丁・缶詰などの金属製品、塩・しょうゆを長時間放置しない。

もらいサビを起こす恐れがあります。

必ず実行

昇降操作はハンドルの中央を持ってゆっくり行う。

端を持つと、レールが変形し、異音、破損の原因になります。また、勢いよく引き出すと、収納物の落下や、機構部の故障の原因になります。

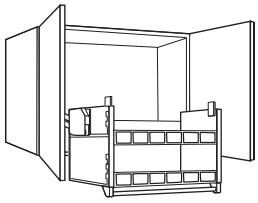
お手入れのしかた

吊戸棚収納の各アイテムについて、特に記載がない場合は次の方法でお手入れをしてください。

- 通常のお手入れは、綿などの柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れは、薄めた中性洗剤をスポンジなどに含ませて落としてください。次に、水を含んだ布で洗剤を拭き取り、その後、乾いた布で乾拭きしてください。

6.2. ムーブダウン吊戸棚、スライドパントリー（ムーブダウンタイプ）

ムーブダウン吊戸棚は、昇降バネの強さを切り替えることができるので、収納量が多くても軽い力で降ろせる可動式の吊戸棚です。



使用上の注意

禁止

落下防止バーを持って引き出さない。

落下防止バーが外れたり、曲がったりする恐れがあります。

必ず実行

落下防止バーを必ず掛けて使用する。

昇降時に収納物が動いて落下する恐れがあります。

禁止

ぬれたものを収納しない。

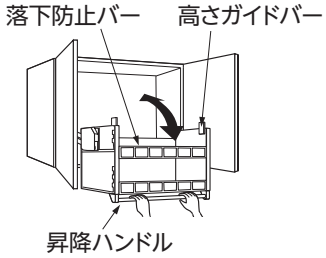
破損やサビの原因になります。

使い方

ムーブダウン吊戸棚の使い方

昇降ハンドルの中央部を両手で持ち、ゆっくり上げ下げしてください。

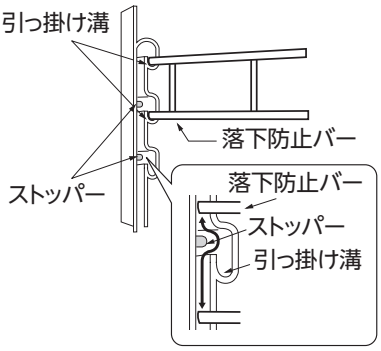
MEMO 操作感は収納物の量や間口、バネ切り替えレバーの設定により異なります。



落下防止バーの調整のしかた

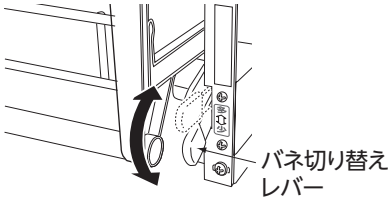
収納物に合わせて、落下防止バーの位置を調節してください。

1. 落下防止バーを両手で持ち、引っ掛け溝から外して、右図のようにストッパーをよけながら上下に移動させる。
2. 位置が決まったら、落下防止バーの両端を確実に、引っ掛け溝に入れる。



バネ切り替えレバーの調整のしかた

収納物の重さに応じて、表を目安にバネ切り替えレバーを調節してください。収納物の出し入れの後には、必ず操作性を確認して、必要があれば調節してください。

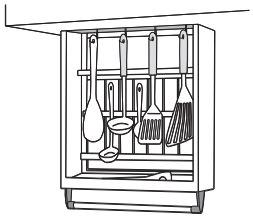


MEMO
- 使い始めの何も収納物が載っていないときは、バネ切り替えレバーを左右とも「少」の位置にしてから、引き下げてください。それ以外の位置では、操作が重く感じます。
- 収納ラックが下がっているときには、レバーは切り替えできません。収納ラックを上げて、レバーを調整してください。

収納重量（目安）	左レバー	右レバー
0～ 5 kg	少	少
5～10 kg	少	多
	多	少
10～15 kg	多	多

6.3. プルダウン吊戸棚

プルダウン吊戸棚は、手前が通常棚板で、奥が昇降ラックになっています。
- 調味料棚タイプは、調味料や香辛料を収納できます。
- レードルラックタイプは上下２段にレードルが掛けられ、下部の小物トレーには菜箸などを収納できます。



使用上の注意

禁止

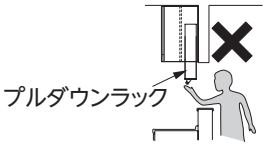
ぬれたものを収納しない。

サビの原因になります。

禁止

対面側からプルダウンラックを上下操作しない。

ケガや破損の原因になります。
プルダウンラックの操作は、キッチン側から行ってください。



使い方

プルダウン吊戸棚の使い方

下げる場合は、操作バーの中央部を持ち、ゆっくり垂直に下げてください。上げる場合も同様にゆっくり垂直に上げてください。

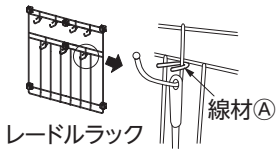
注 意 収納物がない状態では、操作がかなり重く、上げる際にはバネの力で急上昇するので気をつけてください。

●調味料棚タイプ

- 間口 45㎝タイプの上段にはキッチンペーパーが､間口 30㎝タイプの上段には調味料が収納できます。
- 下段には調味料や香辛料が収納できます。

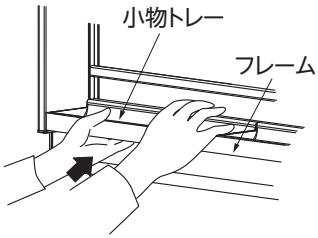
●レードルラックタイプ

- フック部分の上についている線材Ⓐは、プルダウン吊戸棚を昇降する際に、フックからレードルが落下しないために取り付けられています。レードルは線材Ⓐの下部に掛けるようにしてください。
- 小物トレーには菜箸などを収納することができます。



小物トレーの脱着

収納物をすべて取り出してから行ってください。



底から押し上げて外す。

取り外し方

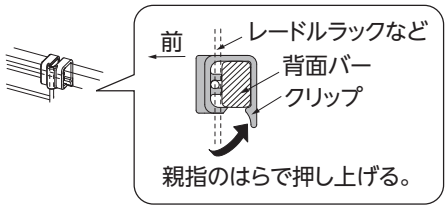
底から小物トレーを押し上げる。

飛び出しを防ぐために、もう片方の手を添えながら行ってください。

取り付け方

小物トレーとフレームを水平にして、上から垂直にセットする。

ラック類の脱着

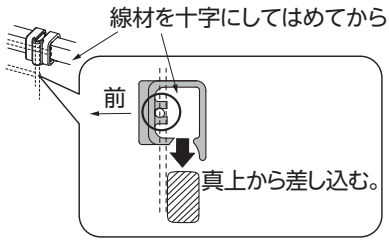


取り外し方

親指のはらを使って左右のクリップを同時に押し上げる。

取り付け方

1. ラックの線材が十字になっている部分にクリップをはめ込む。
2. 背面バーの真上からクリップを左右同時に差し込む。



ペーパーラックは、クリップの前後を逆にして使う。

MEMO ペーパーラックは、クリップを前後逆にして取り付けてあります。

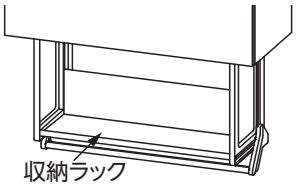
注 意 使用する前に、ラック類がきちんとセットされているか確認してください。ラック類が落下してケガをする恐れがあります。

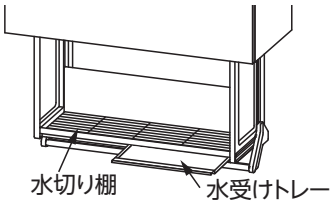
お手入れのしかた

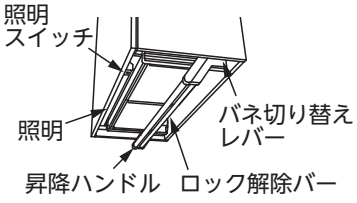
調味料棚に敷いてある樹脂シートは、水を含んだ布で洗剤を拭き取った後、自然乾燥させます。乾拭きをする場合は、ティッシュペーパーや毛脚の長いタオルなどでこすると繊維が付着する恐れがあるので、乾いた布で行ってください。その他のお手入れは P.48 を参考に行ってください。

6.4. ハンドムーブ

ハンドムーブは、調理道具や調味料、食器類などを収納できる上下可動式の収納ラック付吊戸棚です。
- 収納棚タイプは、調味料やキッチンペーパーなどを収納できます。
- 水切りタイプは、洗った食器や調理道具などを収納できます。







使用上の注意

禁止

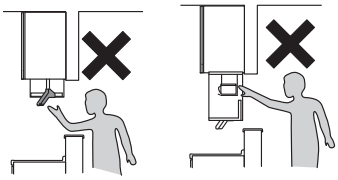
収納物や水受けトレーがはみ出したまま昇降させない。

収納物の落下によるケガや、ラック、キャビネットの破損の恐れがあります。

禁止

対面側からラックを上下操作しない。対面側から収納物を取り出さない。

ケガや破損の原因になります。
収納ラックの操作は、キッチン側から行ってください。



必ず実行

お手入れの際は、収納重量とバネ切り替えレバーを目安の設定に合わせ、降ろしきった状態で行う。

手をはさみ、ケガや破損の原因になります。

禁止

お手入れの際は、ロック解除バーを手前に引かない。

手をはさみ、ケガや破損の原因になります。

禁止

ラックの背板に収納物を強くぶつけない。

庫内が変形して、水が垂れる恐れがあります。

禁止

水切りタイプにぬれたものを収納する場合、食器や調理器具に水気がたまったまま収納しない。

収納時に水が垂れ、庫内のすき間および下面から水が垂れる恐れがあります。

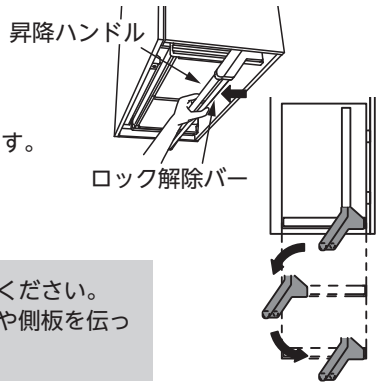
必ず実行

水切りタイプにぬれたものを収納する場合、水受けトレー内に納まるように置く。

水受けトレーおよび、キャップレールより外側に置くと、収納庫の端から水が垂れる恐れがあります。

ハンドムーブの使い方

下げる場合は、昇降ハンドルの中央部を持ち、ロック解除バーをしっかりと握って、ゆっくり手前に引きます。昇降ハンドルを引き切ったら、押し下げてください。上げる場合も同様にゆっくり操作してください。

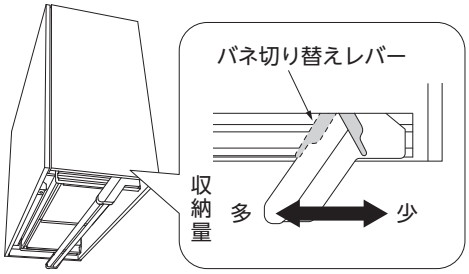


MEMO 操作感は収納物の量や間口、バネ切り替えレバーの設定により異なります。
- 収納庫全体の最大収納量は約 8kgです。
- 収納できる大きさは高さ 35㎝、奥行き 23㎝までです。
- 収納物の重さが偏らないように、均等に収納してください。

注 意
- 食器や調理器具などにたまった水気をあらかじめ捨ててからしまってください。
- ぬれたまな板や洗ったものを背板に密着させて収納した場合に、背板や側板を伝って庫外に水が垂れることがあります。

バネ切り替えレバーの調節

収納物の重さに応じて、表を目安にバネ切り替えレバーを調節してください。収納物の出し入れの後には、必ず操作性を確認して、必要があれば調節してください。

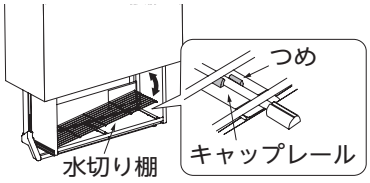


MEMO
- 使い始めや、何も収納物が載ってないときは、バネ切り替えレバーを左右とも「小」の位置にしてから、引き下げてください。それ以外の位置では、操作が重く感じます。
- 収納ラックが下がっているときには、レバーは切り替えできません。収納ラックを上げきってから、レバーを調節してください。

収納重量（目安）	左レバー	右レバー
0～4 kg	少	少
4～7 kg	少	多
	多	少
7～8 kg	多	多

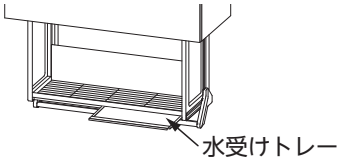
水切り棚の脱着

ゆっくりとキャップレールから外してください。
取り付ける場合は、キャップレールのつめにしっかりと押し込んでください。



水受けトレーの脱着

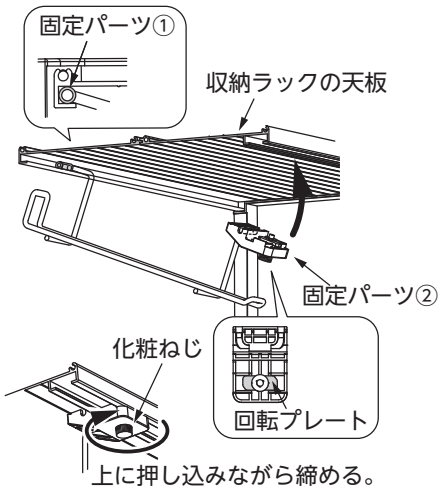
両手で持ち、ゆっくりと手前にスライドさせ、外してください。



ラックの脱着（皿立てラック・カトラリーラックを除く）

取り付け方

1. 上棚板裏面の奥側にあるラック取付溝に固定パーツ①を下方向からはめ込む。
   固定パーツ①をはめ込む際は、右図を参照して向きに注意してください。
2. 回転プレートが手前にあるラック取付溝に平行であることを確認し、固定パーツ②を下方向からはめ込む。
3. 固定パーツ②の化粧ねじを上に押し込みながら締め、ラックを固定する。
   ラックの化粧ねじは確実に締め、固定パーツ①②が外れないことを確認してください。



取り外し方

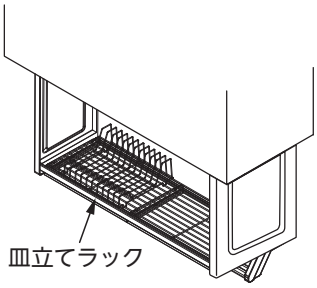
外すときは、化粧ねじを上に押し込みながら、取り付けのときと逆の手順で外す。

6.4. ハンドムーブ

皿立てラックの脱着

水切り棚の目に合わせて置いてください。

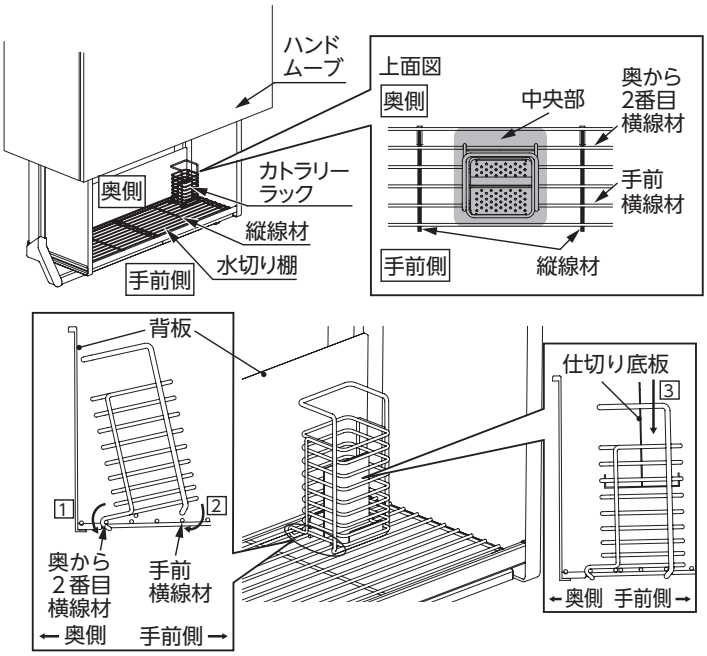
MEMO 収納庫のたわみを避けるため、皿立てラックをご使用の際は、収納庫の中央付近への設置は避け、左右どちらかに寄せてご使用ください。中皿、大皿（直径 23㎝）11 枚まで収納できます。



カトラリーラックの脱着

カトラリーラックは水切り棚に取り付けて、箸や、スプーン、フォークなどのカトラリー類を収納することができます。

カトラリーラックの脱着はハンドムーブ水切り棚の縦線材間の中央部で行ってください。



取り付け方

1. カトラリーラックのフック形状の脚を水切り棚の奥から 2 番目の横線材に引っ掛ける。
2. カトラリーラックの手前側の脚を本体を手前に引きながら水切り棚の手前の横線材にはめ込む。
3. 仕切り底板を上部から入れる。

取り外し方

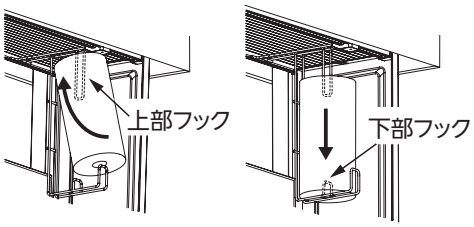
取り付けのときと逆の手順で取り外す。

MEMO
- 構造上、固定が固くなり、取り外しにくい場合があります。必ず、水切り棚を押さえながら取り外してください。
- カトラリーラックの脱着はラック内および収納庫内の収納物を取り除いてから行ってください。
- 収納する際は、ハンドムーブ本体から収納物が出ないように収納してください (収納物長さ制限:30㎝)。

ペーパーホルダーの使い方

取り付け方

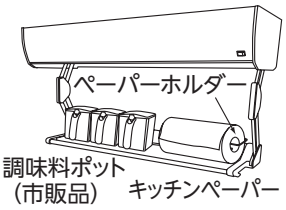
1. ペーパーホルダーの上部フックにキッチンペーパーを下方向からはめ込む。
2. キッチンペーパーを奥側の下部フックにはめ込む。



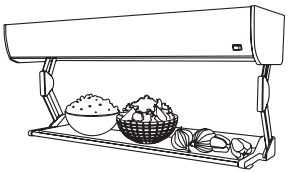
6.5. アイエリアボックス

アイエリアボックスは収納や一時置きに便利な昇降棚です。
- 水切りカウンタータイプは、食材などの仮置きや、洗い物をした後の皿やざる、ボウル、鍋などの一時置きに使用できます。
- 調味料棚タイプは、キッチンペーパーや調味料を収納できます。

〈調味料棚タイプ〉



〈水切りカウンタータイプ〉



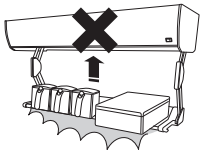
使用上の注意

●調味料棚タイプ

必ず実行

棚から収納物がはみ出したまま昇降させない。

収納物の破損・落下によるケガや、アイエリアボックスの破損の恐れがあります。

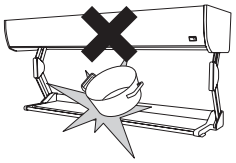


●水切りカウンタータイプ

禁止

水切り棚に衝撃を与えるように、勢いよくものを置かない。ものを引きずらない。

傷や破損の原因になります。



禁止

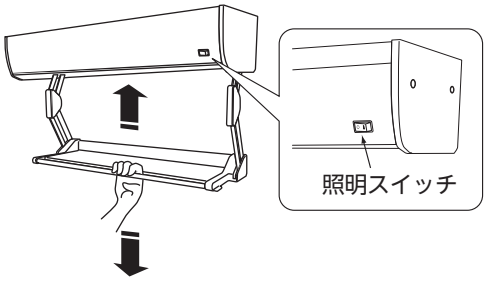
ぬれた包丁・缶詰などの鉄製品を長時間放置しない。

もらいサビを引き起こす恐れがあります。

アイエリアボックスの使い方

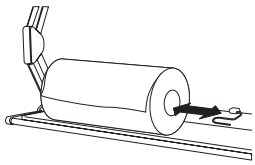
- 下げる場合は、操作バーの中央部を持ち、逆手でゆっくり垂直に下げてください。上げる場合も同様にゆっくり垂直に上げてください。

  MEMO 操作感は収納物の量や間口によって異なります。
- 棚は降ろしきった状態で使用してください。
- 照明は、棚が上がった状態でも使用できます。



●水切りカウンタータイプ
- 一時置きとして使用できます。棚の上に物を置いたまま棚を上げないでください。
- 水受けトレーにたまった水は、こまめに捨ててください。

●調味料棚タイプ
- 収納できる大きさは高さ 12㎝以内、奥行き 18㎝までです。
- 収納物の重さがかたよらないように、均等に収納してください。
- 収納物がない状態では、棚を下げるときに操作が重く感じます。
- キッチンペーパーを取り付けられるペーパーホルダーが付いています。ペーパーホルダーをスライドさせて、キッチンペーパーの芯に差し込んで使用してください。



水受けトレーの脱着

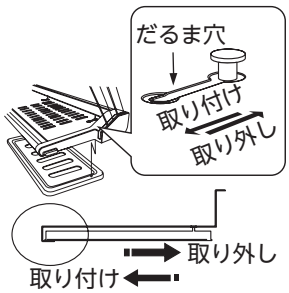
取り外し方

両手でトレーを後方にスライドさせ、トレーのピンがだるま穴（8 の字型の穴）から外れる位置で下に降ろす。

取り付け方

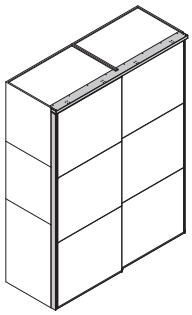
取り外し方の逆の手順で行う。

トレーは手前までしっかりとスライドさせてください。



7.1. スライドパントリー

- スライドパントリーは、大型の扉面材で収納物を隠し、すっきりとしたキッチン空間を実現する引戸収納です。
- カウンタータイプでは、2口のコンセント付きで、ミキサーやブレンダーなどの調理器具を立てたまま収納でき、作業台としても使えます。
- 下台のオープンタイプは、市販のゴミ箱を引き出さずにゴミを捨てることができます。底板がないので、重たいビンや飲料水など、ストック品の出し入れも容易です。



使用上の注意

必ず実行

扉を開く際は、開く反対側の扉が閉まりきった状態であることを確認し、ゆっくりと開く。

異音や破損の原因となります。

必ず実行

内引出しを引き出す際は、扉が開ききった状態であることを確認し、引き出す。

内引出しと扉がぶつかって、破損する恐れがあります。

禁止

扉にもたれかかったり、扉を前後に強く押さないでください。

扉がたわんだり、部品が破損する恐れがあります。

禁止

勢いよく扉を開閉しないでください。

異音や破損の原因となります。

使い方

スライドパントリーの使い方

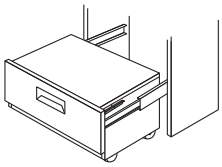
扉端の取っ手中央部を持ってゆっくり開閉してください。

カウンターの使い方

- 付属のコンセントは、1口1480W以下の機器が使用できます。
- 蒸気が出る家電は使用しないでください。

7.2. ステップコンテナ

- 高い位置のものを取るときの踏み台としても活用できる収納です。
- 完全に引き出すと動かないように、自動的にロックが掛かります。

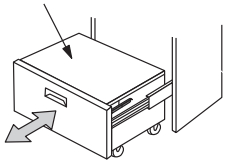


使用上の注意

必ず実行

ステップコンテナを開閉する場合は、扉中央部の取っ手を持ってゆっくりと開閉する。

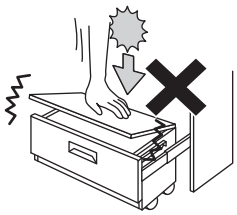
扉の端で開閉すると、レールへの負荷がかかり、故障や作動不良の原因となります。



禁止

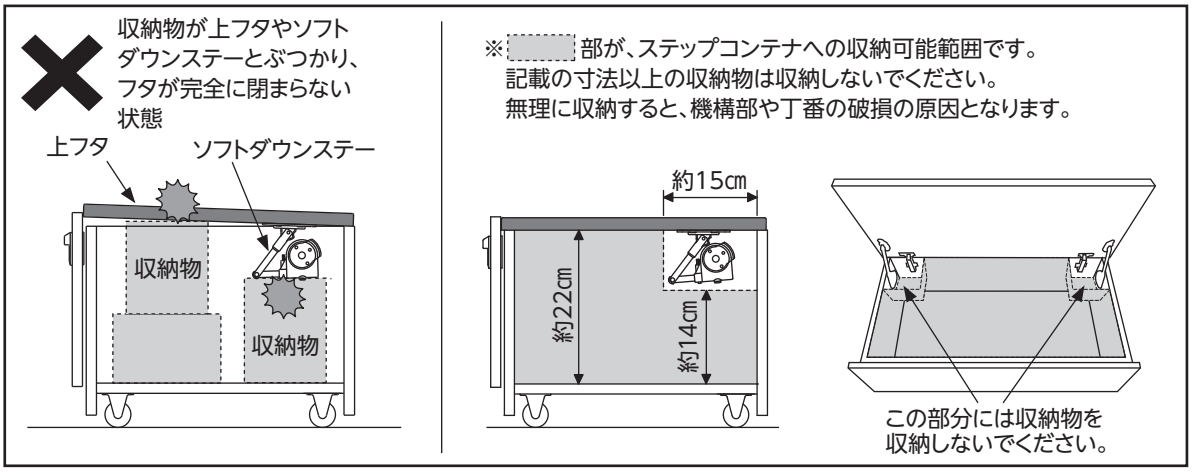
ステップコンテナのステップ部（上フタ部）を収納物がはみ出た状態で閉めたり、無理に力を入れて急に閉めない。

開閉時に手や指をはさまないようフタがゆっくり閉まる機構がついています。機構部への負荷は故障の原因になります。また、収納物がはみ出したり、機構部とぶつかった状態で無理に力を入れてフタを閉めると、フタや機構部の破損の原因となります。



ステップコンテナの使い方

- 台の中央部に乗って、高いところにある収納物を出し入れできます。
- 取っ手を持ってステップコンテナを引き出してください。ロック機構が働くまで完全に引き出してください。収納する場合は、ステップコンテナ左右のロックレバーを上へ上げて、ロック機構を解除してください。
- 上フタを開けるとステップコンテナの中に食器や道具類を収納できます。
- ものが奥に落ちた場合や、掃除をする際には、ステップコンテナを引き抜くことができます。
- 収納物が上フタ部やソフトダウンステーとぶつかった状態で使用すると、フタや機構部の破損の原因となります。ステップコンテナに収納物を入れる際には必ず下記内容を確認してください。

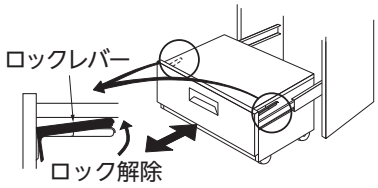


7.2. ステップコンテナ

ステップコンテナの脱着

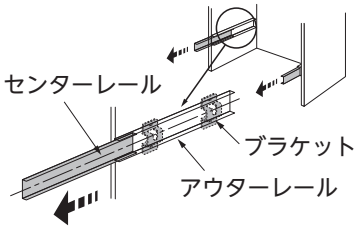
取り外し方

1. ステップコンテナ左右のロックレバーに手を添えて、解除位置までロックレバーを上へ上げて解除する。
2. 両手でゆっくりとまっすぐに引き抜く。



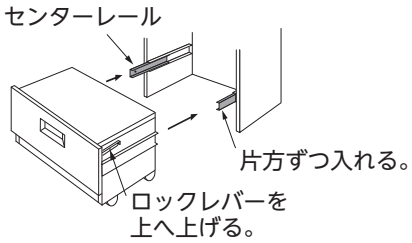
取り付け方

1. キャビネット側のセンターレールを手前に引き出す。
   キャビネット側のアウターレールがブラケットから外れないように、引き出してください。

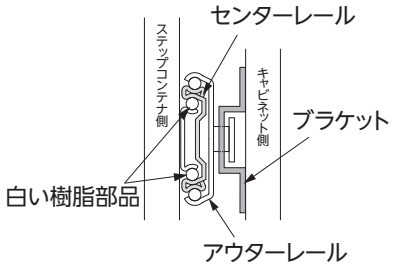


アウターレールがブラケットから外れないようにする。

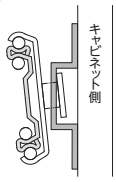
2. ステップコンテナのロックレバーに手を添えて、解除位置まで両側のレバーを上へ上げる。



3. ステップコンテナのレールと、キャビネット側のセンターレールの内側にある白い樹脂部品がはさまるように位置を合わせて、左右片方ずつゆっくりとまっすぐに差し込み、約 20㎝収納後、手を離して扉を前から強く押して収納する。
   ステップコンテナを斜めに差し込むと、下部のキャスターが一方向にしか動かないため、必ずステップコンテナをまっすぐにして、差し込んでください。
   センターレールは、固定されず内倒れしますので、手を添えながら差し込んでください。



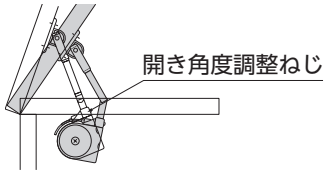
✕ 内倒れに注意。



4. ステップコンテナを完全に引き出して、ロックが掛かるか確認する。
   ロックがうまく掛からない場合は、もう一度引き抜いて最初からやり直してください。

ソフトダウンステーの開き角度の調整

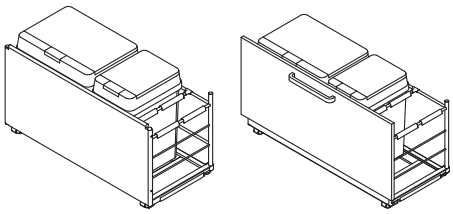
ステップコンテナのフタを開けたときに、ステーのアーム部がまっすぐでない場合は、図の開き角度調整ねじを⊕ドライバーで調整してください。アームが一直線に伸びた状態になるのが正しい状態です。



7.3. リサイクルゴミワゴン

リサイクルゴミワゴンは、家電収納庫や引出し下のスペースに複数のゴミ箱が置け、資源ゴミの分別に便利です。キャスターつきなので作業中のゴミ捨ても簡単です。

〈リサイクルゴミワゴン〉



使用上の注意

禁止

ポリ袋ストッパーと仕切りバーをワゴンの持ち手として使用しない。

ポリ袋ストッパーと仕切りバーが取れる恐れがあります。

必ず実行

ゴミを入れたまま長時間放置しない。臭いの気になるゴミは、新聞紙にくるんだり、ビニール袋に入れたりして、こまめに捨てる。

悪臭の原因になります。

禁止

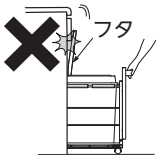
生ゴミは収納しない。

悪臭の原因になります。

必ず実行

ゴミ箱のフタが閉まっていることを確認してから、キャビネットに収納する。

フタが開いている状態で収納しようとすると、フタが破損します。



禁止

ワゴンの出し入れ時に、収納するキャビネットや隣接するキャビネットに強く当てない。

破損の原因になります。

禁止

キャスターにゴミや汚れがついた状態で使用しない。

床材に傷や汚れがつく恐れがあります。

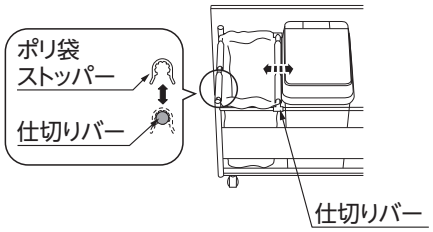
使い方

リサイクルゴミワゴンの使い方

- リサイクルゴミを収納する場合は、汚れたものや水分が付着しているものは、汚れを落として、乾燥させてから収納してください。
- ワゴンの開閉時は、両手で取っ手または、前板上部を持ちながら引き出してください。ワゴンが左右にぶれず、引き出しやすくなります。

ポリ袋の止め方

1. ポリ袋ストッパーの脱着がしやすいように、仕切りバーを横にスライドさせる。
2. ポリ袋ストッパーを上に引っ張って外す。
3. 右図のようにポリ袋を広げて、袋の端をはさむようにポリ袋ストッパーで止める。



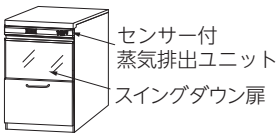
MEMO ポリ袋ストッパーがついていないタイプもあります。

7.4. 家電収納庫

- 電気炊飯器、電気ポット、コーヒーメーカーを置くことができます。
- 扉付家電収納庫は、家電をスッキリと隠すことができます。

〈家電収納庫〉

〈扉付家電収納庫〉



使用上の注意

禁止

家電の電源コードをスライド台のレールにはさまない。

断線、感電の原因になります。

禁止

スライド台を手前へ引き出した状態で、無理な力をかけない。

破損の原因になります。

●扉付家電収納庫

必ず実行

スイングダウン扉は、キャビネット下部の引出しやワゴンを収納した状態で操作する。

ワゴンや引出しとスイングダウン扉がぶつかり、破損する恐れがあります。

使い方

家電収納庫の使い方

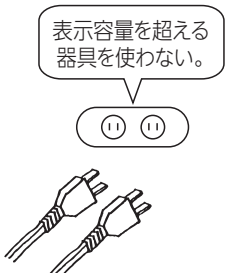
- スライド台レールには、動き防止のためのストッパーがついています。スライド台を奥まで収納したときと、手前まで引き出したときに炊飯器等の家電の操作などで、スライド台を動かないようにするためのストッパーです。
- ご使用になるときは、奥まできちんと収納し、または手前まできちんと引き出し、ストッパーが働いていることを確認してください。

●蒸気排出ユニット付タイプ

- スライド台をキャビネット内に収納したままで炊飯・沸騰ができます。
- 蒸気排出ユニットの使い方は、付属の取扱説明書をお読みください。

●蒸気排出ユニットなしタイプ

- 炊飯・沸騰などを行うときは、スライド台をキャビネットから引き出した状態で使用してください。



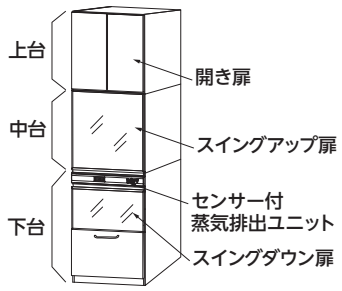
付属のコンセントは下記の容量の器具が使用できます。

- 蒸気排出ユニット付の場合・・・各口　1480W
- 蒸気排出ユニットなしの場合・・・2口合計　1500W

注 意 電気コンロ、ガスコンロ、ガス炊飯器、電子レンジは置かないでください。

7.5. 扉付トール家電収納庫

- 家電を一カ所にまとめながら、扉でスッキリと隠すことができます。
- 中台には電子レンジを置くことができます。
- 下台には、電気炊飯器、電気ポットを置くことができます。



使用上の注意

●中台（スイングアップ扉収納部）

必ず実行

オーブンレンジ・電子レンジの設置の際には、離隔距離を守って設置する。

レンジからの熱により、キャビネットが傷む恐れがあります。離隔距離については、ご使用の機種の取扱説明書をご参照ください。

必ず実行

扉を全開にした状態で、オーブンレンジ・電子レンジを使用する。

熱のこもりやすい半開状態では通電せず、使用できません。

必ず実行

使用後のオーブンレンジが高温である場合は、十分冷ましてから扉を閉める。

冷却ファンが作動する機種の場合は、ファンが動いている間（最大３０分程度。ご使用の機種の取扱説明書をご参照ください。）は扉を閉めないでください。高温のまま扉を閉めると、庫内に熱がこもり、キャビネットが傷んだり、収納機器が故障する恐れがあります。

必ず実行

キャビネット内部に水滴がついた場合は、すぐに拭き取る。

キャビネットの変色やふくれなどの恐れがあります。

禁止

上台の扉が開いた状態で、中台のスイングアップ扉を開けない。

フラップ扉とスイングアップ扉が接触して破損する恐れがあります。

禁止

スイングアップ扉を開けた状態で、無理な力をかけない。

電気が遮断される恐れがあります。

扉付トール家電収納庫の使い方

●中台（スイングアップ扉収納部）
- 電子レンジを置くことができ、使用しないときは扉ですっきり隠せます。
- スイングアップ扉が半開きの状態では通電しないので、内部に熱がこもりにくい安全な設計です。
- 天板は、スチームオーブン等からの蒸気に強いステンレス貼り仕様です。

●下台（スイングダウン扉収納部）
- 扉付家電収納庫と同様の使い方をしてください。

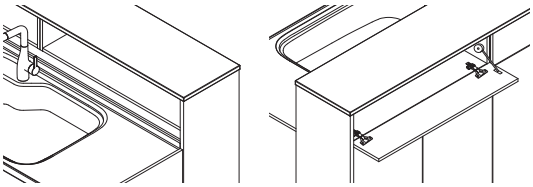
参照 7.4. 家電収納庫　P.66

8.1. デュアルトップ対面　ハイタイプ上台

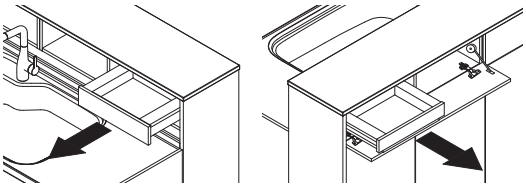
- デュアルトップ対面ハイタイプ用上台 (D980) は両面収納になっており、扉を開閉し、キッチン側からでもダイニング側からでも取り出せます。※ D800 の場合はキッチン側のみから取り出せる収納です。
- 両面引出しありのタイプは、調味料や食器、カトラリーなどの小物を両側から開閉・収納できます。
- 収納できる大きさは以下のとおりです。

オープン収納部：高さ 14cm 以内、奥行き 30cm まで。
(D800 は高さ 14㎝以内、奥行き 11㎝まで。)
両面引出し部　：高さ 11.5cm 以内、奥行き 25.5cm まで。

〈両面引出し無〉



〈両面引出し有〉



使用上の注意

必ず実行

扉を開けるときは手を添えて開ける。

扉が急に手前に飛び出る恐れがあります。

必ず実行

キャビネット内部やレール部に水滴・液だれがついた場合は、すぐに拭き取る。

キャビネットの変色やふくれ、錆びなどの恐れがあります。

必ず実行

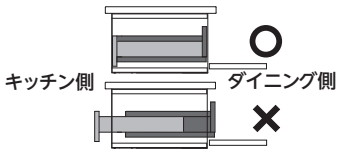
ぬれたものを直接置かない。

キャビネットの変色やふくれなどの恐れがあります。

必ず実行

両面引出しは、キッチン側引出しと、ダイニング側引出しが閉まりきっている状態になってから片側ずつ操作する。

動作不良や故障の原因となります。



必ず実行

引出しを開閉する際は、前板中央部を持ち、ゆっくりと操作する。

勢いよく閉めると反対側に引出しが飛び出し、故障や破損の原因となります。

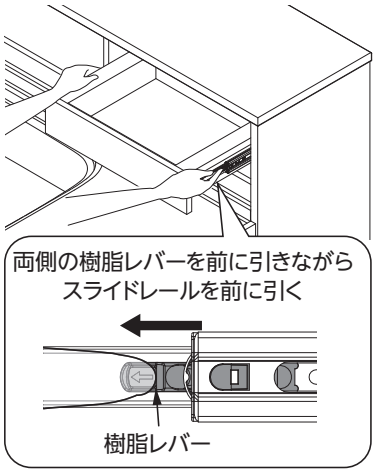
両面引出しの脱着

取り外し方

引出しを全開状態まで引き出し、両側のスライドレールの側面にある樹脂レバーを前に引きながら、レールと平行に静かに引き出す。

取り付け方

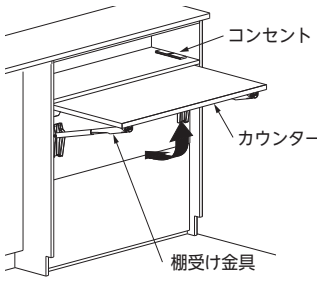
スライドレールどうしを平行に合わせ、ゆっくりと静かにグッと奥まで押す。
このとき、左右両方のスライドレールのガイド部分を収納庫内に移動しておくと、作業がやりやすくなります。



注 意　お掃除をするために、引出しを脱着する際は、必ずキッチン側から行ってください。
ダイニング側は脱着しにくいため、故障の原因となる場合があります。

8.2. デュアルトップ対面　デスクタイプ

- デュアルトップ対面デスクタイプは在宅ワーク等の用途で、作業スペースとして活用できます。
- カウンターを使用しないときはカウンターを閉じることができます。
- カウンターの重量制限は 20kg までです。



使用上の注意

注意

カウンター上で直接筆記作業を行わない。

筆記のあとが残る場合があります。

注意

カウンターを使用しない際は必ずカウンターを閉じた状態にする。

体の一部がぶつかり、ケガをする恐れがあります。

必ず実行

金具にゴミやほこりが付着していたら乾いた布で拭き取る。

ゴミやほこりが付着している状態で、カウンターの開閉を行うと金具にキズがつく恐れがあります。

禁止

カウンターに過度な力や体重をかけない。

故障の原因になります。

禁止

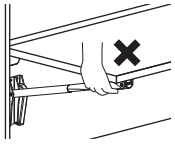
カウンターに座らない。

故障の原因になります。

禁止

横から操作をしない。

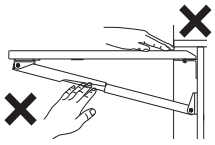
手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。



禁止

機構部や金具、本体のすき間に触れない。

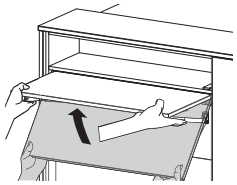
手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。



使い方

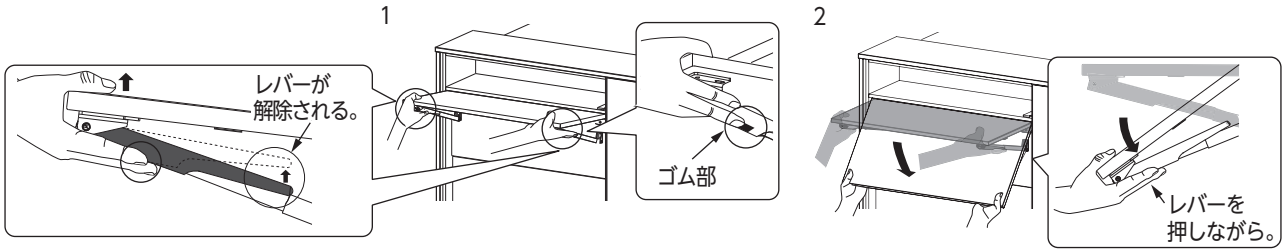
デスクタイプ用カウンターの開き方

1．カウンターを前から持ちます。
2．カウンターを”カチッ”と音が鳴るまで持ち上げてください。



デスクタイプ用カウンターの閉じ方

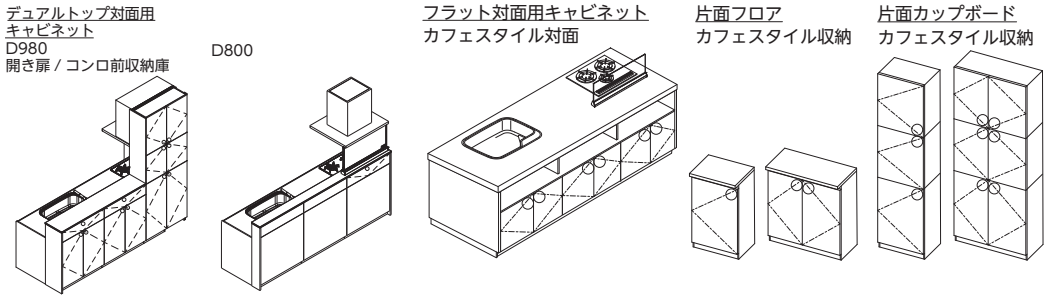
1．ゴム部に指を当てて、カウンターを持ち上げながら、左右のレバーを同時に上に押し上げる。
2．レバーを解除した状態でカウンターを下す。



9.1. プッシュラッチ・扉開放防止部品・コーナーアングル

プッシュラッチ

下図の〇付近を押すと、扉が開きます。



※耐力壁対応プラン、カウンター対面プランはイラストと異なります。
※上図のレイアウトは代表例です。開き扉はすべてプッシュオープンになります。

MEMO 押す場所やプッシュラッチの出代によっては、開閉しにくい場合があります。
〇付近を押しても開閉しにくい場合は、P.49「プッシュラッチの調節のしかた」を参照し、プッシュラッチの出代を調節してください。

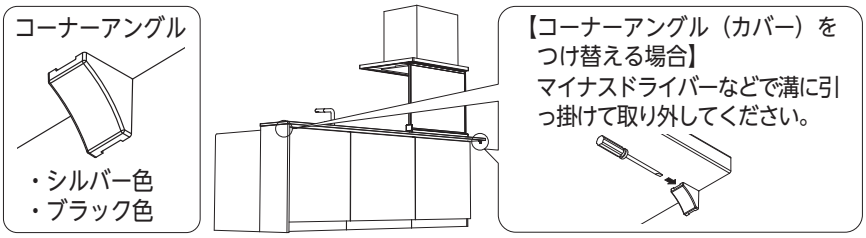
扉開放防止部品付キャビネットの使い方

- 扉開放防止部品は、地震などの揺れにより、ロック機構が働き、扉が開かなくなります。使用環境、または状況など（建物の構造・階数、吊戸棚の収納状態、振動の大きさ・性質）により、性能を十分に発揮できない場合がありますので、ご注意ください。なお、収納物の破損など（損害）については補償の対象になりません。
- 地震が終わり、揺れが止まると、自動的にロックが解除されます。ただし、収納物が扉を押した状態でロックされたままになっている場合は、収納物が破損しないように扉を奥へ静かに閉めてください。
- 扉を開ける際は収納物が出てくることもありますので、ご注意ください。

コーナーアングル

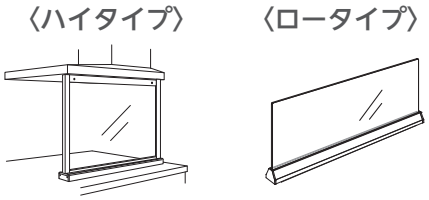
デュアルトップ対面 / ロータイプのオープンタイプ・セミ収納タイプの場合にコーナーアングルがついています。

壁やサイド化粧板と合わせてシルバー色またはブラック色を予めつけていますが色を替えたい場合は、お手元にあるシルバー色またはブラック色のカバーを付け替えてください。



9.2. フロントスクリーン

フロントスクリーンは、コンロから発生した油や煙がダイニング側へ流入するのを軽減します。



使用上の注意

禁止

金属タワシや粒子の粗いクレンザーでこすらない。

傷がつく恐れがあります。

お手入れのしかた

汚れは、中性洗剤をスポンジまたは水を含んだ布につけて洗ってください。洗った後は、水を含んだ布で洗剤を拭き取り、その後、乾いた布で十分に水気を拭き取ります。

9.3. 照明器具

使用上の注意

接触禁止

照明器具は、使用中、使用直後は照明の表面温度が高くなっているので、素手で触らない。

やけどする恐れがあります。

禁止

LED 照明を長時間直視しない。

LED 照明は輝度が高く、指向性が強いため、目を傷める恐れがあります。

禁止

LED 照明を取り外したり、分解したりしない。

器具の破損や火災の恐れがあります。

LED 照明について

- LED 照明は、約 4 万時間の点灯で、約 70%の照度になります。
- LED 照明には光のバラつきがあるため、発光性・明るさが異なる場合があります。
- 器具を使用中、近くでラジオやテレビを使用すると雑音が入る場合があります。雑音が入る場合、照明器具とラジオ、テレビの距離をできるだけ遠ざけるか、向きを変えてください。

お手入れのしかた

- 明るく安全に使用していただくため、定期的（6 カ月に 1 回程度）に清掃してください。仕上げに乾いた布でもう一度器具を拭いてください。
- 汚れは、柔らかい布に薄めたせっけん水を含ませて、硬くしぼってから、拭き取ってください。その後、乾いた布でもう一度乾拭きしてください。

9.4. 壁パネル

使用上の注意

●壁パネル（マグネット対応パネル含む）共通

禁止

パネル部にテープ類や吸盤を取り付けない。

はがすときに、表面シートがはがれる恐れがあります。

禁止

パネルに強い衝撃を与えない。また、硬いもの・鋭利なものを当てない。

傷などの損傷が生じる恐れがあります。

禁止

パネル部は粒子の粗いクレンザー類や金属タワシなどで、表面をこすらない。

傷がつく恐れがあります。

禁止

家庭用ワックス、漂白剤・硫酸、塩酸などの強酸、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤、強アルカリ、弱酸性洗剤を使用しない。

変色の原因や塗装がはがれる原因になる場合があります。

禁止

パネル部はマジック、ホワイトボード用マーカーなどを使用しない。

マジックの色が残る恐れがあります。

9.4. 壁パネル

●マグネット対応パネル

禁止

パネル部にマグネットを長期間貼り付けたままにしない。

マグネットの色がパネルに移る恐れがあります。

必ず実行

市販のマグネットを使用する場合は、収納物の重さに耐えられる保持力があるか確認してから使用する。

マグネットの保持力が弱い場合、収納物が落下して、ケガをする恐れがあります。(ネオジムマグネット推奨)

必ず実行

市販のマグネットを使用する場合は、パネル部に傷がつかないか十分に確認してから使用する。

市販のマグネットを使用する場合、パネルに傷がつく恐れがあります。

必ず実行

マグネットを取り付けるときは、加熱機器や電子レンジ等の離隔距離を守って設置する。

加熱調理機器から150㎜離してください。(間口750㎜相当のトップ プレートの場合は75㎜以上)
電子レンジなどその他の機器の離隔距離については、ご使用の機種の取扱説明書をご参照ください。

必ず実行

マグネットを取り付けるときは、水栓や昇降吊戸棚が当たらない位置であることを確認する。

マグネットや水栓、昇降吊戸棚の傷や破損、収納物が落下する恐れがあります。

お手入れのしかた

- 通常のお手入れは、綿などの柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れは、薄めた中性洗剤をスポンジなどに含ませて落としてください。次に、水を含んだ布で洗剤を拭き取り、その後、乾いた布で乾拭きしてください。
- パネル間の目地はゴミや油がつきやすいので、こまめに汚れを拭き取ってください

10.1. シンクアクセサリーパーツ

シンク周りをより使い勝手よく使用できるアクセサリーパーツです。シンク形状により対応しているパーツが異なります。よくご確認の上、ご利用ください。

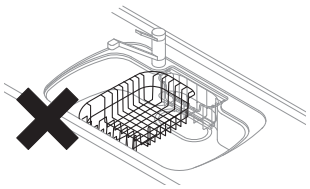
使用上の注意

●サポートプレート、水切りバスケット、まな板

禁止

シンクにしっかり載せて使う。横にスライドさせない。

落下する恐れがあります。



シンク用アクセサリーパーツ

※人工大理石用の排水プレートの★マークには、カラー記号が入ります。N(ホワイト)／G(ベージュ)／P(コーラル)／B(ブルーグレー)／R(モカ)
※SD／SBシンク用のクリンラックと一体になっているまな板ラックは仕様変更となり、別体式となっています。

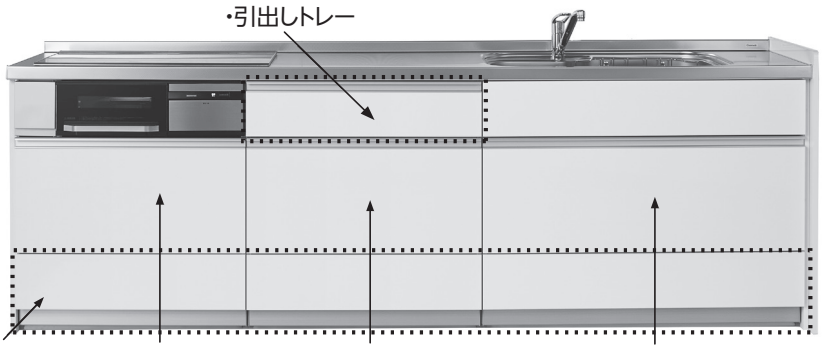
		ステンレスシンク							人工大理石シンク
お使いのシンク		SYシンク W60×D52×H18.5㎝	SAシンク W75×D52×H18.5㎝	RWシンク W90×D52×H18.5㎝	SVシンク W67×D52×H20.4㎝	SKシンク W82×D52×H21.5㎝	SDシンク W65×D48.5×H18.3㎝	SBシンク W82×D48.5×H18.3㎝	AEシンク W78×D55×H18.5㎝
キッチン奥行き		65㎝／80㎝／98㎝					60㎝		65㎝／80㎝／98㎝
付属品	クリンラック・洗剤バスケット	KAP-CK6 6,600円(税抜価格6,000円)	KAP-CK5 6,600円(税抜価格6,000円)	KAP-CK8 6,600円(税抜価格6,000円)	KAP-SP7 5,500円(税抜価格5,000円)				KAP-CK7 4,400円(税抜価格4,000円)
付属品	スリムラック	—	※クリンラックを外して、スリムラック(RWシンク用)を付け替えることができます(オプション)。	KAP-CK9 5,500円(税抜価格5,000円)	—				—
付属品	排水プレート	KAP-HP11 4,180円 (税抜価格3,800円)			KAP-HP9 3,300円(税抜価格3,000円)				KAP-HP12★ 4,180円(税抜価格3,800円)
付属品	浅型カゴ	KAP-AG3 5,500円 (税抜価格5,000円)			KAP-H2 1,650円(税抜価格1,500円)				KAP-AG3 5,500円(税抜価格5,000円)
オプション品	止水キャップ/止水フタ	ZKPLNN-K 880円 (税抜価格800円)			F-3 1,430円(税抜価格1,300円)				ZKPLNN-K 880円(税抜価格800円)
オプション品	サポートプレート	—			—	ZKPMSN-K 6,600円(税抜価格6,000円)	—		—
オプション品	サポートプレートメッシュタイプ	●ステンレス・アクリストン・セラミック用 ZKPPJN-K 6,600円(税抜価格6,000円) ●コーリアン用 ZKPPEN-K 7,700円(税抜価格7,000円)			MP-9 6,490円(税抜価格5,900円)	ZKPPKN-K 6,600円(税抜価格6,000円)	ZKPPUN-K 6,600円(税抜価格6,000円)	ZKPPGN-K 6,600円(税抜価格6,000円)	ZKPPCN-K 7,700円(税抜価格7,000円)
オプション品	まな板	—			—	MHK-1 7,150円(税抜価格6,500円)	—		—
オプション品	まな板ラック	ZKPAHN-K 2,750円(税抜価格2,500円)			ZKPAKN-K 2,750円(税抜価格2,500円)		ZKPATN-K 2,750円(税抜価格2,500円)		—
オプション品	まな板スタンド	フラット対面・セラミックワークトップ用 ZKPBNN-K 1,430円(税抜価格1,300円)							
オプション品	水切りバスケット	ZKPNNN-K 6,050円(税抜価格5,500円)			KAP-S5 6,050円(税抜価格5,500円)		ZKPNTN-K 6,600円(税抜価格6,000円)		—
オプション品	クリンコーナー	ZKPKNN-K 9,350円(税抜価格8,500円)			※ステンレス製の三角コーナーです。 SY/SA/RW/AEシンクでは、排水プレートの代わりに排水口上部に設置してお使いいただけます。				

10.2. 引出しオプションパーツ

引出しオプションパーツを使用すれば、より効率的な収納ができます。各オプションパーツの取り付け可能な引出しについては、以下のイラストを参照してください。

〈引出しオプションパーツの使用可能場所〉

〈キッチンセット側〉



〈キッチンセット以外の引出し〉
・引出しトレー

※スライドボックス付の場合、引出しオプションパーツは取り付けられません。

フロアコンテナ
・ライザー
(ZKCFNN-K)

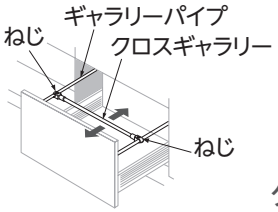
コンロキャビネット
・クロスギャラリー
・フライパン立て
・レードルポケット

ベースキャビネット
・クロスギャラリー
・ボトル立て
・レードルポケット

シンクキャビネット
・クロスギャラリー
・レードルポケット

クロスギャラリー

引出しのギャラリーパイプに取り付けることで、引出し内部を仕切ることができます。



クロスギャラリー

使用例

キャビネットの種類	間口	品番	価格
見切り材・インセットパネルなしキャビネット用	30㎝	ZKH030CN-K	1,650円（税抜価格1,500円）
	45㎝	ZKH045CN-K	1,650円（税抜価格1,500円）
	60㎝	ZKH060CN-K	2,200円（税抜価格2,000円）
	75㎝	ZKH075CN-K	2,200円（税抜価格2,000円）
	90㎝	ZKH090CN-K	2,750円（税抜価格2,500円）
	105㎝	ZKH105CN-K	3,300円（税抜価格3,000円）
見切り材・インセットパネル付きキャビネット用	75㎝	ZKH075DN-K	2,200円（税抜価格2,000円）
	90㎝	ZKH090DN-K	2,750円（税抜価格2,500円）
	105㎝	ZKH105DN-K	3,300円（税抜価格3,000円）

取り付け方、位置の調整のしかた

⊕ドライバーで両端の樹脂部にあるねじをゆるめる。調節後、ねじを締め直す。

ボトル立て

調味料などのボトルの大きさに合わせて調整できる仕切りです。
ボトルが倒れる心配がなくなり、使いやすくなります。

キャビネット間口	品番	価格
30㎝	ZKH030EN-K	2,750円(税抜価格2,500円)
45㎝	ZKH045EN-K	2,750円(税抜価格2,500円)
60㎝	ZKH060EN-K	3,300円(税抜価格3,000円)
75㎝	ZKH075EN-K	3,850円(税抜価格3,500円)
90㎝	ZKH090EN-K	4,400円(税抜価格4,000円)

ボトル立て

使用例

MEMO 取付位置の調整方法は、クロスギャラリー (P.74) と同様です。

フライパンラック（コンロキャビネット用）

コンロキャビネットの引出しに設置すれば、フライパンを立てて収納できます。

品番	価格
ZKHGNN-K	7,700円(税抜価格7,000円)

※ツールポケット・スライドボックス付のコンロキャビネットには
対応不可です。

フライパンラック

使用例

レードルポケット

おたまやしゃもじなどを入れるのに便利です。クロスギャラリーに取り付けて使用します。

品番	価格
ZKHXWN-K	1,650円(税抜価格1,500円)

レードルポケット

使用例

引出しトレー

菜箸やスプーン、調理道具を整理収納できます。

奥行き	キャビネット間口	品番	価格
45㎝	45㎝	ZKH045FB-K	3,850円(税抜3,500円)
	60㎝	ZKH060FB-K	4,400円(税抜4,000円)
	75㎝	ZKH075FB-K	4,950円(税抜4,500円)
	90㎝	ZKH090FB-K	5,500円(税抜5,000円)
奥行き	キャビネット間口	品番	価格
35㎝	45㎝	ZKH045FA-K	3,300円(税抜3,000円)
	60㎝	ZKH060FA-K	3,850円(税抜3,500円)
	75㎝	ZKH075FA-K	4,400円(税抜4,000円)
	90㎝	ZKH090FA-K	4,950円(税抜4,500円)

引出しトレー

使用例

10.3. 便利アイテム

タオル掛け

シンクキャビネット専用のタオル掛けです。取っ手よりも高い位置にタオルを掛けられるので、使いやすい高さで、引出しにはさまる心配なくタオルが使用できます。

対応している取っ手の種類	品番	色	価格
ライン取っ手用	ZKHTDN-K	バー部：シルバー 樹脂部：ライトグレー	3,300円(税抜価格3,000円)
	ZKHTDB-K	バー部：ブラック 樹脂部：ブラック	3,300円(税抜価格3,000円)
ショートタイプ取っ手用	ZKHCAN-K	バー部：シルバー 樹脂部：ライトグレー	3,300円(税抜価格3,000円)
	ZKHCAB-K	バー部：ブラック 樹脂部：ブラック	3,300円(税抜価格3,000円)

※タオル掛けを取っ手代わりに引っ張らないでください。
※ショートタイプ取っ手用のタオル掛けの取付金具はステンレス色になります。

タオル掛け

使用例

フロアコンテナ用ライザー（米びつ）

高さ 85㎝以上、間口 45㎝以上、奥行き 65㎝のキャビネットのフロアコンテナ内に収納できます。お米が約 11 kg 入る容量があります。

品番	価格
ZKCFNN-K	4,400円(税抜価格4,000円)

※既設排水管対応シンクキャビネット、深型食器洗い乾燥機用ベースキャビネット、食器洗い乾燥機用 1 段引出しベースキャビネットには対応不可です。
※引出し奥行き35㎝以下のフロアコンテナには収納できません。

フロアコンテナ用ライザー

使用例

ハンドムーブ用オプション

ハンドムーブに設置すれば、調理道具や食器等を収納するのに便利です。

●収納タイプ用

サポートラック

調味料ポット（高さ 12㎝まで）等を収納できます。
最大収納量は約 3kgです。

品番	価格
ZKMKNN-K	7,700円(税抜価格7,000円)

サポートラック

使用例

ペーパーラック

キッチンペーパー（直径 12㎝×長さ 27㎝まで）を立てて収納しながらお使いいただけます。

品番	価格
ZKMJNN-K	5,500円(税抜価格5,000円)

ペーパーラック

使用例

●水切りタイプ用

皿立てラック

中皿、大皿（直径 23㎝、11 枚まで）を収納できます。

品番	価格
ZKMSNN-K	5,500円(税抜価格5,000円)

皿立てラック

使用例

レードルラック

レードル類（長さ 31㎝まで）を掛けて収納できます。

品番	価格
ZKMENN-K	3,300円(税抜価格3,000円)

レードルラック

使用例

まな板ラック

まな板（47㎝× 23㎝まで）を収納できます。

品番	価格
ZKMMNN-K	5,500円(税抜価格5,000円)

まな板ラック

使用例

カトラリーラック

箸やカトラリー類（長さ 30㎝まで）を収納できます。

品番	価格
ZKMCNN-K	5,500円(税抜価格5,000円)

カトラリーラック

使用例

ご注文はこちらへ。

クリナップオンラインショッピング　http://style.cleanup.jp/　クリナップオンライン

●商品仕様、価格および諸費用を予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
●予告なく廃番・製造中止等により供給できない場合があります。

11.1. Q & A

Q . 排水の流れが悪いです。

A . 次の点をご確認ください。
- シンクの浅型カゴにゴミがたまっていませんか？
- シンクの排水口周りが汚れていませんか？お手入れについては以下のページを参照してください。

参照　部品ごとのお手入れ方法　P.32 ～ 33

- 排水管が汚れていませんか？集合住宅などで行う排水管洗浄については以下のページを参照してください。

参照　集合住宅などにおける集中洗浄（高圧洗浄）時の留意点　P.32

Q . 排水口が臭います。

A . 防臭パイプが汚れていませんか？お手入れについては以下のページを参照してください。

参照　部品ごとのお手入れ方法　P.32 ～ 33

Q . 排水口から " ゴボゴボ " 音がします。

A . 流れる水の量が多いと、空気を巻き込んで音がすることがあります。異常ではありません。

Q . 開き扉がガタつきます。

A . 取っ手、または丁番や座を取り付けているねじがゆるんでいませんか？
ねじがゆるんでいる場合は、⊕ドライバーで締めなおしてください。

Q . 引出しがきちんと閉まりません。

A . 隣接するキャビネットの引出し前板が当たっている場合は、引出し前板を調整してください。

参照　引出し前板の調整のしかた　P.51

Q . 害虫（ゴキブリ）が入ってきます。

A . ゴキブリは小さなすき間でも侵入できます。虫が好む環境（暗部、湿気、食べ物）をなるべくなくしましょう。
- 食器などは水滴を拭き取ってから収納する。
- 開封した食品は樹脂容器等に入れる。
- ときどき、扉を開放して換気する。

Q . ステンレスに落ちにくい汚れ（水あかなど）がついてしまったらどうしたらいいですか？

A . お手入れについては以下のページを参照してください。

参照　・ステンレスワークトップ（カウンター類を含む）、ステンレスシンクのお手入れ　P.27
・美コート（セラミック系特殊コーティング）が施されているシンクに使用できる洗剤・洗浄具　P.28

Q . ステンレスにもらいサビしてしまったらどうしたらいいですか？

A . ①さびた部分に小さく折りたたんだキッチンペーパーを載せて、その上からレモン汁を十分に含ませます。
②レモン汁が蒸発しないように、ラップフィルムを掛けて放置します。軽いサビなら 1 日程度で除去できます。

保　証　書

◎ システムキッチン用

シリーズ・品番	STEDIA	出張修理

保　証　期　間	取付・設置日から2年間	★取付・設置日	年　　月　　日

★お客様	ご住所		
	お名前	様　TEL　（　　）	
★販売店	住所 店名	TEL　（　　）	㊞ またはサイン

見本

ご販売店様へ　上記★印欄は必ず記入してお渡しください。

無料修理規定

★印欄に記入がない場合は、商品に貼付されている検査済証に記載のロットNo.などから確認できる製造年月日により、保証期間の開始日を認定させていただきます。

本保証書は、取付・設置日から本保証書に明示した期間中故障が発生した場合には、無料修理規定の内容で無料修理を行うことをお約束するものです。

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、下記クリナップカスタマーセンターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
   保証期間中は無料修理になりますので、修理に際しては必ず本保証書をご提示ください。
2. 修理が保証期間中の無料修理に該当するかどうか、また、アフターサービスについてご不明な点がございましたら、下記クリナップカスタマーセンターまたはお買い上げの販売店にご相談ください。
3. ご転居の場合の修理依頼先は、下記クリナップカスタマーセンターまたはお買い上げの販売店にご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には、原則として有料にさせていただきます。
   (1) 使用上の故意・過失または不適切な修理や、改造による故障および損傷。
   (2) 消耗部品（照明の管球、グローランプ、パッキンなど）の取り替えや修理、ストレーナーのゴミづまりなどによる故障および損傷。
   (3) お買い上げ後の取付・設置場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
   (4) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変および公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）による故障および損傷。
   (5) 車両、船舶などに取付・設置された場合に生じる故障および損傷。
   (6) 仕上げの傷などで、お引き渡し時に申し出がなかったもの。
   (7) 瑕疵（かし）によらない自然の損耗、サビ、カビ、変質、変色、その他類似の事由による場合。
   (8) 維持管理の不備による汚れ、サビ、給水管、排水管のつまりなどの不具合。
   例えば、塩素系の洗剤、漂白剤、ヌメリ取り剤の使用によるシンク、カウンターのサビや腐食。
   (9) 第三者による管理上、メンテナンス上などの不備に起因する不具合。
   例えば、ハウスクリーニング業者が指定の洗剤以外のクリーニング剤を使用してシンク、カウンター、扉などに変色や腐食が生じた場合、また、禁止されている方法で洗浄剤などを噴霧あるいは塗布したことによって機器の作動不良が生じた場合。
   ならびに、浄化槽や洗浄剤から発生するガスによるシンクや金属部品の腐食。
   (10) タバコの火、商品を傷める薬品（有機溶剤、塩素系洗剤、強酸，強アルカリ性洗剤など）の使用により、発生した損傷。
   (11) 犬・猫・鳥・鼠などの小動物や虫などの害に起因する故障および損傷。
   (12) 取付・設置説明書に記載された方法以外の取付・設置、または工事内容に起因する故障および損傷。
   (13) 建築躯体（くたい）の変形（強度不足、ゆがみ）など商品以外の不具合に起因する故障および損傷。
   (14) 異常電圧や指定外の燃料・電源（電圧・周波数）の使用および異常水質による故障および損傷。
   (15) 契約時、実用化されていた技術では予防することが不可能な現象またはこれが原因で生じた事故による場合。
   (16) 一般家庭用以外（例えば業務用など）に使用された場合の故障および損傷。
   (17) 取付・設置完了後、引き渡し日までの間の管理などの不備による故障および損傷。
   (18) 保証期間経過後に申し出があった、もしくは、保証該当事項の発生後、速やかに申し出がなかった故障および損傷。
   (19) 本保証書のご提示がない場合。
   (20) 本保証書に取付・設置年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合（領収書などで左記内容がわかる場合はその限りではありません）、あるいは字句を書き換えられた場合。
   (21) 離島または離島に準じる遠隔地へ出張修理を行う場合の出張に要する実費。
5. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。　This warranty is valid only in Japan.
6. 本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

※お客様にご記入いただいた個人情報は、保証期間内の無料修理対応およびその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がございますのでご了承ください。

※本保証書は、明示した期間、条件の基において無料修理をお約束するものです。
したがって、本保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、下記クリナップカスタマーセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

※修理記録（年月日、修理内容、修理者名など）については、修理の際に修理伝票をお渡しいたしますので、大切に保管してください。

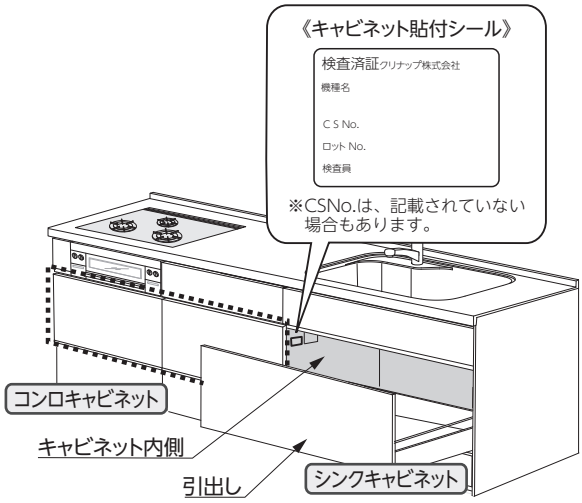
ご相談窓口　：　クリナップカスタマーセンター　TEL　0120-126-174

クリナップ株式会社

〒116-8587　東京都荒川区西日暮里 6-22-22

修理の依頼について

この取扱説明書をよくお読みの上、再度点検して異常のあるときは、工事店・販売店、または下記のクリナップカスタマーセンターまでご依頼ください。
また連絡する際は、お名前、ご住所、お電話番号、ご購入年月日、症状およびシンクキャビネット引出しを開け、内部をご確認いただき、貼付してある検査済証の機種名・CSNo.・ロット No. もあわせてお知らせください（シンクキャビネットで確認できない場合は、下図の⬚のコンロキャビネットなど、ほかのキャビネットの内側でも確認できます）。



《お客様メモ》アフターサービスのご連絡に便利です。

ご購入年月日	年　月　日
ご購入店名	
	☎

廃棄処分のしかた

この商品を廃棄処分する場合は、必ず公的な許可を受けている処理業者にご依頼ください。

アフターサービスのご用命

●ご使用にあたってご不明な点や、お気づきの点がございましたら、お買い求めの販売店または下記クリナップカスタマーセンターまでお問い合わせください。

●お電話でのご用命

0120-126-174　通話料 無料

クリナップカスタマーセンター

●インターネット窓口（クリナップホームページ内）
https://cleanup.jp/support/
右の2次元コードで［お客様サポートサイト］へ

受付時間　9:00～17:00

＊9:00～11:00および12:00～13:00は混みあいます。
＊年末年始はお休みさせていただきます。
＊諸般の事情により営業日、受付時間が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。
＊インターネット窓口では、Q&A（よくあるご質問）をご紹介しております。
修理、お問い合わせは専用ページでも受付しております。

お電話は、内容の確認と商品機能やサービスの質の向上などを目的として、記録・録音させていただくことがあります。
あらかじめご了承ください。なお、個人情報保護方針はhttp://cleanup.jp/に公表しております。

レンジフードフィルターなどの訪問販売に関するご注意	クリナップの名前をかたって、レンジフードの交換用フィルターなどを訪問販売したり、電話で注文を取ろうとする業者がありますが、当社とは一切関係ございませんので十分ご注意ください。

クリナップ株式会社
〒116-8587　東京都荒川区西日暮里 6-22-22